

「認知症の人にやさしい地域づくり」に向けた
シルバー人材センターの地域福祉への貢献可能性に関する研究事業
報告書

2025年3月

社会福祉法人 東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

目次

第1章 要約	1
1. 研究の目的	
2. 研究の実施体制	
3. 方法	
4. 主な結果と考察	
第2章 事業の概要	7
1. 研究の背景	
2. 研究の目的	
3. 方法	
4. 回収状況	
5. 解釈上の留意点	
第3章 認知機能低下があっても活躍できる体制作り	15
1. 認知機能低下がある会員の就業状況	
2. 仲間同士の支え合いと就業	
3. 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制	
4. まとめ	
第4章 SC活動を通じた健康増進	31
1. 就業とセルフケア	
2. 就業と幸福感	
3. 就業とフレイル	
4. まとめ	
第5章 地域における互助の牽引	49
1. 地域との関わり	
2. 地域への愛着・支援意向	
3. 地域の異変への気づき	
4. まとめ	
第6章 地域福祉の担い手としての参画可能性	63
1. 福祉関係の活動への関心	
2. 認知症への理解	
3. まとめ	
第7章 資料編	73
1. アンケート調査の単純集計	
2. 調査資料（アンケート票、インタビューガイド）	



第 1 章 要 約





1. 研究の目的

2024年「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（以下認知症基本法）が施行され、すべての国民には認知症と共に生きる人が尊厳を保持し暮らすことができるよう、正しい知識と理解を深めることが求められています。つまり今、地域の福祉の底上げが重要な課題となっているのです。

シルバー人材センター（以下SC）は、地域の高齢者の社会参加・地域貢献を促進することと、地域の活性化を目的に設立された組織であり、近年は地域福祉の支え手となることが期待されています。とくにこれまで蓄積した高齢者就業のノウハウを活用し、認知機能低下があっても活躍できる体制整備の追求と「支え手」としての高齢者像の発信は重要な使命といえるでしょう。

本研究事業は、共生社会の実現に向けてSCが地域福祉にどのように貢献できるのかを明らかにすることを目的に、以下①～④のリサーチクエスションの検証を行いました。

図表 1-1 本研究事業のリサーチクエスション

<p>①認知機能低下があっても活躍できる体制作り</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知機能低下がある会員の就業状況は？・ 仲間同士の支え合いが就業継続につながるか？・ 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制は？	
<p>②SC活動を通じた健康増進</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員の健康管理の状況や健康状態は？・ SCで活発に活動している会員ほど健康管理や健康状態が良好か？	
<p>③地域における互助の牽引</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員の地域でのネットワークや地域への支援意向は？・ SC活動を通じた地域の異変への気づき(さりげない見守り)はあるか？	
<p>④地域福祉の担い手としての参画可能性</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員は福祉関係の仕事や活動に関心があるか？・ 会員の認知症への理解はどの程度か？	

2. 研究の実施体制

本研究事業は、仙台市 SC と認知症介護研究・研修仙台センターが 2023 年 12 月に企画の検討を開始し、2024 年 4 月より共同研究事業として始動しました。

図表 1-2 本研究事業の実施体制



3. 方法

(1) アンケート調査

仙台市 SC に 2024 年 6 月末時点で会員登録している高齢者全数（n=2,871）に対して、郵送法により無記名の自記式アンケート調査を行いました（調査票は第 7 章参照）。調査期間は 2024 年 6～8 月でした。

図表 1-3 主な調査項目

分類	主な評価内容
認知症の人との関わり・態度	地域における異変への気づきの状況、認知症の人への態度、認知症に関する研修への参加状況等
地域・人とのつながり	地域への愛着・支援意向、近所付き合い、センター以外での活動状況、ソーシャル・サポート等
SC での活動状況	入会年、就業状況（頻度、時間、就業内容）等
健康状態	主観的幸福感、フレイル、健康のために心がけていること、認知機能、食品摂取多様性等
仲間同士での支え合い	健康状態が心配な就業仲間の有無・状況、就業上のサポート経験の有無・内容
基本属性	性、年齢、家族構成、経済状況、教育歴等

(2) インタビュー調査

上記 (1) アンケート調査回答者から、「認知機能の低下が心配される仲間の会員への就業上のサポートの経験」について「ある」と回答した者から 9 名（男性 7 名、女性 2 名）を抽出し、半構造化面接を実施しました。調査は 2024 年 11 月に行いました。調査では、サポートの詳細な内容について聴取しました。

(3) 倫理的配慮

全ての調査は、認知症介護研究・研修仙台センター倫理審査委員会の承認（24K01）を得た上で実施しました。

4. 主な結果と考察

(1) 認知機能低下があっても活躍できる体制作り

■ 認知機能低下がある会員の就業状況は？

- ・軽度認知症に相当する会員は約 4.1%で、その約 6 割が月 1 回以上定期的に就業していました。その就業頻度や作業時間は比較的短く、個々の健康状態を考慮した、負担の少ない柔軟な働き方が実現していると考えられました。

■ 仲間同士の支え合いが就業継続につながるか？

- ・認知機能低下がある会員において、仕事仲間からの支え合いを実感しているほど、「仕事が自分に合っている」「自分のペースで仕事ができる」という回答率が高い傾向にありました。このことから、仲間同士の支え合いが、認知機能低下がある会員の就業継続を促進する要因である可能性が示唆されました。
- ・認知機能低下がある会員への仲間同士での支え合いの事例として、【作業を手伝う】【軽作業を割り振る】【さりげない見守り】【作業日時の再連絡】【失敗を指摘しない】【楽しく仕事できるような声掛け】が確認されました。
- ・仲間を支えた経験のある会員へのインタビューからは、「お互い様」「仕方がない」という言葉が共通して使われており、高齢者同士だからこそ、互いの健康状態を理解し、受け入れる姿勢が伺えました。

■ 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制は？

- ・認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制として【仲間との支え合い】【健康について相談できる体制】【健康状態に合わせた仕事の紹介】【健康状態を把握できる体制】【仕事以外の活動の紹介】【発注者側の理解】【健康管理の研修会】が挙げられました。
- ・今後は、会員における認知機能の低下への理解を深めるとともに、働き方の選択肢の充実化および、会員が気軽に健康について把握し、相談できる体制の検討が重要であることが示唆されました。

(2) SC 活動を通じた健康増進

■ 会員の健康管理の状況や健康状態は？

- ・会員の多くは積極的に健康管理に取り組んでおり、とくに「健康診断の定期受診」(72.6%)「十分な休養や睡眠」(70.3%)の実施率が高い結果でした。
- ・また幸福感は平均 7.2 点 (0~10 点で高いほど良好) と高い値を示しました。
- ・フレイルの該当状況は、プレフレイルが 59.1%、フレイルが 21.6%でした。これは後期高齢者が多く所属する集団としては決して高い値ではありませんが、今後会員の健康管理をより充実化する必要性を示唆しています。

■ SC で活発に活動している会員ほど健康管理や健康状態が良好か？

- ・健康管理の取り組みのうち、「十分な休養や睡眠」は SC での就業頻度が高い会員ほど実施率が高い結果でした。一方で、「健康診断の定期受診」は、就業頻度が高い会員で低い傾向にあり、今後は高い頻度で働けている元気な会員においても、健康診断の受診を一層推奨する必要性が示唆されました。
- ・幸福感は、「月 1~3 回」の頻度で就業している会員で、とくに高い傾向にありました。
- ・フレイルの該当率は、年齢を考慮しても、SC で就業をしていない会員で最も高い結果でした。このことから、SC で就業している会員は、就業していない会員に比べて健康状態が良好である可能性が示唆されました。

(3) 地域における互助の牽引

■ 会員の地域でのネットワークや地域への支援意向は？

- ・会員の多くは「会えば挨拶をする」「外でちょっと立ち話をする」など、地域とのゆるやかなつながりを有しており、とくに年齢が高い会員ほど近所付き合いを重要視している傾向にありました。
- ・また会員の 9 割が、「地域で困っている人がいたら助けたい」という地域への支援意向を有していることが分かりました。

■ SC 活動を通じた地域の異変への気づきはあるか？

- ・ 会員の約 4 割が SC 活動を通じて、何らかの地域家庭の異変に気づいていることが分かりました。特に「庭が荒れている家がある」「新聞や郵便物がたまっている家がある」の項目で異変を察知している割合が高い結果でした。
- ・ また、高齢発注者の「同じ話を繰り返す」「仕事の依頼を忘れる」などの認知機能の低下が疑われる様子に気づいたケースも確認されました。この結果は、SC の活動を通して、会員が自然に地域のさりげない見守りを行っていることを示しています。

(4) 地域福祉の担い手としての参画可能性

■ 会員は福祉関係の活動に関心があるか？

- ・ 会員の約 3 割が、「福祉関係の活動に関心がある」ことが分かりました。
- ・ 特に、家族の介護をしている会員で、福祉関係の活動へ関心が高い傾向にあり、自身の経験を活かしたいと考える会員が多いことが考えられました。
- ・ 一方男性会員では、福祉関係の活動に関心が高いほど、SC での就業率が低い傾向にありました。したがって今後は、男性会員が参画できる福祉関係の就業などの活躍の機会を増やすことが重要でしょう。

■ 会員の認知症への理解はどの程度か？

- ・ 認知症の人への態度尺度への回答結果から、会員の多くは、受容的な態度を有していることが分かりました。
- ・ 一方、認知症の症状に関する項目については、受容的な態度の回答が少ない傾向にありました。
- ・ また「認知症に関する相談窓口を知っている」会員は、約 4 割に留まったことから、認知症に関する情報提供に注力することが必要と考えられました。



第2章 事業の概要

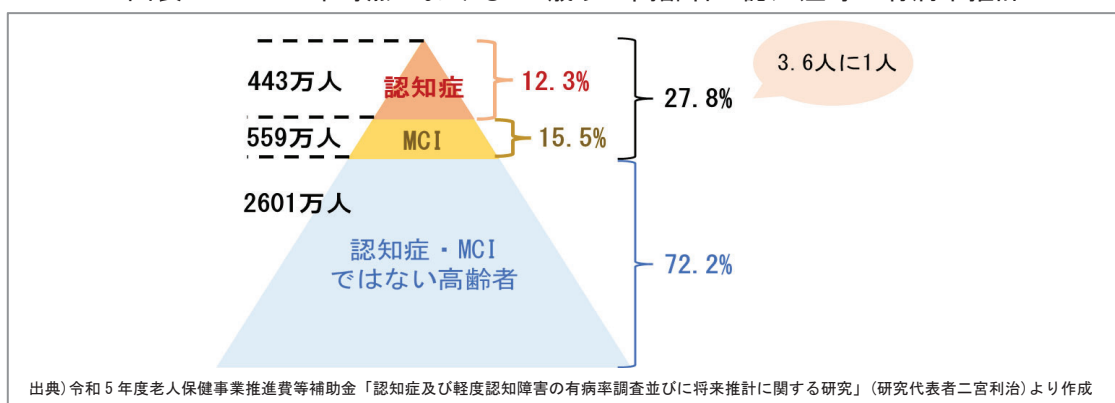
1. 研究の背景

(1) 認知症予防ではなく共に生きる社会へ

2022年の調査によれば¹、日本における認知症を有する高齢者は約443万人、軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment, 以下MCI）は約559万人と推計されています。これは、高齢者の約3.6人に1人が、認知症やその予備群であることを示しており、認知症は誰もがなり得る、非常に身近な病気であることが分かります。

こうした状況の中、認知症を有する人とその周囲の人々が尊厳を保ちながら安心して暮らせる社会を実現するためには、地域の一人一人が認知症に関する正しい知識と理解を持つことが重要です。そして認知症の予防に注視するのではなく、認知症と共に生きるための地域づくりや体制整備に力を入れることが求められています。

図表 2-1 2022年時点における65歳以上高齢者の認知症等の有病率推計



(2) 認知症基本法が後押しする「支え合い」の重要性

2024年1月に施行された認知症基本法は、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（以下共生社会）の実現を推進することを目的としています。本法は、医療・福祉の専門職に限らず、すべての国民が地域における支え合いの一員となることを求めており、「互助」の重要性を再認識させる契機となっています。

図表 2-2 認知症基本法が示す「新しい認知症観」

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という考え方

出典：「認知症施策推進基本計画」より作成。

(3) シルバー人材センター(SC)に今求められていること

SCは地域の高齢者の社会参加・地域貢献の促進と、地域の活性化を目的に創設された組織です。高齢者にエイジレスな活躍の機会を提供する先駆者として、近年は地域福祉の支え手としての役割が期待されています。では共生社会の実現に向けて、SCは地域福祉にどのように貢献することができるのでしょうか。

1) 認知機能低下があっても活躍できる体制づくり

認知症基本法では「認知症の人の社会参加の機会の確保等」が基本計画として掲げられています。しかし、仕事を続けるための体制整備については、若年性認知症（65歳未満で発症する認知症）の人を対象とした議論が中心であり、認知機能が低下した高齢の就業者に関する検討は十分ではありません。

SCでは会員の高齢化が顕著であり、2023年時点の全国の会員の平均年齢は74.8歳です²。こうしたなか、自身や仲間の認知機能の低下を心配する会員も少なくないかもしれません。それでも「働きたい」「地域の役に立ちたい」という意欲がある限り、「SCでなら安心して活動できる」と思える体制整備が必要です。そしてこのような体制整備が進むことは、SCだけでなく一般企業などでも応用可能な知見となり、共生社会の実現に向けた貴重な財産となるでしょう。

2) SC活動を通じた健康増進

高齢期の社会参加による健康増進効果は数多くの研究報告があります^{3,4}。SCでの就業においても、要介護状態の前駆的な段階を示す「フレイル」（第4章参照）の改善効果が報告されています⁵。

SCでの活動を通じて健康増進が図られることは、単に個人の生活の質を向上させるだけでなく、「地域の支え手として活躍する高齢者像」を示すことにもつながります。さらに長期的には、介護費用の抑制効果が期待でき、ひっ迫する地域福祉の状況を改善する一助となるでしょう。

3) 地域における互助の牽引

福祉の担い手不足が深刻化するなか、住民同士の互助（支え合い）が果たす役割は極めて大きなものです。特に、住民同士による「あの人最近見かけない」「このお宅庭が荒れているな」といった小さな異変に気づく“さりげない見守り合い”は、高齢世帯の孤立を防ぐ観点からも重要です。

こうしたなか SC は地域の互助の促進に貢献できる可能性を秘めています。なぜなら、SC の会員にとって地域は「居住の場」であると同時に「活動の場」でもあるからです。会員は SC での就業や活動を通じて地域を歩き、住民と関わり、地域の情報に触れるという幅広いネットワークを持っています。このことは、“さりげない見守り合い”を実践する上で重要であり、地域の互助を牽引することに寄与するでしょう。

4) 地域福祉の担い手としての参画可能性





地域福祉を担う人材の不足が深刻化する中、全国の SC では、地域のニーズに応じた福祉の担い手としてさまざまな活動を展開しています。具体的には、高齢世帯へのゴミ出しや買い物といった家事援助、保育支援、障がい者支援など、生活に密着した支援を提供し、地域福祉の現場に貢献しています。

特に家事援助や生活支援サービスでは、支援を受ける側の多くが高齢者であるため、認知症や高齢期特有の健康状態に関する理解が支援の質を向上させる上で重要です。SC 会員がこうした理解を深め、積極的に活動に参画することは、会員自身がこれまでの暮らしで培った知識や経験を活用する機会となり、地域福祉の充実につながります。さらに、これらの経験は、自身が加齢により支援を必要とする立場になった際、安心してサービスを利用できる基盤ともなるでしょう。

2. 研究の目的

本研究事業は、共生社会の実現に向けて SC が地域福祉にどのように貢献できるのかを明らかにすることを目的に、以下①～④のリサーチクエスションの検証を行いました。

図表 2-3 本研究事業のリサーチクエスション(再掲)

<p>①認知機能低下があっても活躍できる体制作り</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知機能低下がある会員の就業状況は？・ 仲間同士の支え合いが就業継続につながるか？・ 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制は？	
<p>②SC 活動を通じた健康増進（元気高齢者の輩出）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員の健康管理の状況や健康状態は？・ SC で活発に活動している会員ほど健康管理や健康状態が良好か？	
<p>③地域における互助の牽引</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員の地域でのネットワークや地域への支援意向は？・ SC 活動を通じた地域の異変への気づき(さりげない見守り)はあるか？	
<p>④地域福祉の担い手としての参画可能性</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会員は福祉関係の仕事や活動に関心があるか？・ 会員の認知症への理解はどの程度か？	

3. 方法

(1) アンケート調査

1) 対象者

仙台市 SC に 2024 年 6 月末時点で会員登録している高齢者全数（n=2,871）を対象としました。

2) 方法

本研究では、郵送法による無記名の自記式アンケート調査を実施しました。アンケート票は仙台市 SC から会員の自宅へ郵送され、回答票は認知症介護研究・研修仙台センターに直接返送される仕組みでした。これにより、仙台市 SC 事務局が個々の回答内容を把握することはできません。さらに、アンケート票には氏名の代わりに、分析用の ID 番号を付与することで、回答内容と回答者氏名を照合できないようにしており、個人情報の保護を徹底しました。

調査では、認知症の人との関わりや、地域とのつながり、SCでの活動、健康状態等について把握しました。調査期間は、2024年6～8月でした。

図表 2-4 主な調査項目(再掲)

分類	主な評価内容
認知症の人との関わり・態度	地域における異変への気づきの状況、認知症の人への態度、認知症に関する研修への参加状況等
地域・人とのつながり	地域への愛着・支援意向、近所付き合い、センター以外での活動状況、ソーシャル・サポート等
SCでの活動	入会年、就業状況（頻度、時間、就業内容）等
健康状態	主観的幸福感、フレイル、健康のために心がけていること、認知機能、食品摂取多様性等
仲間同士での支え合い	健康状態が心配な就業仲間の有無・状況、就業上のサポート経験の有無・内容
基本属性	性、年齢、家族構成、経済状況、教育歴、家事・介護の状況、スマートフォンの活用状況

(2) インタビュー調査

1) 対象者

アンケート調査回答者から、「認知機能の低下が心配される仲間の会員に対するサポート経験」について「ある」と回答した者9名（男性7名、女性2名）でした。

2) 方法

インタビューガイド（詳細は第7章参照）を用いた個別のインタビュー調査をSC会議室にて実施しました。調査では、「認知機能の低下が心配される仲間の会員へのサポートの内容」や「認知機能の低下があっても、SCで安心して働くために必要な体制」について聴取しました。調査は2024年11月に仙台市SC会議室にて行いました。1回あたりのインタビュー時間は25～40分でした。

(3) 倫理的配慮

本事業の全ての調査は、認知症介護研究・研修仙台センター倫理審査委員会の承認（24K01）を得て実施しました。また、調査協力者には書面にて調査概要および個人情報保護の方法等について提示し、同意を得た上で調査を行いました。

(4) 研究資金

本事業は、日本学術振興会科学研究費助成事業（23K12677）の助成を得て実施しました。

4. 回収状況

配布数は2,871件、全項目無回答を除く有効回収数は1,207件(42.0%)でした。

図表 2-5 配布・回収状況

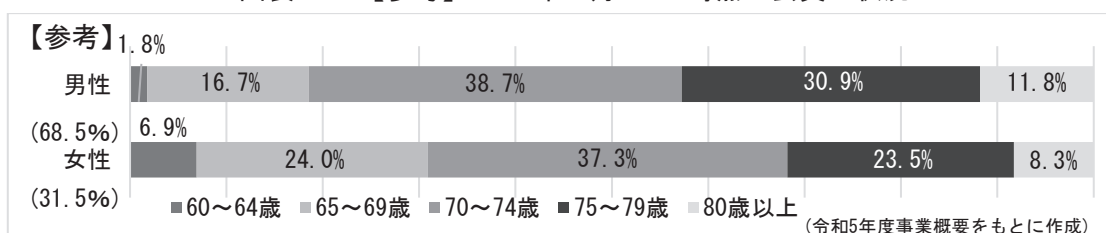
	件数 (%)
配布数	2,871 件
有効回収数	1,207 件 (42.0%)

表 2-6 に性年齢階層別の回収状況を示しました。2023 年時点の会員全体の構成割合（図表 2-7）と比較しても大きな差はなかったことから、性年齢偏りなく回答が得られたといえます。

図表 2-6 性年齢階層別のアンケート票の回収状況

	男性		女性		無回答		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%
60～64 歳	11	1.4%	27	6.3%	1	5.0%	39	3.2%
65～69 歳	120	15.8%	100	23.5%	3	15.0%	223	18.5%
70～74 歳	250	32.9%	160	37.6%	1	5.0%	411	34.1%
75～79 歳	264	34.7%	97	22.8%	1	5.0%	362	30.0%
80 歳以上	113	14.8%	38	8.9%	0	0.0%	151	12.5%
無回答	3	0.4%	4	0.9%	14	70.0%	21	1.7%
	761	100.0%	426	100.0%	20	100.0%	1207	100.0%

図表 2-7 【参考】2023 年 3 月 31 日時点の会員の状況



5. 解釈上の留意点

- 本報告書における割合の表示は、小数点第2位を四捨五入した値を示しているため、表記された数値の合計が100%にならない場合があります。
- また、分析では使用する評価項目において欠損のないデータを用いるため、評価項目ごとに対象者数が異なる場合があります。
- SCでの就業内容(問3の4)については、「その他」の回答が多かったことから、「その他」の自由記述回答を参考に、新たに5区分(事務仕事、屋外作業、屋内作業、植木剪定・除草作業、その他)に再分類し用いました(分類困難なものはその他のまま)。


第2章の引用文献：

1. 国立大学九州大学. 認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに 将来推計に関する研究. 2023.
2. 公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会. 令和5年度統計年報. 2024.
3. Baxter S, Blank L, Cantrell A, Goyder E. Is working in later life good for your health? A systematic review of health outcomes resulting from extended working lives. *BMC Public Health* 2021; 21: 1-11.
4. Van Der Noordt M, IJzelenberg H, Droomers M, Proper KI. Health effects of employment: A systematic review of prospective studies. *Occup Environ Med* 2014; 71: 730-736.
5. Morishita-Suzuki K, Nakamura-Uehara M, Ishibashi T. The improvement effect of working through the Silver Human Resources Center on pre-frailty among older people: a two-year follow-up study. *BMC Geriatr* 2023; 23: 1-8.



第3章

認知機能低下があっても
活躍できる体制作り



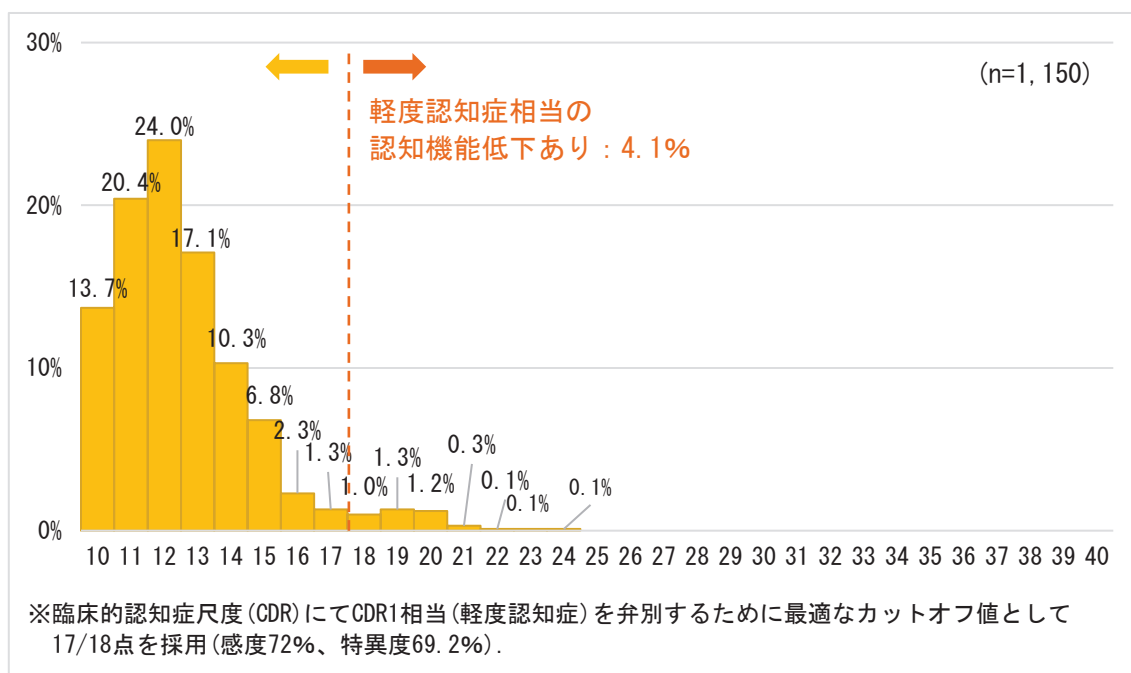
1. 認知機能低下がある会員の就業状況

(1) 認知機能低下がある会員の割合

ここでは「自記式認知症チェックリスト」^{1,2}を用い、認知機能の状況について把握しました。

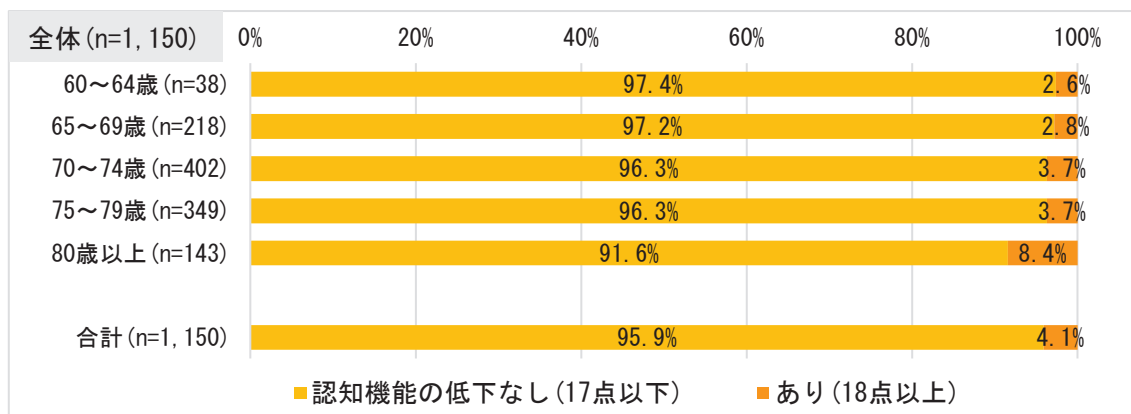
図表 3-1 は、得点の分布を示しています。4.1%が軽度認知症相当の認知機能低下に該当することが分かりました。この割合は後期高齢者が多く所属する組織として特別高い値ではありませんが、今後は会員の認知機能に配慮した活動の提供など、体制を整える必要性が示唆されています。

図表 3-1 自記式認知症チェックリストの得点分布

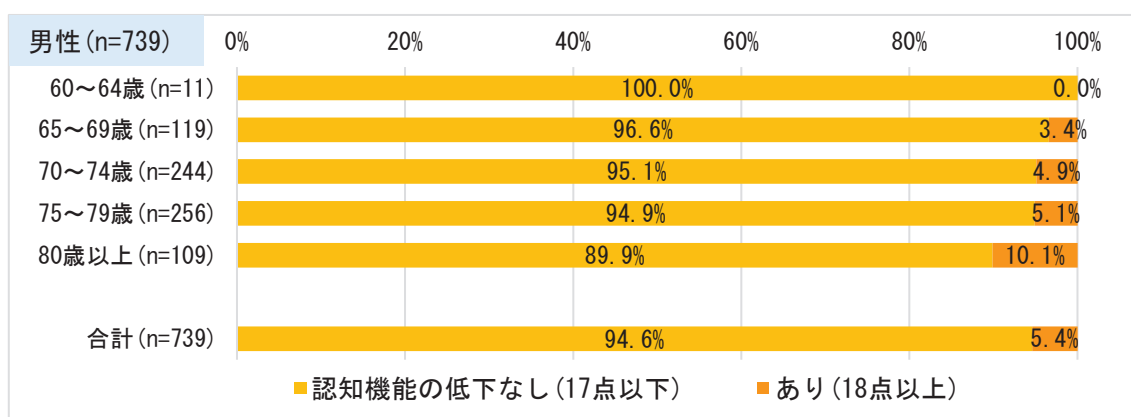


図表 3-2～4 は、年齢階層別の認知機能低下の状況を示しています。全体と男性では、高齢層ほど認知機能低下ありの割合が高い傾向にありました。一方女性では、60～64歳層で認知機能低下ありの割合が最も高い結果でした。

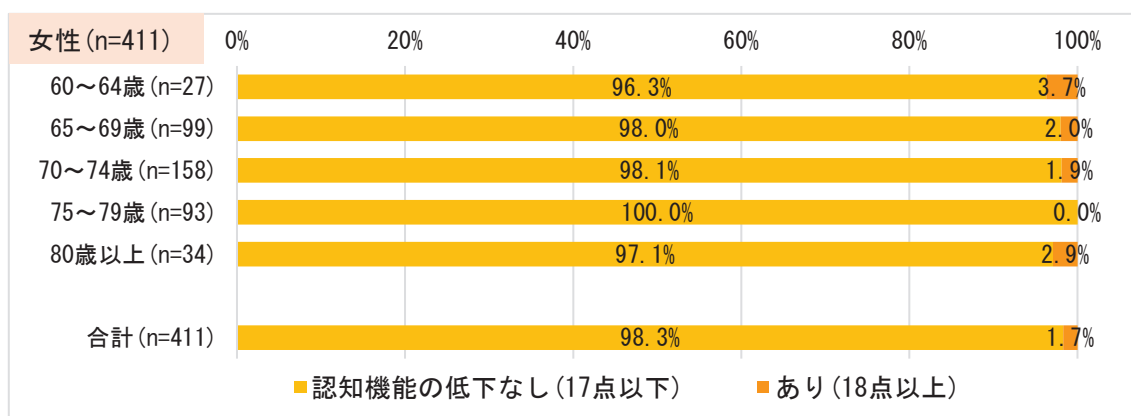
図表 3-2 年齢階層別の認知機能低下の状況



図表 3-3 男性会員における年齢階層別の認知機能低下の状況



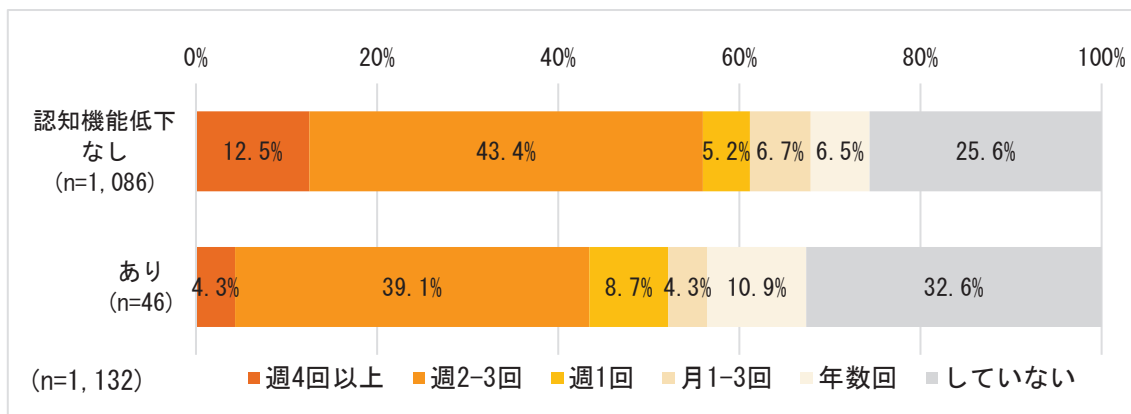
図表 3-4 女性会員における年齢階層別の認知機能低下の状況



(2)認知機能別の就業状況

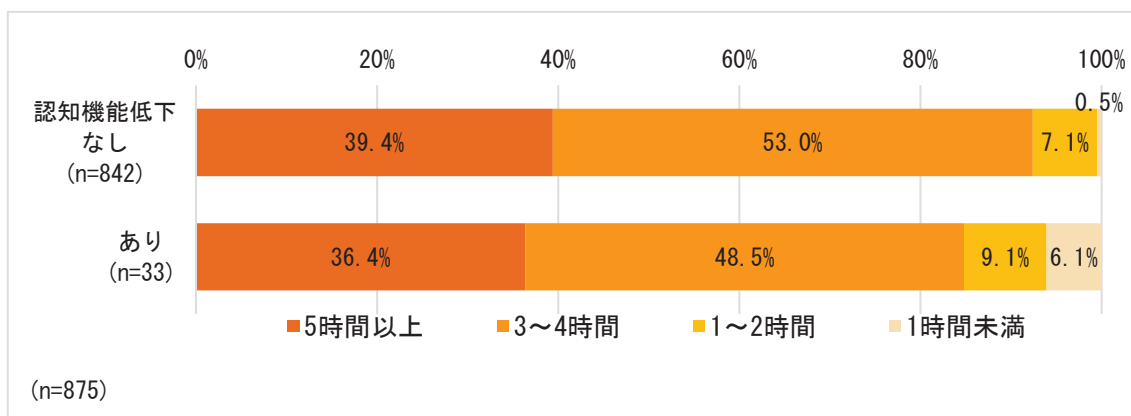
図表 3-5 は、認知機能別の就業頻度を示しています。認知機能低下あり群は、なし群と比較して「週 4 回以上」という高頻度な就業の割合は低いものの、約 6 割が「月 1～3 回」以上の定期的な就業を担っていることが分かりました。この結果は、SC では認知機能によらず就業機会の提供が平等に行われていることを示しています。

図表 3-5 認知機能別の就業頻度



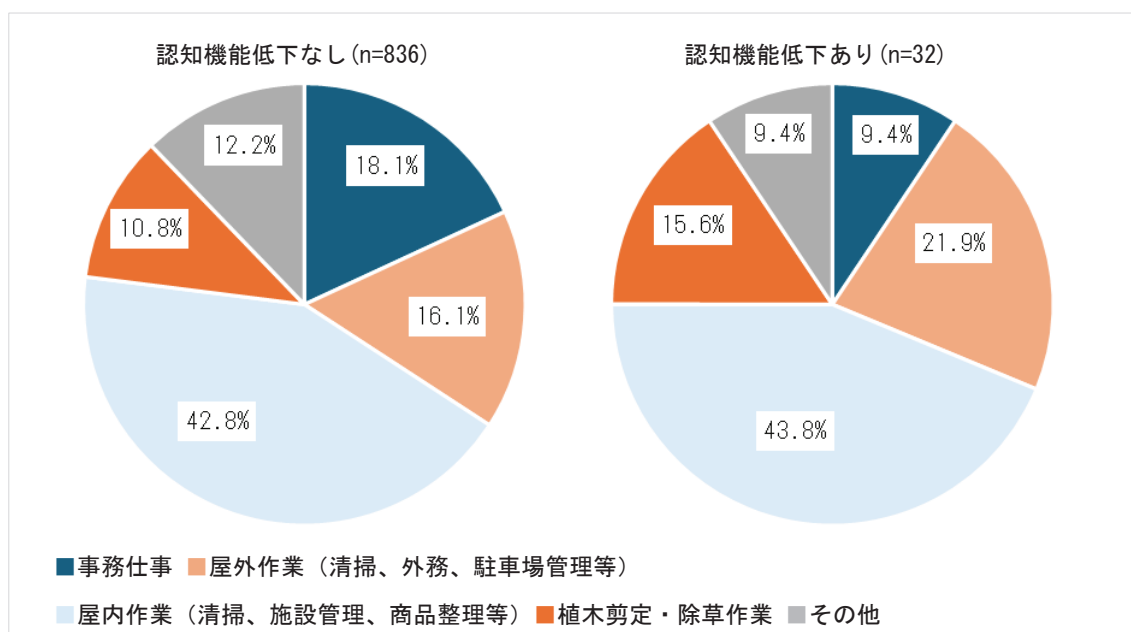
図表 3-6 は、「年に数回」以上の頻度で就業している会員（以下、就業会員）における認知機能別の 1 回あたりの就業時間を示しています。認知機能低下あり群では、比較的短時間の就業機会が多い傾向が認められました。この結果は、SC において個々の健康状態に応じた、負担の少ない就業機会が提供されている可能性を示唆しています。

図表 3-6 認知機能別の 1 回あたりの就業時間



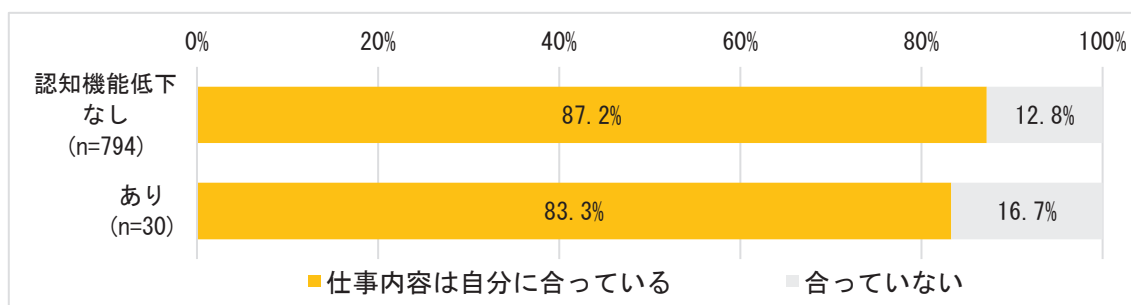
図表 3-7 は就業会員における認知機能別の主な職種を示しています。両群で共通して「屋内作業」が最も多くみられました。認知機能低下なし群では「事務作業」が約2割を占めるのに対して、認知機能低下あり群では「事務作業」の割合は1割に留まりました。

図表 3-7 認知機能別の主な職種



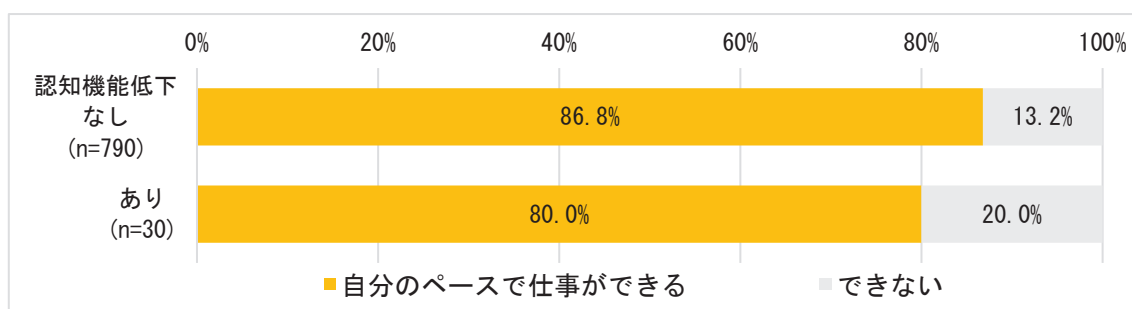
図表 3-8 は、就業会員における認知機能別の「仕事内容の適正度」を示しています。仕事内容の適正度については、「仕事内容は自分に合っているか」の質問を用い評価しました。認知機能低下あり群で「合っていない」の回答がやや多いですが、両群ともに8割以上の会員が「仕事内容は自分に合っている」と回答していました。

図表 3-8 認知機能別の仕事内容の適正度



図表 3-9 は、就業会員における認知機能別の自己裁量度を示しています。自己裁量度については、「自分のペースで仕事ができるか」の質問を用い評価しました。認知機能低下あり群で「できない」の回答がやや多いですが、両群ともに8割以上の会員が「自分のペースで仕事ができる」と回答していました。

図表 3-9 認知機能別の自己裁量度



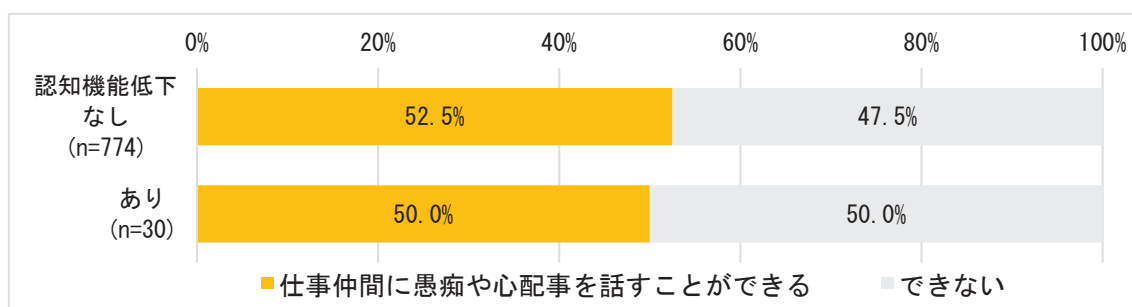
2. 仲間同士の支え合いと就業

ここでは、仕事をする際の仲間の会員との支え合いの状況について把握しました。支え合いは、「仕事仲間に愚痴や心配事を話すことができる」（以下、情緒的支援）と「仕事仲間は困っていることがあると助けてくれる」（以下、手段的支援）の2種類について質問しました。

(1) 仲間同士の支え合いの状況

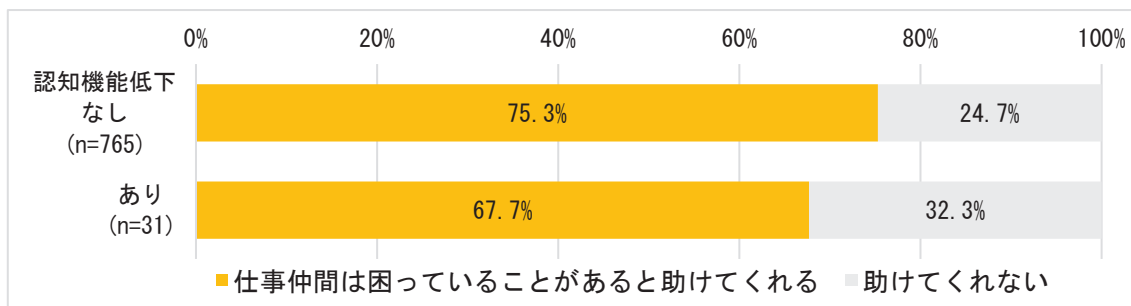
図表 3-10 は、認知機能別に仕事仲間からの情緒的支援の状況を示しています。両群ともに、約5割の会員が仕事仲間からの情緒的支援を得ていることが分かりました。

図表 3-10 認知機能別の仕事仲間からの情緒的支援の状況



図表 3-11 は、認知機能別の仕事仲間からの手段的支援の状況を示しています。認知機能低下あり群で「助けてくれない」の回答がやや多い傾向にありますが、両群ともに約7割の会員が、仕事仲間からの手段的支援を得ていることが分かりました。

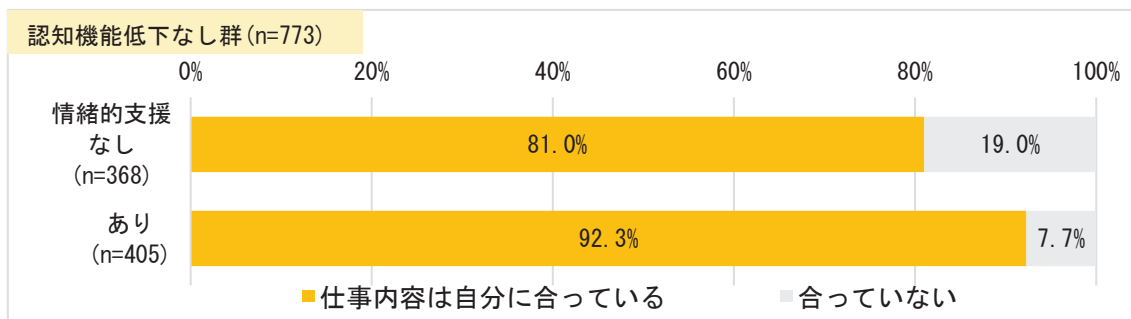
図表 3-11 認知機能別の仕事仲間からの手段的支援の状況



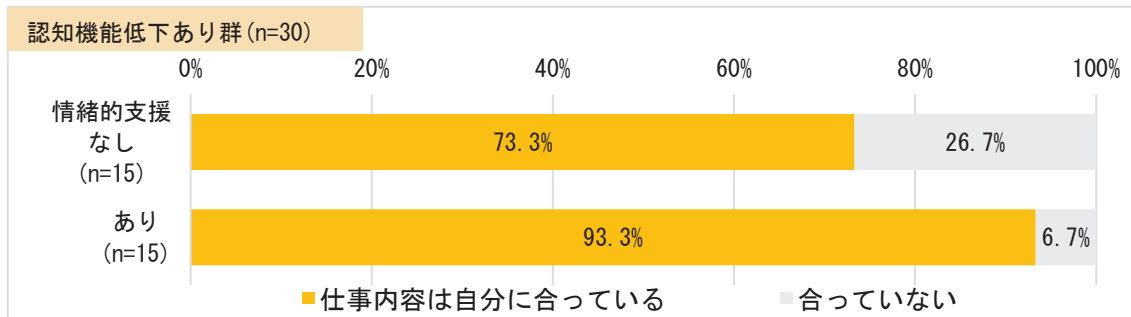
(2) 支え合いと就業状況の関係

図表 3-12 と 3-13 は、仕事仲間からの情緒的支援と仕事内容の適正度との関係を示しています。認知機能低下なし群とあり群ともに、情緒的支援がある場合に「自分に合っている」の回答が多い傾向にありました。

図表 3-12 認知機能低下なし群における情緒的支援と仕事内容の適正度の関係

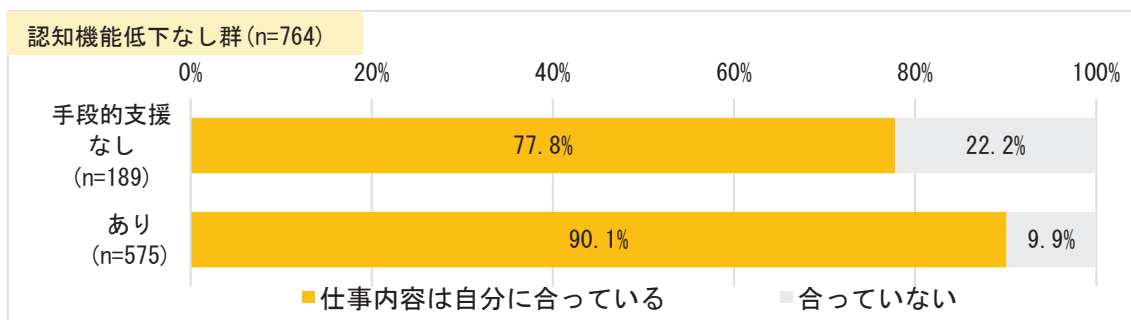


図表 3-13 認知機能低下あり群における情緒的支援と仕事内容の適正度の関係

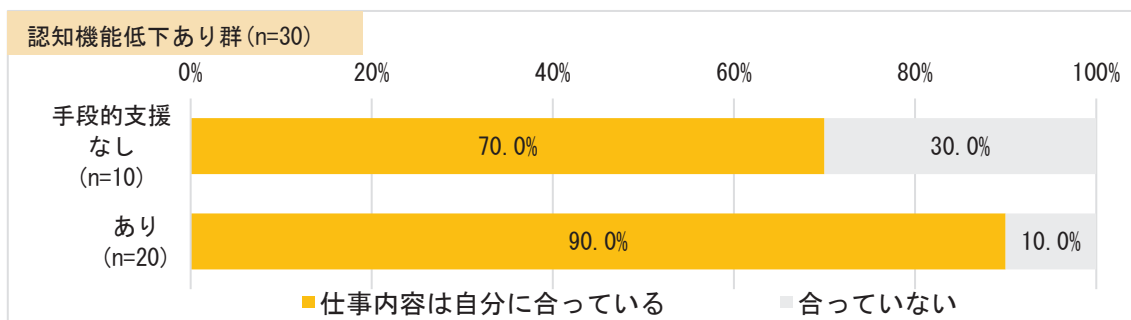


図表 3-14 と 3-15 は、仕事仲間からの手段的支援と仕事内容の適正度の関係を示しています。認知機能低下なし群とあり群ともに、手段的支援がある場合に「自分に合っている」の回答が多い傾向にありました。

図表 3-14 認知機能低下なし群における手段的支援と仕事内容の適正度の関係

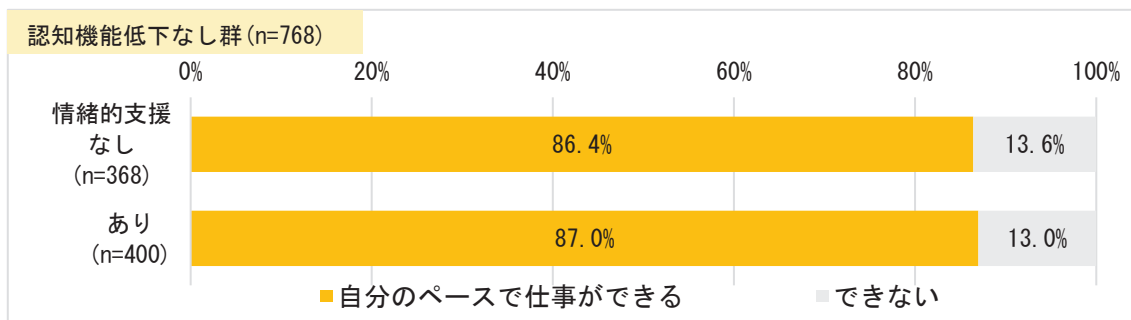


図表 3-15 認知機能低下あり群における手段的支援と仕事内容の適正度の関係

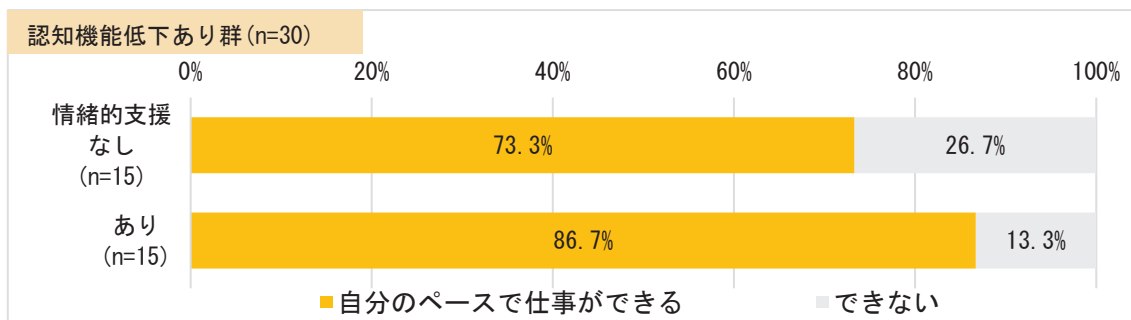


図表 3-16 と 3-17 は、仕事仲間からの情緒的支援と自己裁量度の関係を示しています。認知機能低下なし群では、情緒的支援の有無によって自己裁量度に違いは認められませんでした。一方で、認知機能低下あり群では、情緒的支援がある場合に「自分のペースで仕事ができる」の回答が多い傾向にありました。この結果は、認知機能低下がある会員では、仲間からの情緒的支援がある場合に自分のペースで仕事ができる傾向にあることを示唆しています。

図表 3-16 認知機能低下なし群における情緒的支援と自己裁量度の関係

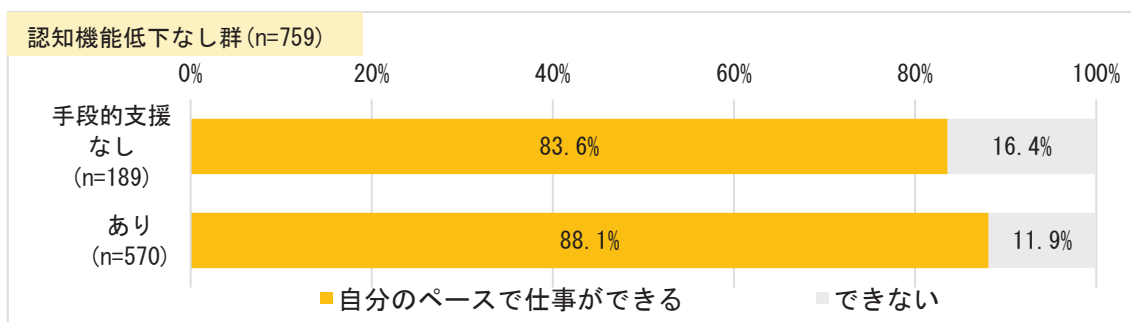


図表 3-17 認知機能低下あり群における情緒的支援と自己裁量度の関係

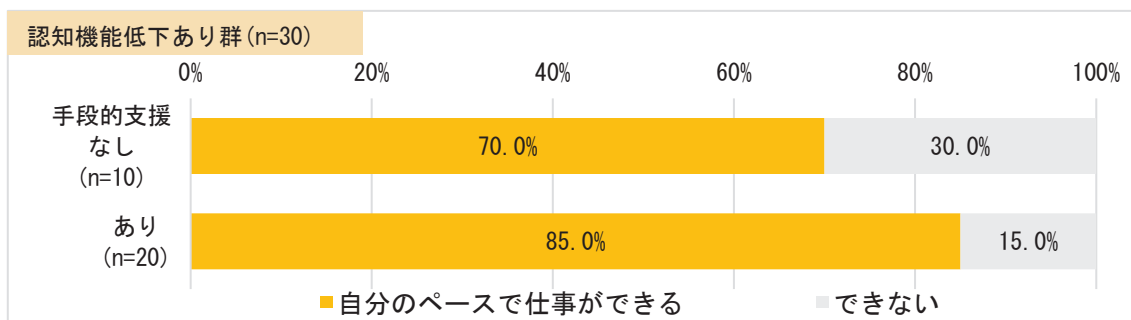


図表 3-18 と 3-19 は、仕事仲間からの手段的支援と自己裁量度の関係を示しています。認知機能低下なし群とあり群ともに、手段的支援がある場合に「自分のペースで仕事ができる」の回答が多い傾向にあり、とくに認知機能低下あり群でその傾向が顕著でした。

図表 3-18 認知機能低下なし群における手段的支援と自己裁量度の関係



図表 3-19 認知機能低下あり群における手段的支援と自己裁量度の関係



3. 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制

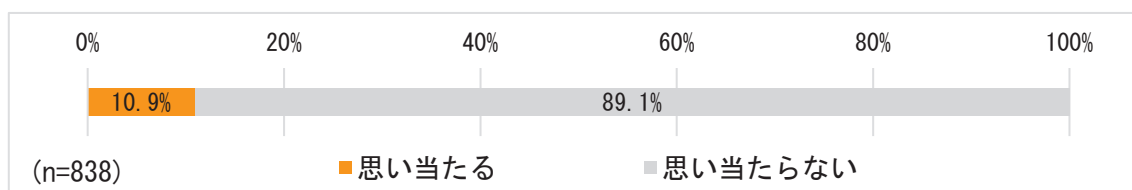
前節「2. 仲間同士の支え合いと就業」から、認知機能低下があっても安心して働くためには仕事仲間との関係性や支援が重要であることが確認されました。そこで本節では、アンケート調査とインタビュー調査の結果から、仲間の会員の認知機能低下に対する支え合いの内容と、SC 会員が考える今後必要な体制について整理しました。

(1) 認知機能低下が疑われる仕事仲間への支え合いの状況(アンケート調査から)

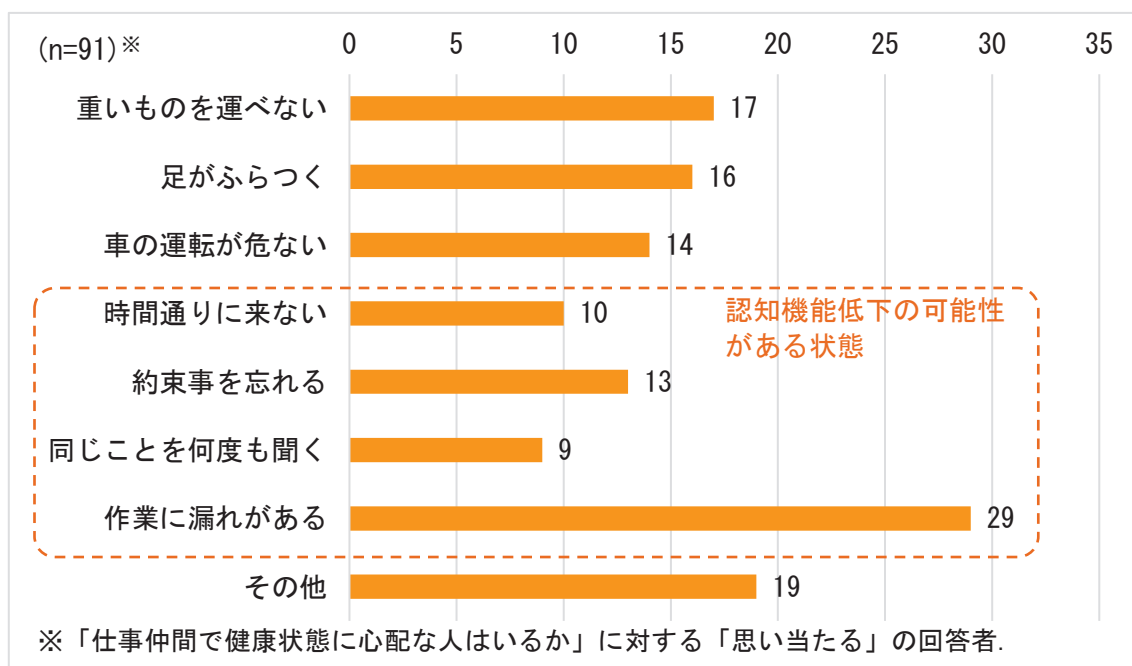
図表 3-20 は、就業会員における健康状態が心配な仕事仲間の心当たりについての回答結果を示しています。就業会員の約 1 割が「思い当たる」と回答しました。

図表 3-21 に、仕事仲間の健康状態で心配な点を示しました。「時間通りに来ない」「約束事を忘れる」「同じことを何度も聞く」「作業に漏れがある」といった認知機能の低下が疑われる健康状態についての回答が一定数確認されました。

図表 3-20 健康状態が心配な仕事仲間の心当たり

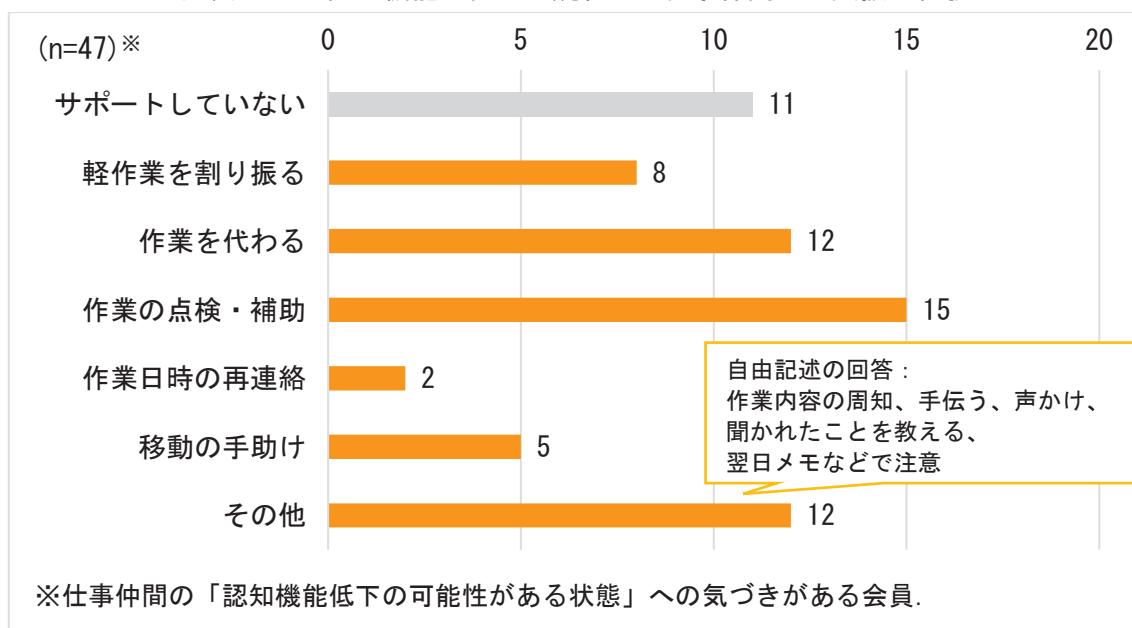


図表 3-21 仕事仲間の健康状態で心配な点



図表 3-22 は、「時間通りに来ない」などの 4 項目の認知機能の低下が疑われる仕事仲間への支援の経験を示しています。仕事仲間の認知機能低下への気づきがあった 47 名中 11 名は「サポートしていない」結果でしたが、残りの 36 名は何らかの支援をしていることが分かりました。多かった支援内容は「作業の点検・補助」で、次いで「作業を代わる」でした。

図表 3-22 認知機能の低下が疑われる仕事仲間への支援の経験



(2) 認知機能低下が疑われる仕事仲間への支え合いの事例(インタビュー調査から)

上記で挙げた仕事仲間の認知機能低下への気づきがあった47名から、インタビュー調査への協力が得られた9名に対してインタビューを行い、支え合いの具体的な事例を調査しました(図表3-23)。

支え合いの事例を分類した結果、【作業を手伝う】【軽作業を割り振る】【さりげない見守り】【作業日時の再連絡】【失敗を指摘しない】【楽しく仕事できるような声掛け】の6項目が確認されました。特に【作業を手伝う】は、全ての調査協力者が共通して経験していました。

代表的な語りからは、「仕方がない」「お互い様」といった言葉がみられ、高齢者同士の支え合いであるからこそ、高齢期特有の健康状態への理解があり、認知機能の低下を自然なこととして受け止めている様子が伺えました。

図表 3-23 認知機能の低下が疑われる仕事仲間への支え合いの事例

カテゴリ(n)	コード(n)	代表的な語り
作業を手伝う(9)	自分の分が終わったら手伝う(4)、間に合うように手伝う(2)、体調が気になり手伝う(2)、お互い手伝い合っている(1)	「早く終わったら、今度はこっち(認知機能の低下がある仲間の担当分)もやるような感じで仕事はするようにしてます。お互い様だからね。」
軽作業を割り振る(3)	若い人が負担の高い作業をする(2)、班長が配慮し作業を割り振る(1)	「まだ若い70前半の私が階段の上がり降りがあるところをやって、その人には階段上がらなくていいところをお願いするようにしています。」
さりげない見守り(3)	気にかけてながら仕事をする(2)、無理させないようにしている(1)	「80代の先輩方だと、物忘れとかね、あと仕事のペースが遅いんです。でもこれは仕方がないですよ。だから若い人で気にかけてながら、私一番若いから、無理させないようにやっています。」
作業日時の再連絡(2)	作業日時を教え合う(1)、作業日を再連絡する(1)	「自分自身もね、最近はずぐ出てこないんです。物忘れもしますし。だからお互いにね。相棒と仕事の時間を確認し合ったりしますね。」
失敗を指摘しない(2)	黙ってサポートする(1)、失敗を他の人に言わない(1)	「私はあれこれ言わないで黙ってサポートしました。例えば、やり残しとか、汚れがあっても、そっと私がやっておくんです。」
楽しく仕事できるような声掛け(2)	楽しんで仕事できるような声掛け(1)、お互いに励まし合う(1)	「怒らせないように、お互い楽しみながら、励まし合いながらやろうっていう感じです。そうすると私たちも仕事がやりやすくなった。」

(3) 今後必要な体制

図表 3-24 では、「あなたが将来認知機能の低下が気になってきた時、どのような体制があれば SC で安心して働けると思いますか」という質問に対するインタビューの回答を整理しました。

【仲間との支え合い】【健康について相談できる体制】【健康状態に合わせた仕事の紹介】【健康状態を把握できる体制】【仕事以外の活動の紹介】【発注者側の理解】【健康管理の研修会】の7分類が抽出され、とくに仲間との支え合いや健康管理に関する体制について比較的多く語られました。

【仲間との支え合い】に関する語りは最も多い一方で、単に「誰かと一緒だからいいものではない」という意見や、「サポートに入る人に手当が必要」ではないかという指摘もあり、単に共に働くことがすべての状況や会員に適しているわけではないことが示唆されています。今後は会員の認知機能の低下に関する理解を深めるとともに、働き方の選択肢を多く設けることが必要であると考えられました。

さらに【健康について相談できる体制】も重要視されましたが、その多くは「SC 事務局に健康状態を相談しづらいため外部の相談窓口」を求める声でした。これは、健康状態を SC 事務局に把握されることで仕事の提供に影響を及ぼすのではないかという懸念があるためと考えられました。したがって、今後 SC における健康管理支援体制を充実させるうえでは、元医療従事者の会員が健康相談窓口を担う、会員同士で健康測定会を実施するなど、会員が気軽に健康状態を把握、相談できる仕組みを構築する工夫が求められるでしょう。

図表 3-24 認知機能の低下が気になった時に安心して働くために必要な体制

カテゴリ(n)	コード(n)	代表的な語り
仲間との支え合い (6)	サポート・見守ってくれる人がいる(2)、一緒に働く人に状況を共有(1)、サポートに入る人に手当が必要(2)、誰かと一緒にだからいいものではない(1)	「私がおもしろい感じになってきた時に、カバーしてくれる人がいれば、非常に嬉しいなとは思いますが」 「手当てとしてこれだけプラスαで出しますよってという話なら、また話は違うかもしれません」
健康相談の体制(5)	SC事務局に健康状態を相談しづらいため外部の相談窓口(4)、辛い時に話を聞いてくれる人がいてほしい(1)	「やっぱりシルバ―の人に健康のことを知られたくないという気持ちはあります」
健康状態に合わせた仕事の紹介(5)	健康状態に合わせた仕事の紹介(5)	「すぐやめるじゃなくて、じゃあ別の仕事はどうですかって言ってくれたらいいですよ。それがサポートじゃないかなって」
健康状態の把握体制(3)	SC事務局で健康状態を把握すべき(2)、SCで健康状態の測定会を設ける(1)	「認知機能のことは本人が気づかないんだよね。だからシルバ―さんが少し把握した方がいい」
仕事以外の活動の紹介(2)	人との関わりをなくさないようにしてほしい(1)、仕事以外の活動を紹介(1)	「サポートっていうか、やっぱり人と関わることのできるような、仕事なのか、機会をつくってほしいなと」
発注者側の理解(1)	発注者側が長い目で見てくれる(1)	「発注者の方も見守ってくれればいいのかっていうんですね。時間がかかってもいいからって」
健康についての研修(1)	健康についての研修の義務化(1)	「安全面、健康のことの研修を受けないと仕事を続けられないというようにした方がいいと思います」

4. まとめ

■ 認知機能低下がある会員の就業状況は？

- ・軽度認知症に相当する会員は約4.1%で、その約6割が月1回以上定期的に就業していました。その就業頻度や作業時間は比較的短く、個々の健康状態を考慮した、負担の少ない柔軟な働き方が実現していると考えられました。

■ 仲間同士の支え合いが就業継続につながるか？

- ・認知機能低下がある会員において、仕事仲間からの支え合いを実感しているほど、「仕事が自分に合っている」「自分のペースでできる」と思う割合が高い傾向にありました。このことから、仲間同士の支え合いが、認知機能低下がある会員の就業継続を促進する要因である可能性が示唆されました。
- ・認知機能低下がある会員への仲間同士での支え合いの事例として、【作業を手伝う】【軽作業を割り振る】【さりげない見守り】【作業日時の再連絡】【失敗を指摘しない】【楽しく仕事できるような声掛け】が確認されました。
- ・仲間を支えた経験のある会員へのインタビューからは、「お互い様」「仕方がない」という言葉が共通して使われており、高齢者同士だからこそ、互いの健康状態を理解し、受け入れる姿勢が伺えました。

■ 認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制は？

- ・認知機能低下があっても安心して働くために必要な体制として【仲間との支え合い】【健康について相談できる体制】【健康状態に合わせた仕事の紹介】【健康状態を把握できる体制】【仕事以外の活動の紹介】【発注者側の理解】【健康管理の研修会】が挙げられました。
- ・今後は、会員における認知機能の低下への理解を深めるとともに、働き方の選択肢の充実化および、会員が気軽に健康について把握し、相談できる体制の検討が重要であることが示唆されました。

第3章の引用文献

1. 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 他. 自記式認知症チェックリストの開発(1): 尺度項目案の作成と因子的妥当性および内的信頼性の検討. 日本老年医学会雑誌 2015; 52: 243-53.
2. 宮前史子, 宇良千秋, 佐久間尚子, 他. 自記式認知症チェックリストの開発(2): 併存的妥当性と弁別的妥当性の検討. 日本老年医学会雑誌 2016; 53: 354-62.



第 4 章

SC 活動を通じた健康増進



1. 就業とセルフケア

(1) セルフケア

ここでは、セルフケアの状況について「日頃、健康のためにどのようなことを心がけていますか」という質問への回答結果を示しました。

図表 4-1 では、SC 会員のセルフケアの状況について、一般高齢者を対象とした調査結果¹と比較しました。SC 会員は、一般高齢者と比較して、「健康診断を定期的に受ける」や「十分な休養や睡眠をとる」、「散歩やスポーツをする」などの健康管理への取り組みがやや高い傾向にありました。一方で、「医療・健康の知識を持つ」や「酒やタバコを控える（やめる）」では一般高齢者を下回っていました。

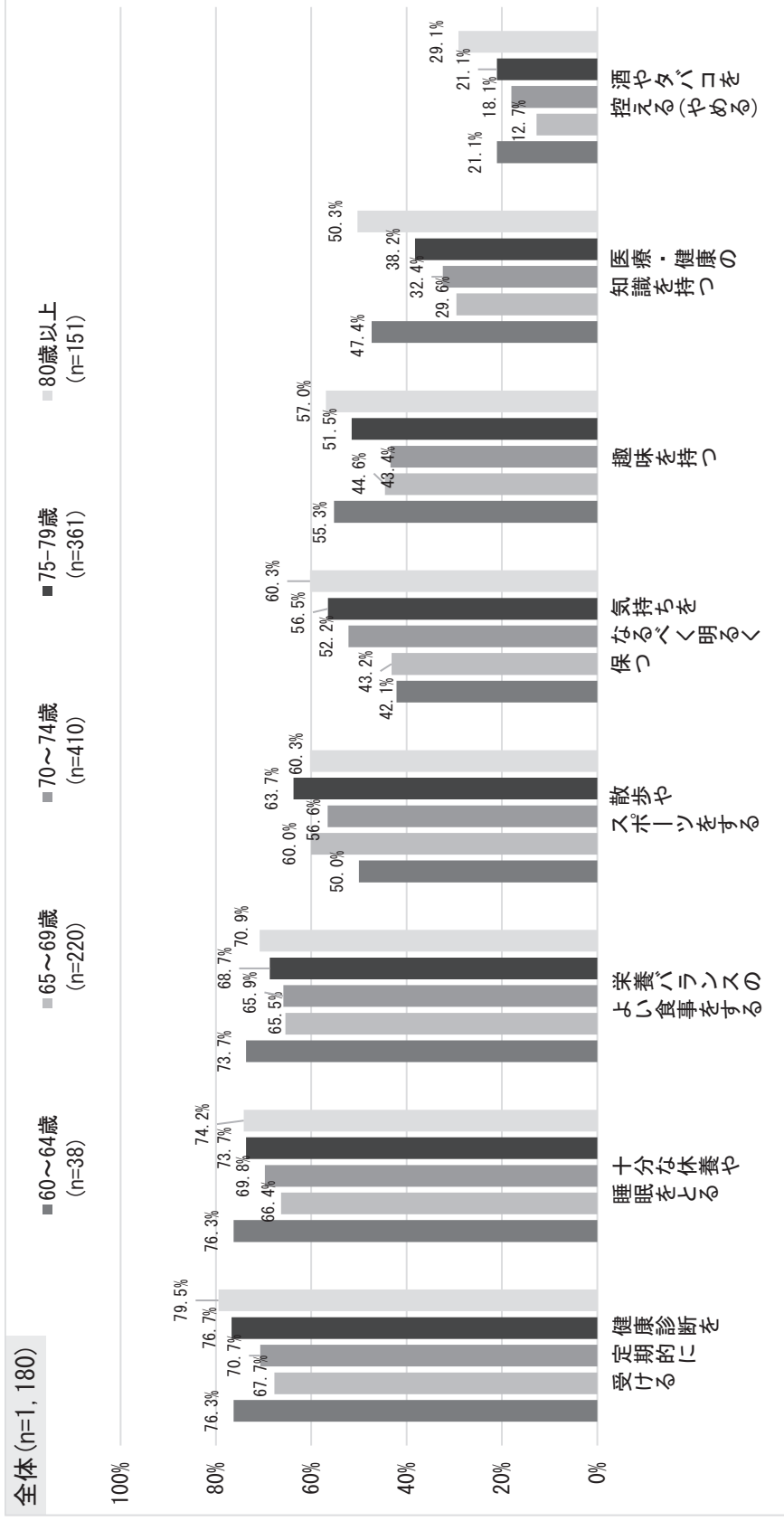
図表 4-1 セルフケアの状況

	一般高齢者※ (n=2, 176)	SC 会員 (n=1, 207)
健康診断を定期的に受ける	67.7%	72.6%
十分な休養や睡眠をとる	67.3%	70.3%
栄養バランスのよい食事をする	65.8%	66.8%
散歩やスポーツをする	50.9%	59.2%
気持ちをなるべく明るく保つ	50.1%	51.8%
趣味を持つ	48.6%	47.7%
医療・健康の知識を持つ	43.6%	35.8%
酒やタバコを控える（やめる）	31.9%	19.3%

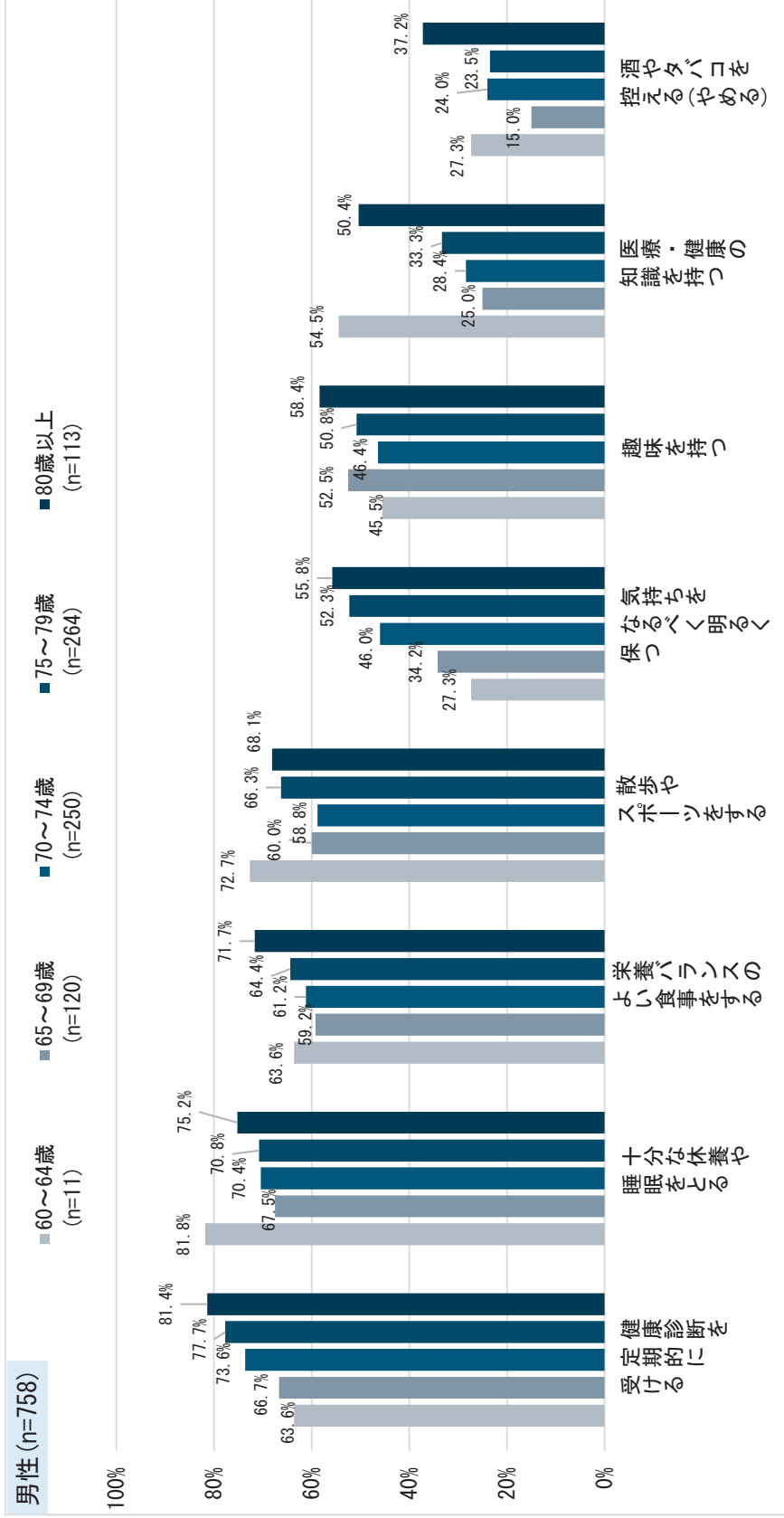
※出典)内閣府(2022)「令和4年高齢者の健康に関する調査」(全国の65歳以上の男女)¹より作成

図表 4-2～4-4 では、年齢階層別のセルフケアの状況を示しました。全体、男性、女性のいずれのグループにおいても、「健康診断を定期的に受ける」と「十分な休養や睡眠をとる」は年齢階層による大きな違いは見られず、いずれの年齢層でも高い水準でした。また、男女ともに80歳以上層では他の若い層に比べて、健康管理の実施率が高い傾向にあり、80歳以上層では健康に留意している会員が特に多いことが分かりました。

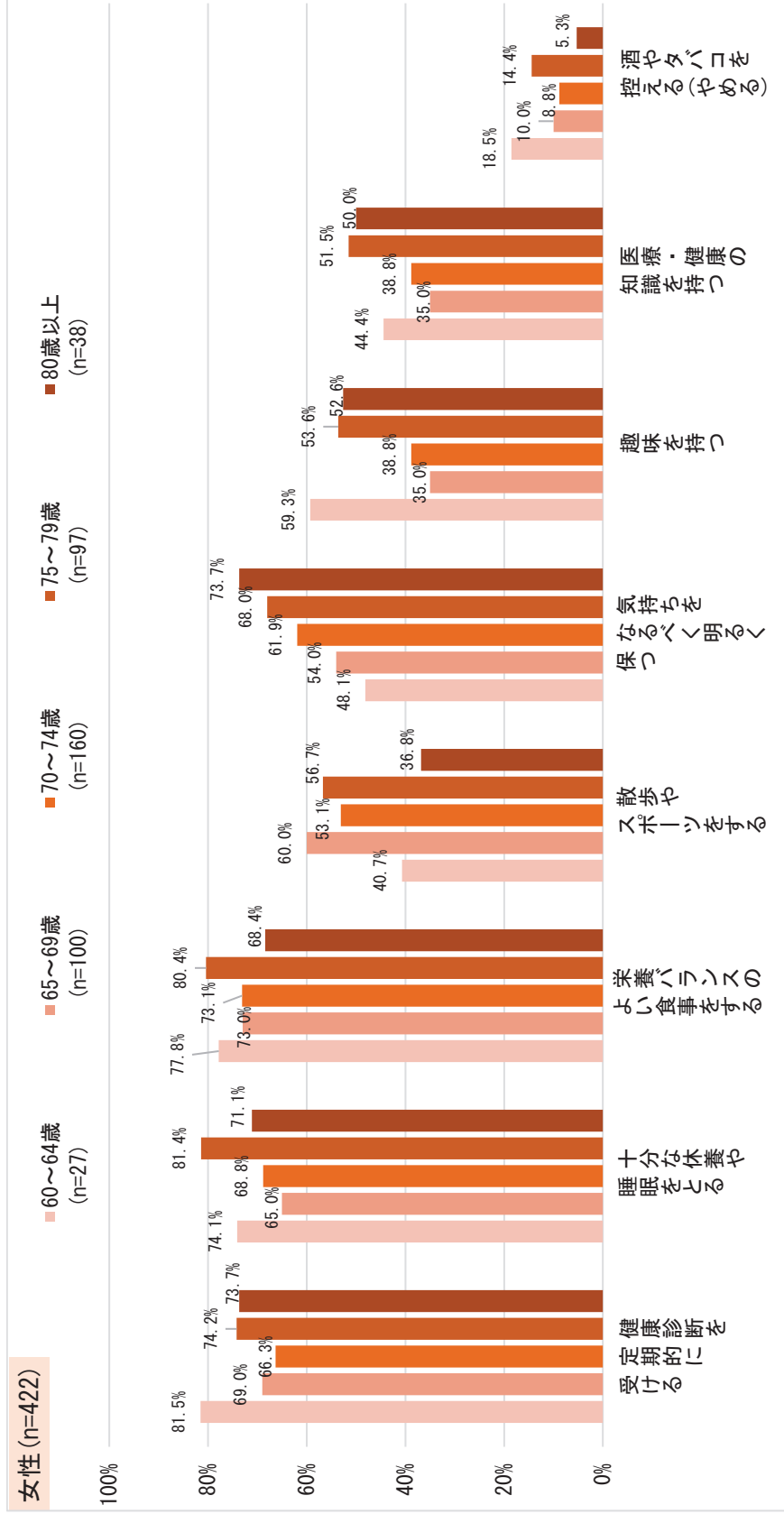
図表 4-2 年齢階層別のセルフケアの状況



図表 4-3 男性会員の年齢階層別のセルフケアの状況



図表 4-4 女性会員の年齢階層別のセルフケアの状況

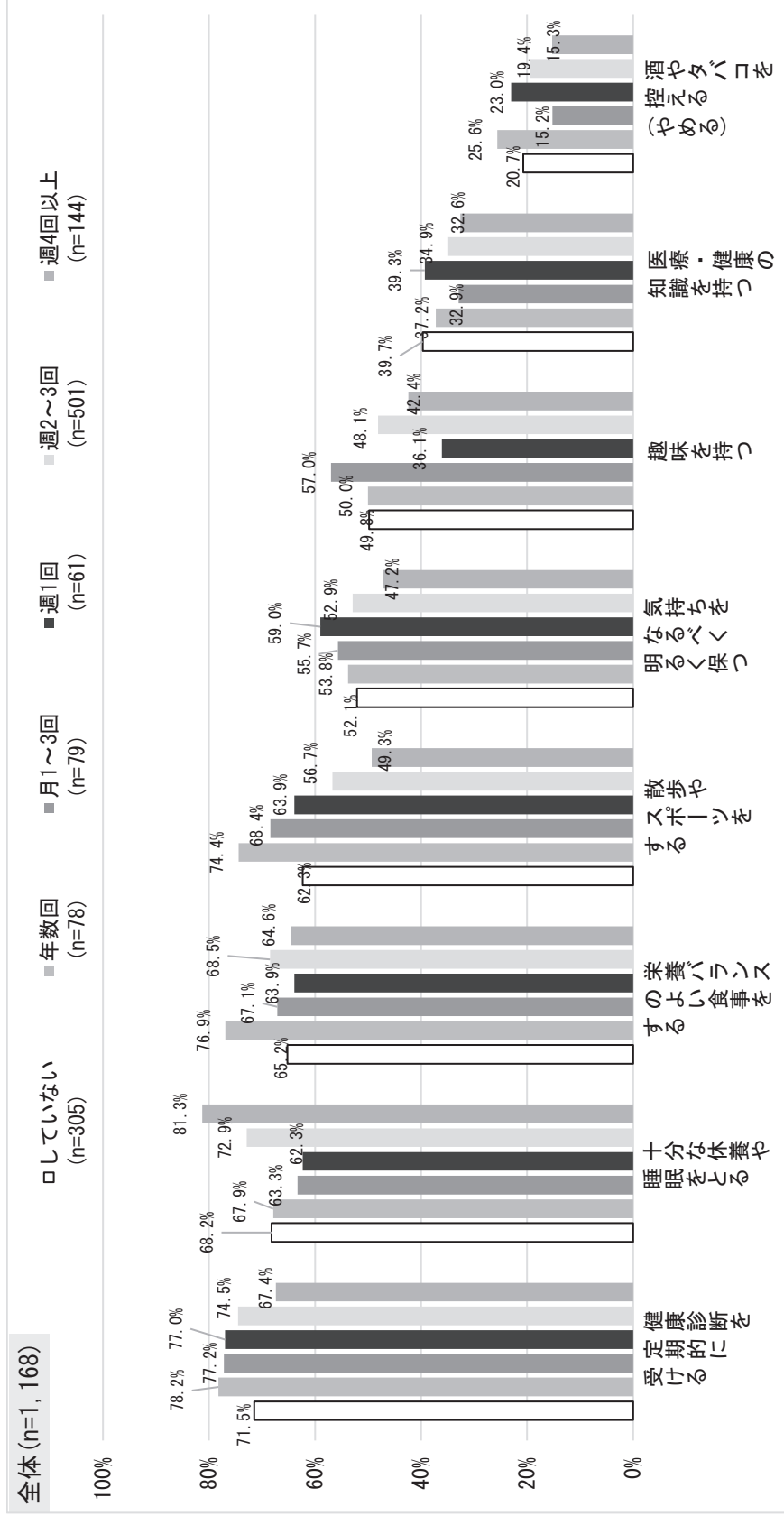


(2) 就業頻度とセルフケアの関係

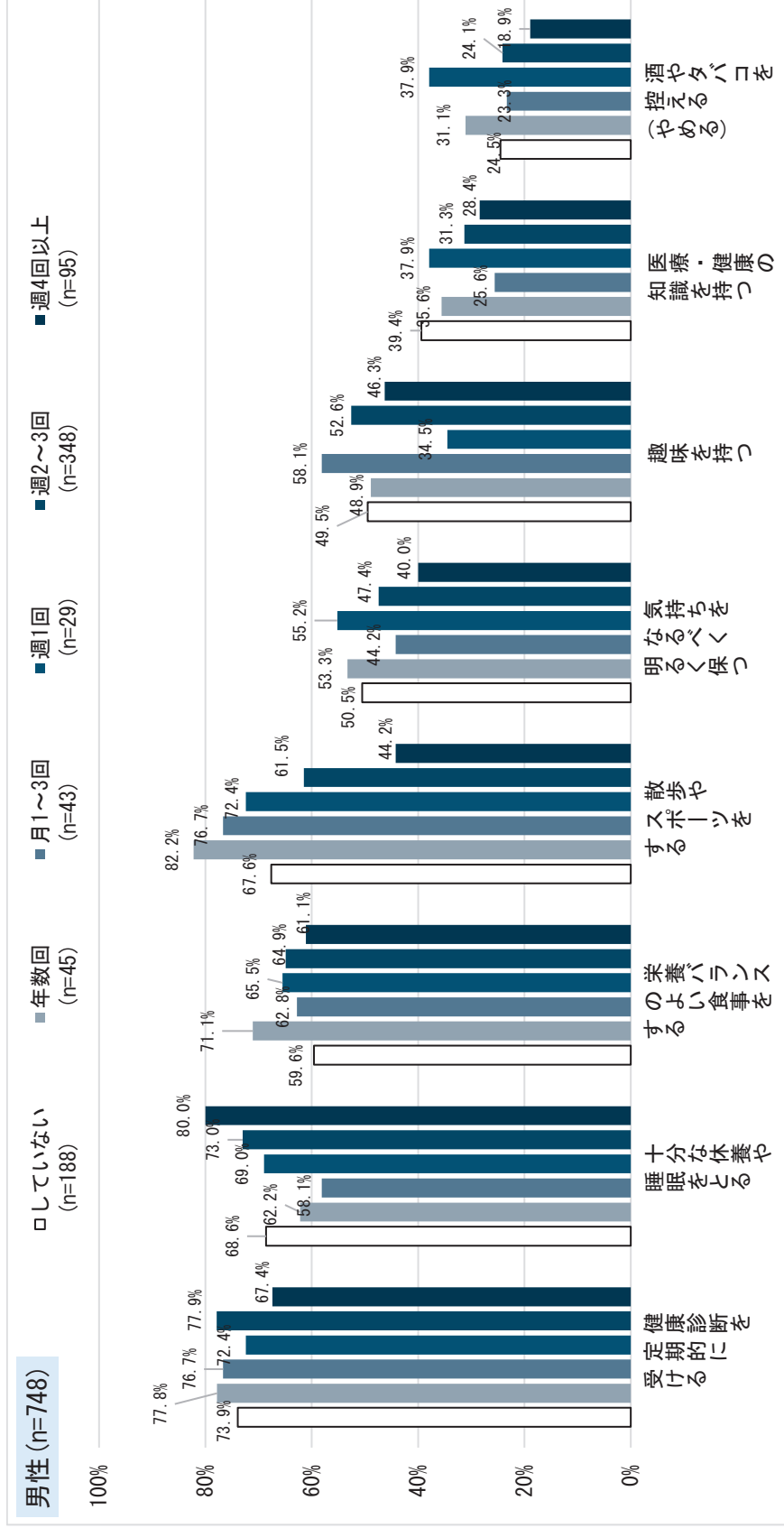
図表 4-5～4-7 では、就業頻度別のセルフケアの状況を示しています。男女ともに「十分な休養や睡眠をとる」の実施率は、「週 2～3 回」や「週 4 回以上」の頻度で就業している会員で高いことが分かりました。これは定期的な就業が、健康的な生活リズムの構築に寄与している可能性を示唆しています。

一方で、「健康診断を定期的に受ける」の実施率は、就業頻度が高い層ほど低い傾向にありました。この背景には、就業による多忙さや、高頻度で就業ができるほど健康面に自信を持ち、健康診断が不要と考える傾向があると考えられます。したがって今後は、高頻度で就業できる元気な会員に対しても、安全に就業継続するために健康診断の受診を一層推奨することが重要でしょう。

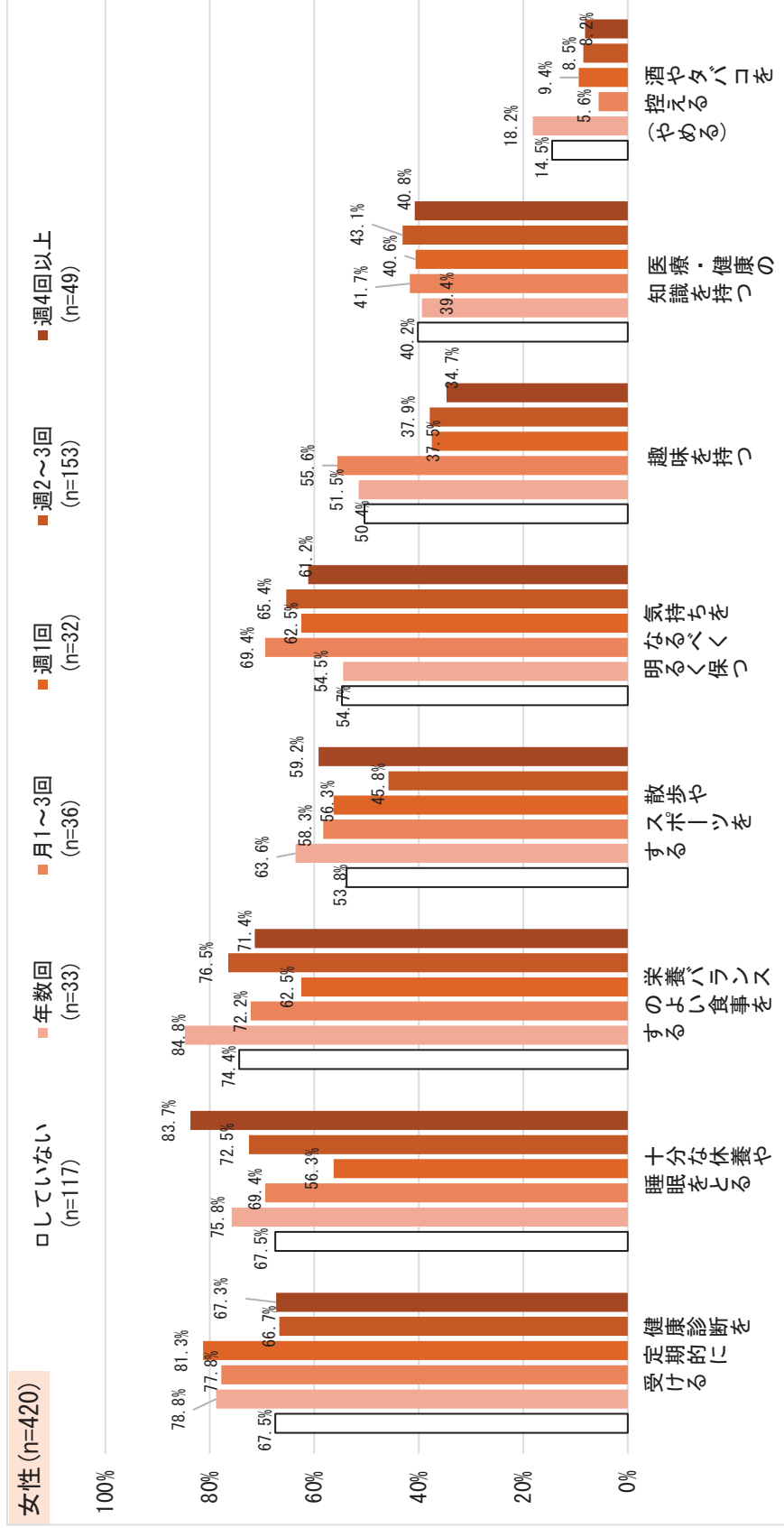
図表 4-5 就業頻度別のセルフケアの状況



図表 4-6 男性会員の就業頻度別のセルフケアの状況



図表 4-7 女性会員の就業頻度別のセルフケアの状況



2. 就業と幸福感

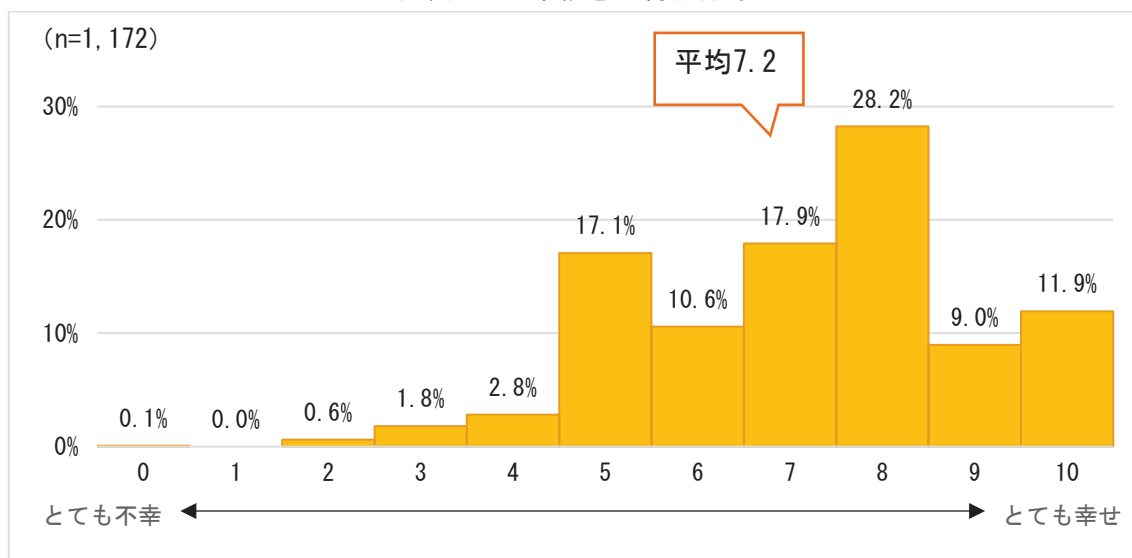
(1) 幸福感の状況

幸福感は、生活への満足度だけでなく、心身の健康状態を反映する重要な健康指標の一つです²。さらに、生きがいとも深く関係するため、生きがい就業を推進するSCにとって、会員の健康管理を促すうえで、注目すべき指標といえます。

ここでは、「あなたはどのくらい幸せですか（0点をとても不幸、10点をとても幸せとする）」という幸福感についての質問への回答状況を示しました。

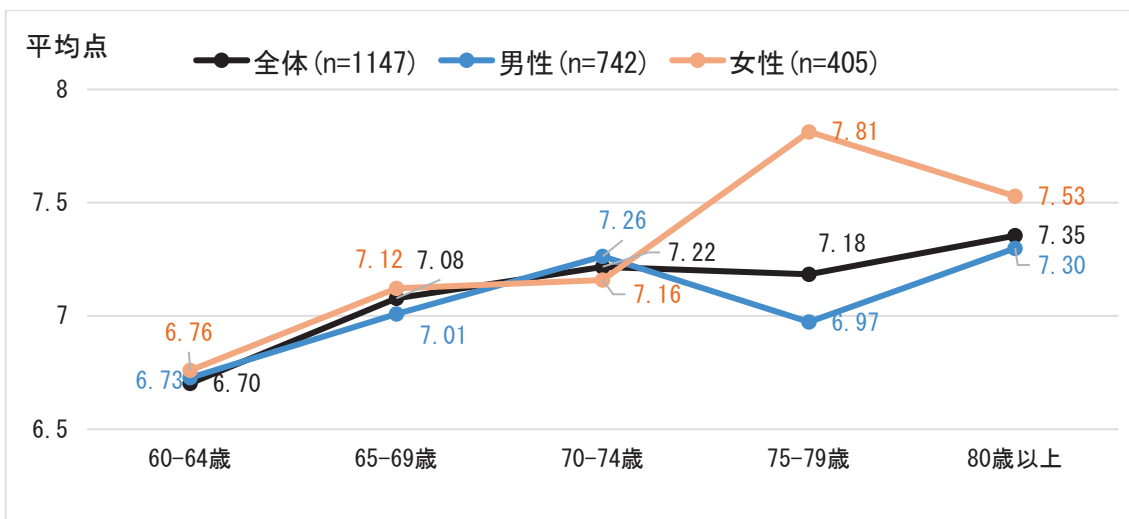
図表 4-8 に示す通り、多くの会員が中心より右側の「とても幸せ」に近い位置を選択しており、平均7.2点でした。

図表 4-8 幸福感の得点分布



図表 4-9 は、年齢階層別に幸福感の平均値を示しました。全体、男性、女性で共通して、70 歳以上層で 60 歳層よりも高い値でした。一方で、75-79 歳層の平均値は男女で大きな差がみられました。

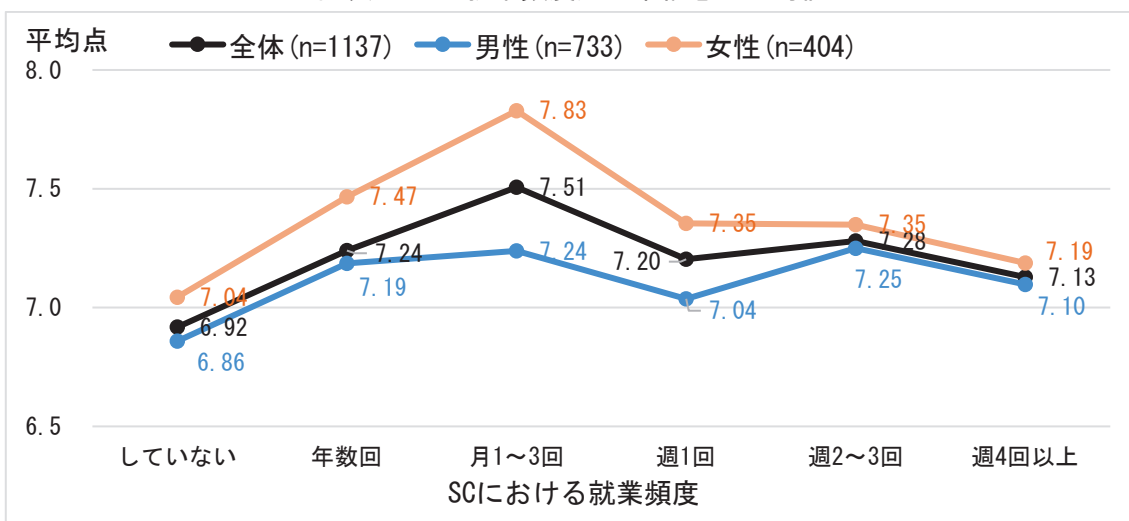
図表 4-9 年齢階層別の幸福感の平均値



(2) 就業頻度と幸福感の関係

図表 4-10 は就業頻度別の幸福感の平均値を示しています。全体、男性、女性で共通して、幸福感の平均値が「就業をしていない」層で最小、「月 1-3 回」層で最大値であることが確認されました。この結果から、ほどほどに働いている人で高い幸福感を示す傾向にあることが分かりました。

図表 4-10 就業頻度別の幸福感の平均値

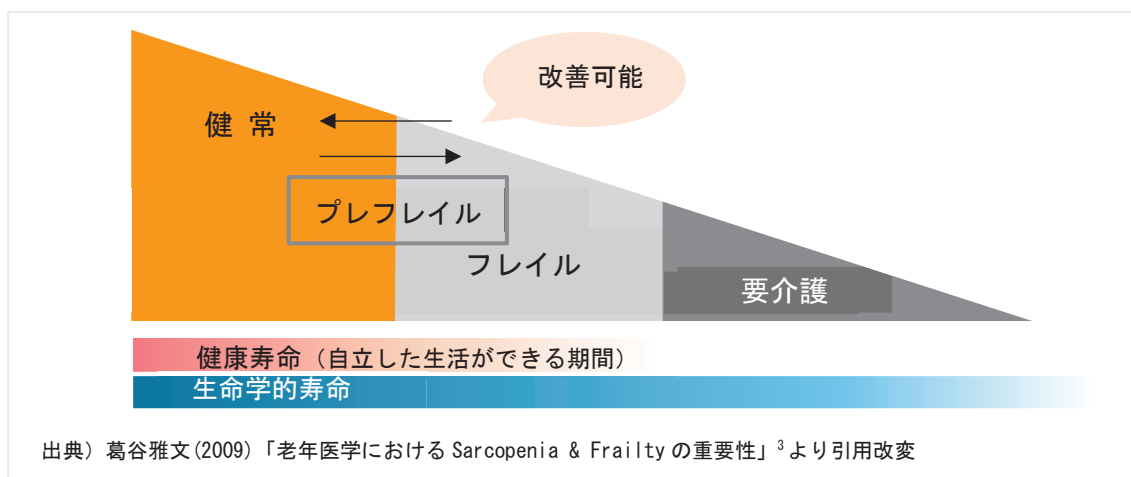


3. 就業とフレイル

(1) フレイルの該当状況

ここでは、高齢期の多面的な健康状態の指標である「フレイル(frailty)」の該当状況を把握しました。図表 4-11 に示すように、フレイルは、様々なストレスに対する抵抗力や回復力が低下した状態であり、要介護状態の前駆的な段階を指します³。また、フレイルと健常な状態との中間に位置する層は「プレフレイル」と呼ばれます。フレイルとプレフレイルは、適切なケアや介入により維持・改善が可能とされており、自立した生活ができる期間を延長するためには、早期から健康に留意することが推奨されています。

図表 4-11 フレイルの概要



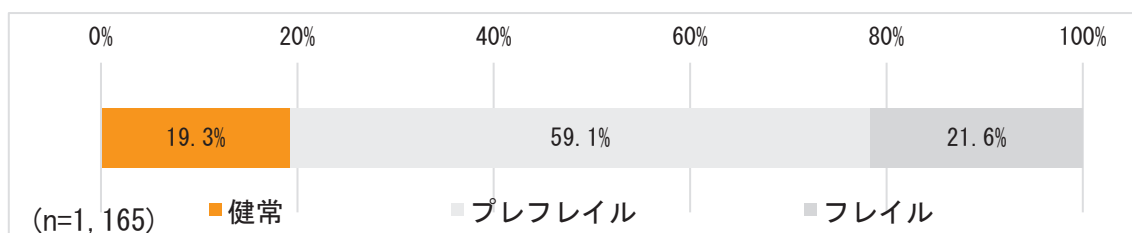
本調査では、図表 4-12 に示す簡易版フレイル・インデックスを用い評価しました。

図表 4-12 フレイルの評価方法（簡易版フレイル・インデックス⁴）

評価項目	具体的な内容	評価方法
体重減少	ここ 6 か月で 2-3kg の体重減少があった	3 以上:フレイル 1~2:プレフレイル 0:健常
歩行速度	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思う	
運動習慣	ウォーキング等の運動を週に 1 回以上していない	
疲労感	(ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがする	
記憶力	5 分前に聞いたことを思い出せないことがある	

図表 4-13 は、フレイルの該当状況を示しています。約 2 割がフレイルに、約 6 割がプレフレイルに該当することが分かりました。この該当率は、75 歳以上の後期高齢者が多く所属する集団としては決して高い値ではありませんが、今後会員の健康管理をより充実化する必要性を示唆しています。

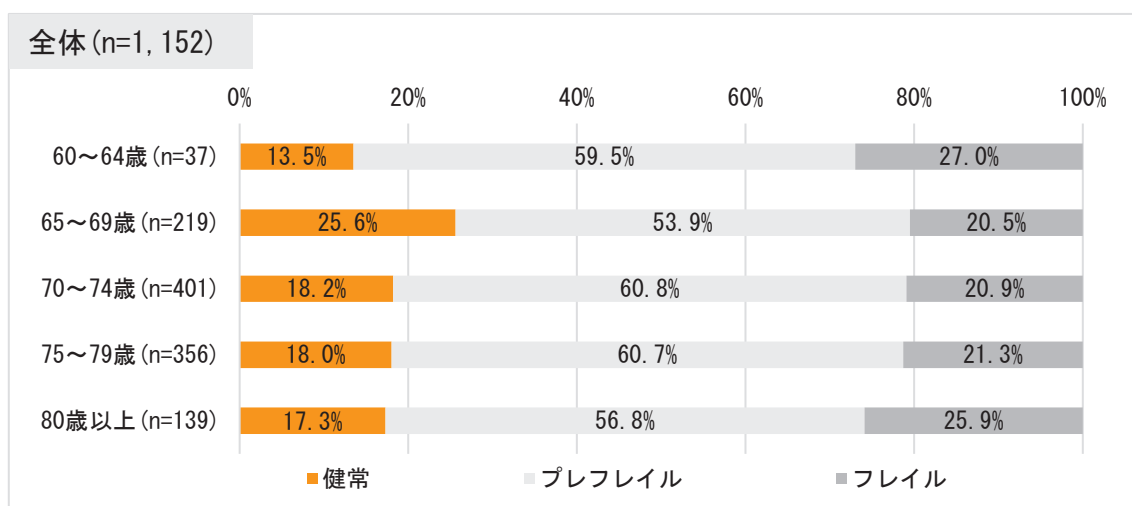
図表 4-13 フレイルの該当状況



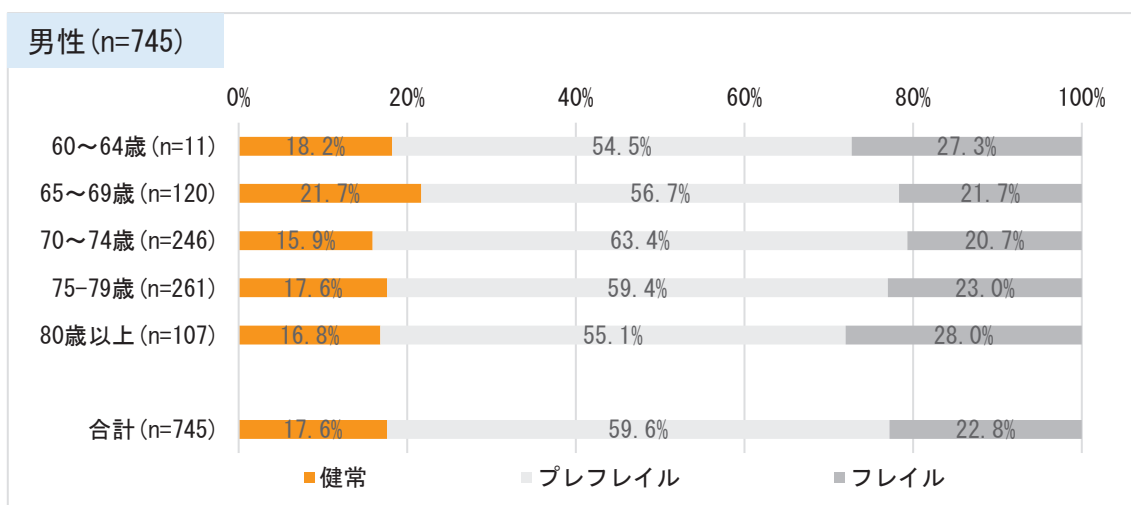
図表 4-14～4-16 は、年齢階層別のフレイルの該当状況を示しています。全体、男性、女性に共通して、60～64 歳層のフレイル該当率が、より高齢の年齢層と比較して高い傾向が見られました。

一方 70 歳以上の層では、フレイルの該当率はなだらかに推移しています。この結果は、SC での活動がフレイルの新規発生を抑制している場合と、元気な状態を維持しているからこそ 70 歳以上になっても SC に在籍できている場合の 2 つの可能性が考えられます。

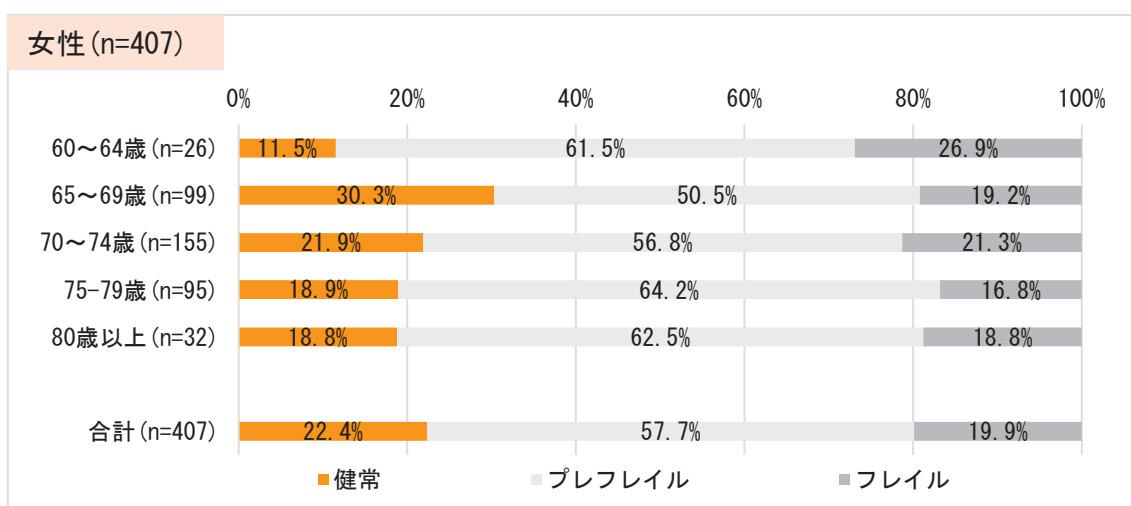
図表 4-14 年齢階層別のフレイルの該当状況



図表 4-15 男性会員の年齢階層別のフレイルの該当状況



図表 4-16 女性会員の年齢階層別のフレイルの該当状況

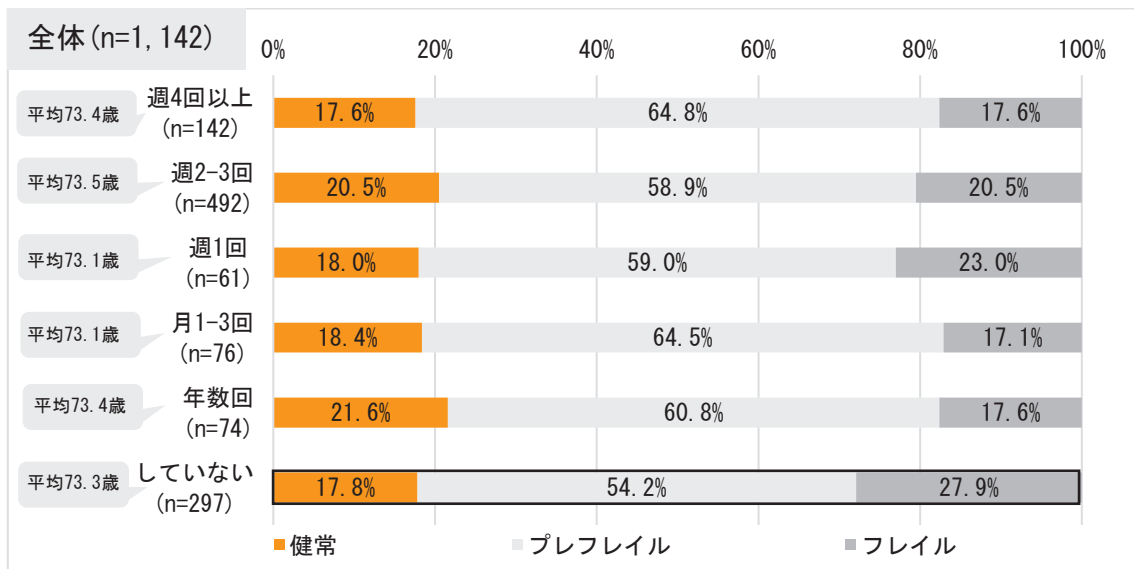


(2) 就業とフレイルの関係

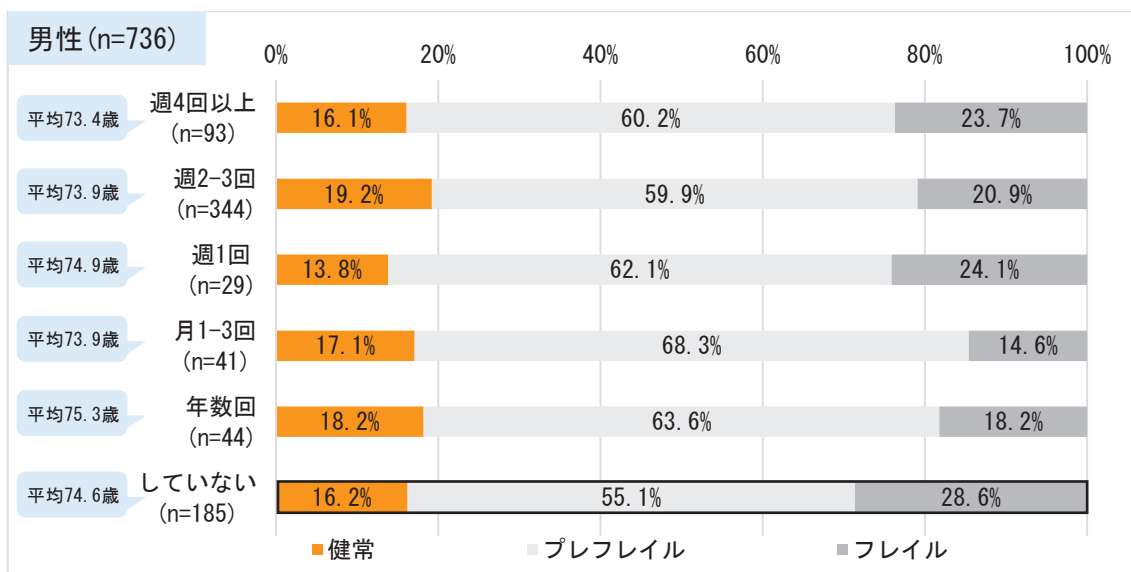
図表 4-17～4-19 は、就業頻度別のフレイルの該当状況を示しています。全体、男性、女性で共通して、就業を「していない」層で、フレイルの該当率が最も高いことが分かりました。

一般的に、フレイルの該当率は加齢とともに高まることが報告されています⁴。しかし、付記している平均年齢を見ると、就業を「していない」層で特に平均年齢が高いわけではないことが分かります。このことから、年齢に関係なく、SC で就業している会員は、就業していない会員よりもフレイルを抑制できる可能性が示唆されました。ただし、本分析は横断的な検討に基づいているため、今後は縦断的な研究を通じて、この因果関係を明らかにする必要があります。

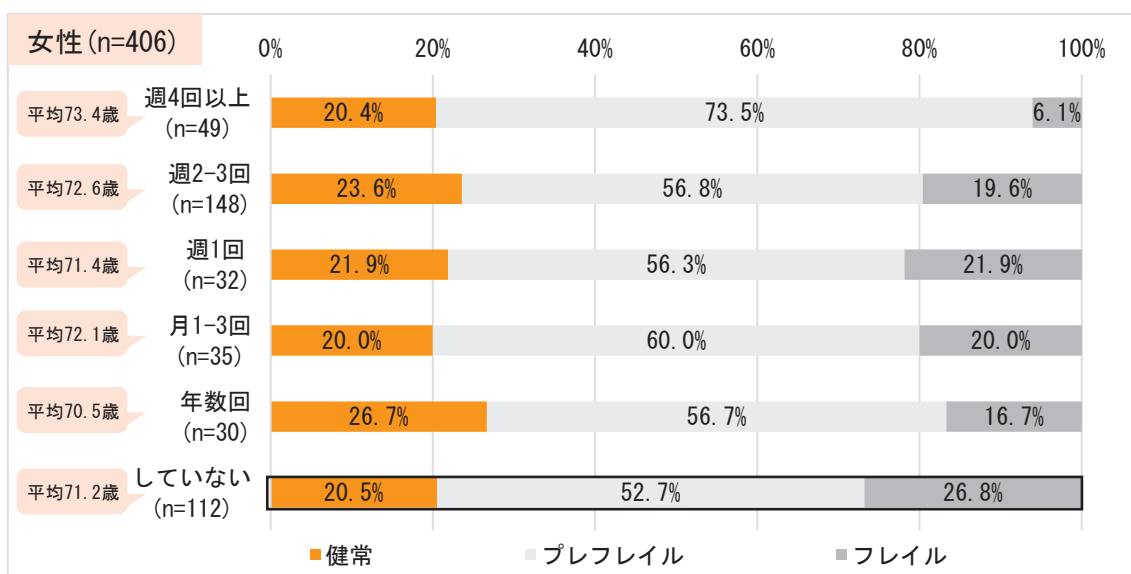
図表 4-17 就業頻度別のフレイルの該当状況



図表 4-18 男性会員の就業頻度別のフレイルの該当状況



図表 4-19 女性会員の就業頻度別のフレイルの該当状況



4. まとめ

■ 会員の健康管理の状況や健康状態は？

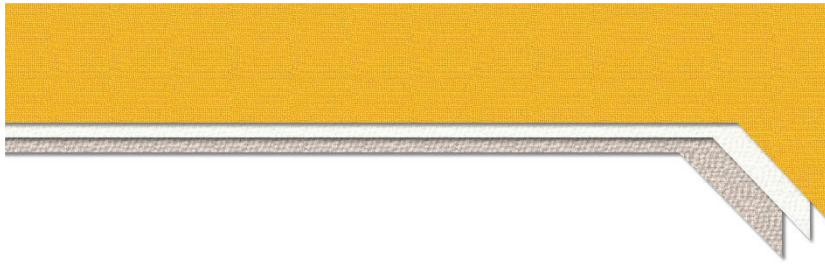
- ・会員の多くは積極的に健康管理に取り組んでおり、とくに「健康診断の定期受診」「十分な休養や睡眠」の実施率が高いことが分かりました。
- ・また幸福感は平均 7.2 点（0～10 点で高いほど良好）と高い値を示しました。
- ・フレイルの該当状況は、プレフレイルが 59.1%、フレイルが 21.6%でした。これは後期高齢者が多く所属する集団としては決して高い値ではありませんが、今後会員の健康管理をより充実化する必要性を示唆しています。

■ SC で活発に活動している会員ほど健康管理や健康状態が良好か？

- ・健康管理の取り組みのうち、「十分な休養や睡眠」は SC での就業頻度が高い会員ほど実施率が高い結果でした。一方で、「健康診断の定期受診」は、就業頻度が高い会員で低い傾向にあり、今後は高い頻度で働けている元気な会員においても、健康診断の受診を一層推奨する必要性が示唆されました。
- ・幸福感は、「月 1～3 回」のほどほどの頻度で就業している会員で、とくに高い傾向にありました。
- ・フレイルの該当率は、年齢を考慮しても、SC で就業をしていない会員で最も高い結果でした。このことから、SC で就業している会員は、就業していない会員に比べて健康状態が良好である可能性が示唆されました。

第 4 章の引用文献

1. 内閣府. 令和 4 年高齢者の健康に関する調査結果. 2023.
2. Diener E, Pressman SD, Hunter J, Delgado-Chase D. If, Why, and When Subjective Well-Being Influences Health, and Future Needed Research. *Appl Psychol Health Well Being* 2017; 9: 133-167.
3. 葛谷雅文. 老年医学における Sarcopenia&Frailty の重要性. *日本老年医学会雑誌* 2009; 46: 279-285.
4. Yamada M, Arai H. Predictive Value of Frailty Scores for Healthy Life Expectancy in Community-Dwelling Older Japanese Adults. *J Am Med Dir Assoc* 2015; 16: 1002.7-11.



第5章

地域における互助の牽引



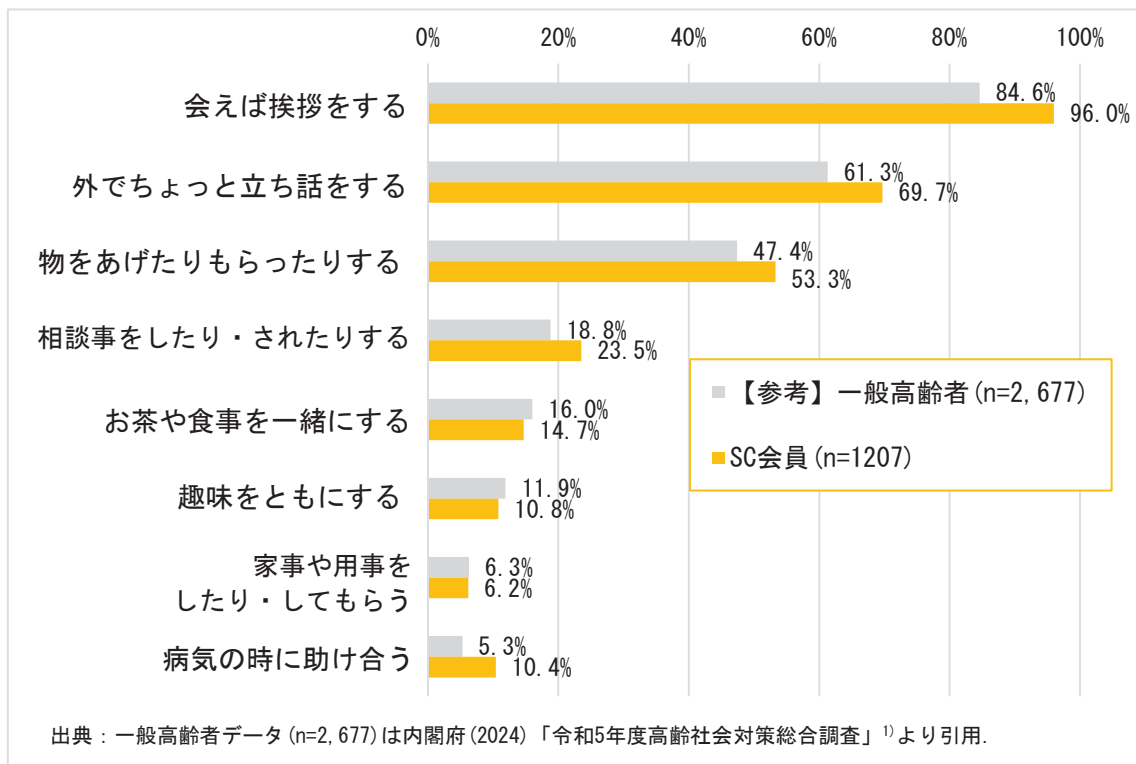
1. 地域との関わり

(1) 近所付き合いの状況

ここでは「普段、近所の人とはどのようなお付き合いをしていますか」という質問への回答を示しています。「会えば挨拶をする」や「外でちょっと立ち話をする」など、ゆるやかな関わりほど実施している人の割合が高い傾向が見られました。この結果は、一般高齢者を対象とした調査結果¹と同様の傾向を示しています。

一方で、一般高齢者¹と比較すると、会員は多くの項目で近所との関わりを持つ割合が高いことが分かりました。ただし、「お茶や食事を一緒にする」「趣味をともにする」「家事や用事をしたり・してもらう」といった項目ではやや低い傾向が見られました。この結果は、男性が多く所属する SC 会員特有の特徴である可能性があります。

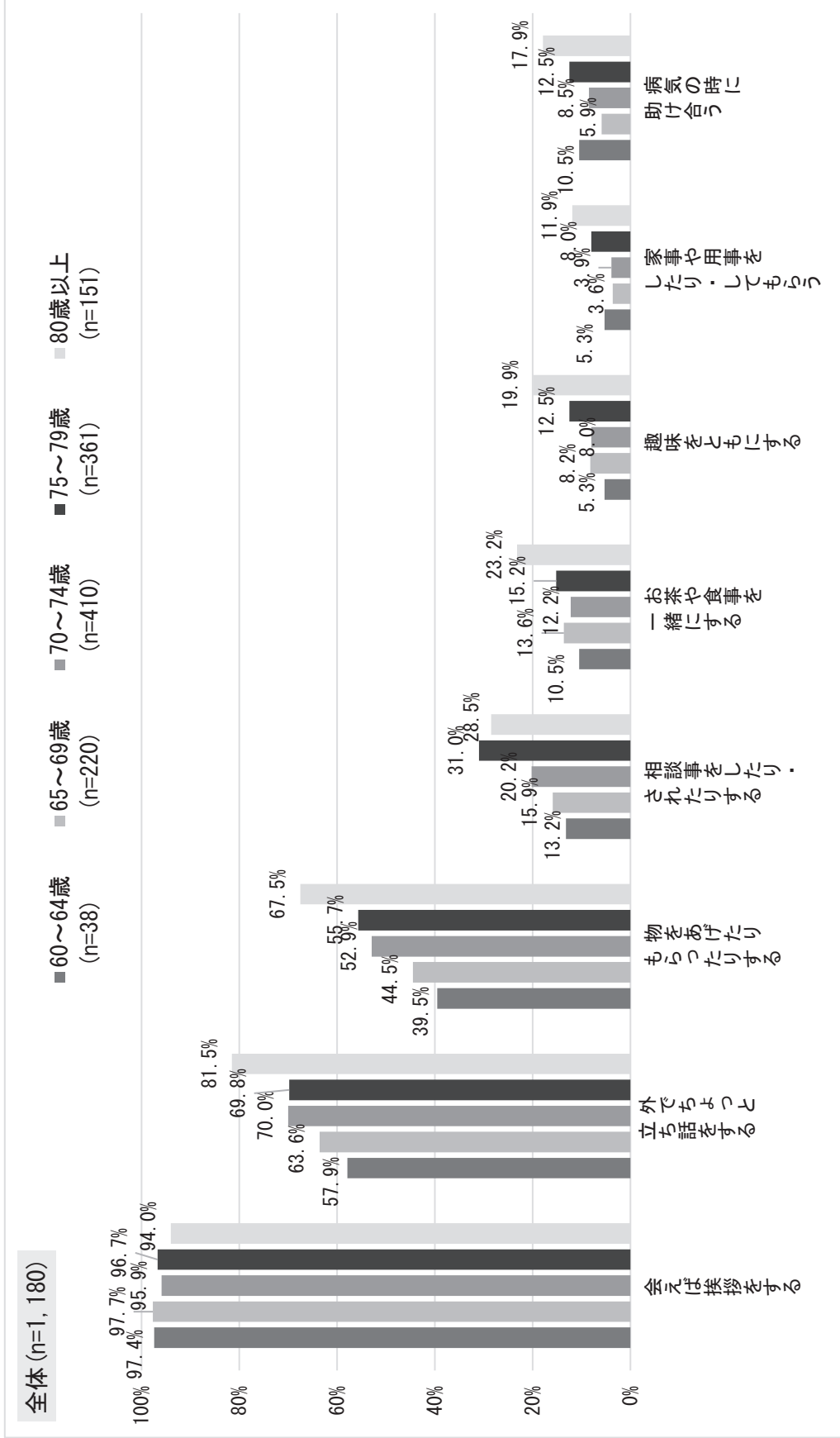
図表 5-1 近所付き合いの状況



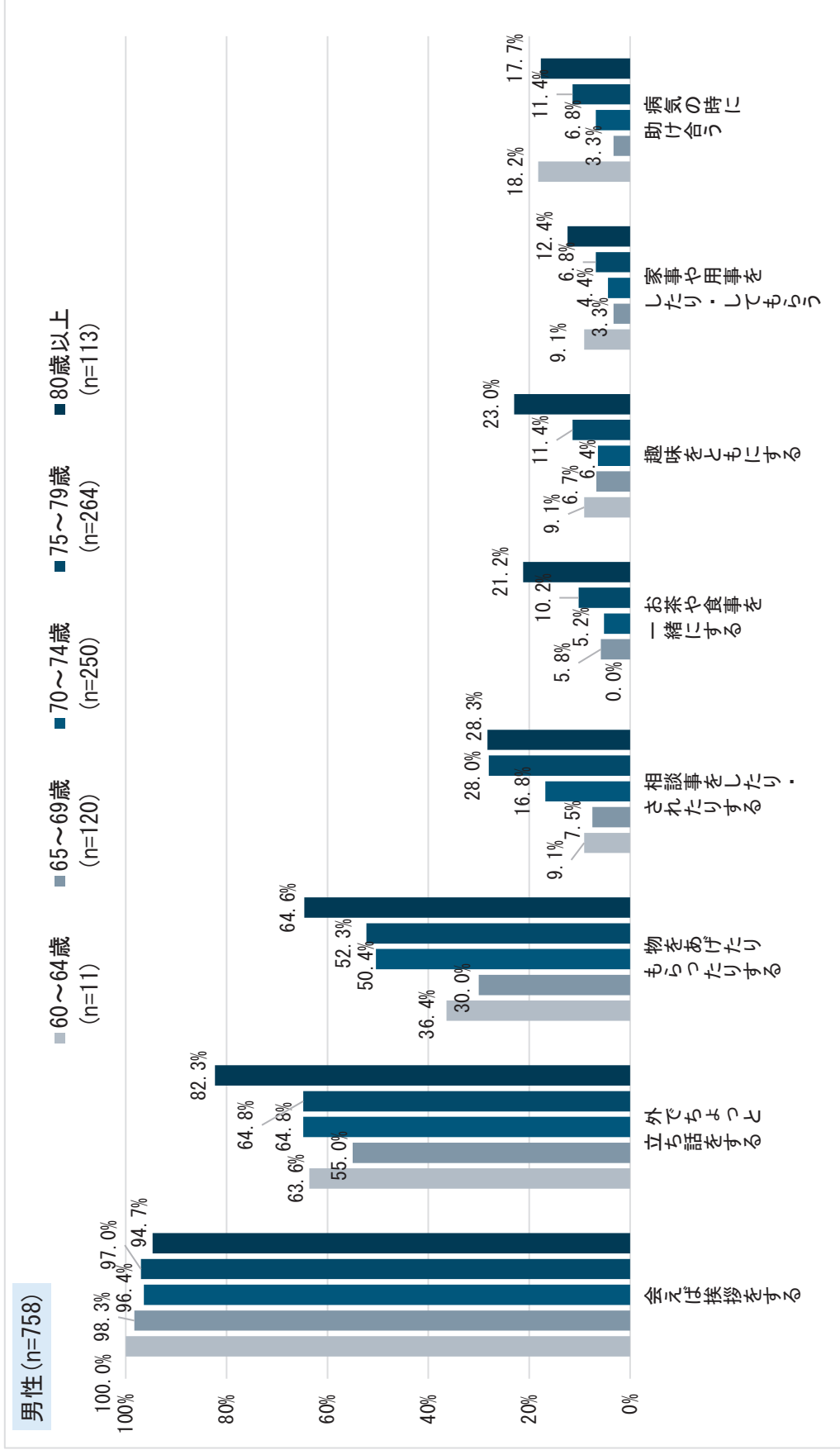
図表 5-2～5-4 は、年齢階層別の近所付き合いの状況を示しています。全体として、「会えば挨拶をする」に関しては、年齢階層による大きな差は見られず、全年齢層で多くの人が実施していることが分かりました。

一方で、その他の近所との関わりについては、年齢が若いほど実施率が低い傾向が見られました。この傾向は男女ともに共通して確認され、高齢層ほど近所付き合いを重要視している可能性を示唆しています。

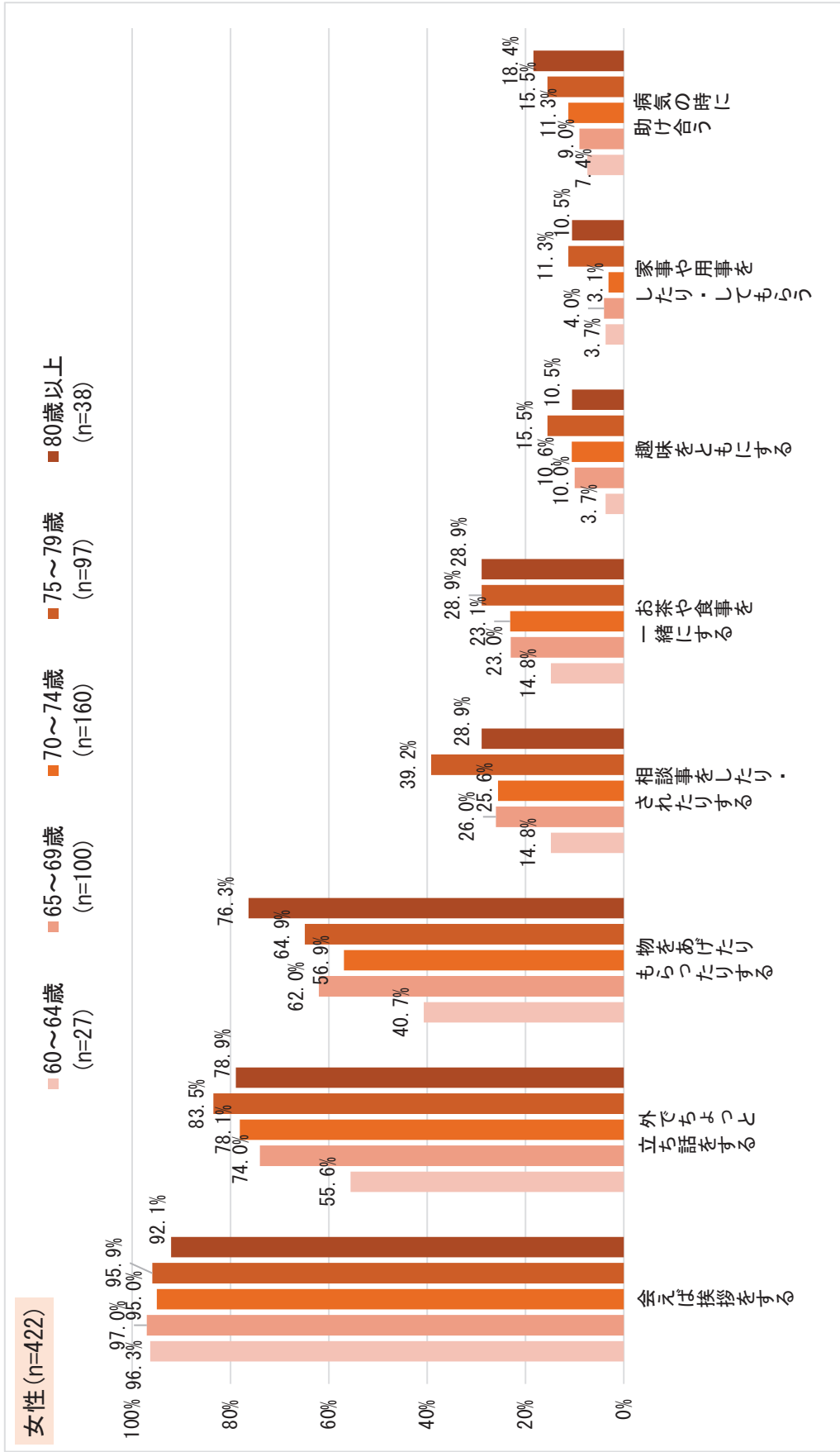
図表 5-2 年齢階層別の近所付き合いの状況



図表 5-3 男性会員の年齢階層別の近所付き合いの状況



図表 5-4 女性会員の年齢階層別の近所付き合いの状況

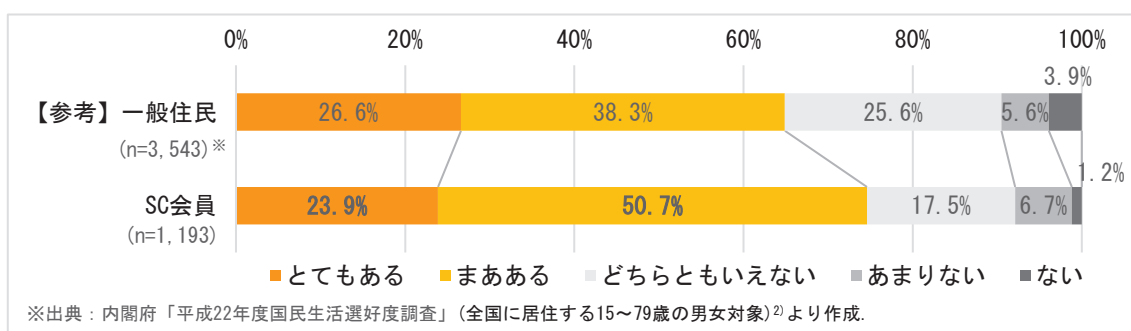


2. 地域への愛着・支援意向

(1) 地域への愛着

ここでは「現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか」という質問への回答結果を示しています。7割以上のSC会員が「地域への愛着がある」（「とてもある」「まあある」の合計）と回答しており、これは全国の一般住民を対象とした調査結果²と比較しても高い割合であることが分かります。

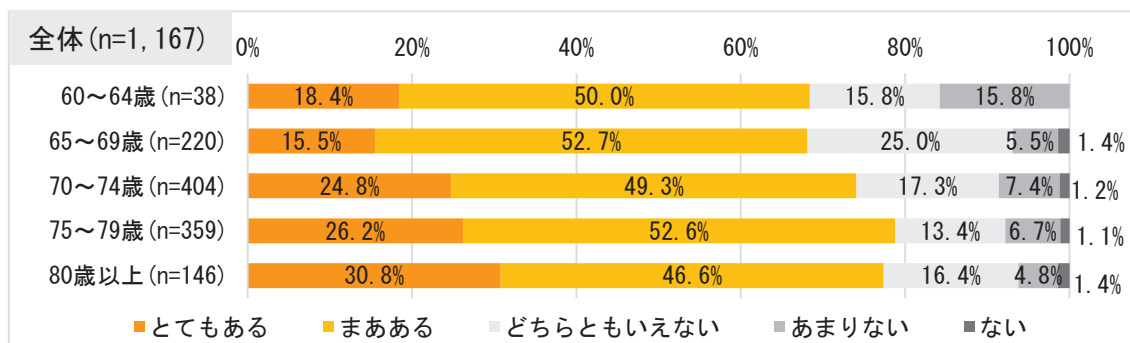
図表 5-5 地域への愛着の状況



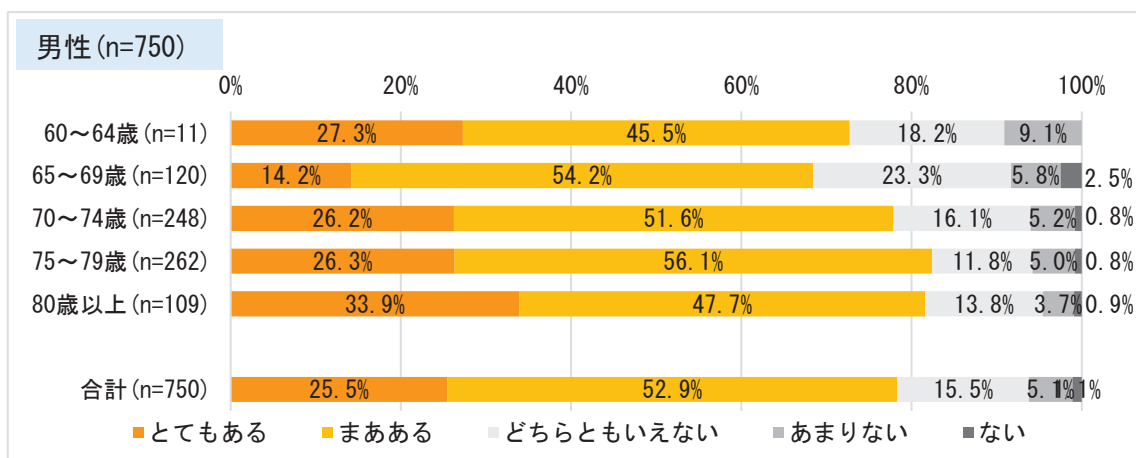
図表 5-6～5-8 は、年齢階層別の地域への愛着状況を示しています。全体、男性、女性のいずれのグループにおいても、70歳以上の年齢階層で「地域への愛着がとてもある」と回答した割合が高い傾向が見られました。

また、男女で比較すると、地域への愛着がある（「とてもある」「まあある」の合計）と回答した割合が、男性が約8割であるのに対し、女性は約7割と、男性の方が約10ポイント高い結果でした。

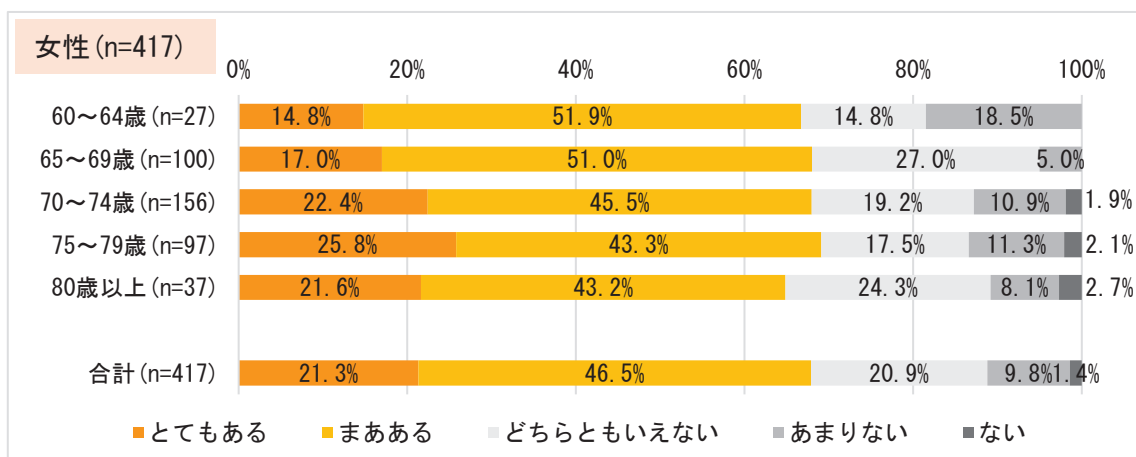
図表 5-6 年齢階層別の地域への愛着の状況



図表 5-7 男性会員の年齢階層別の地域への愛着の状況



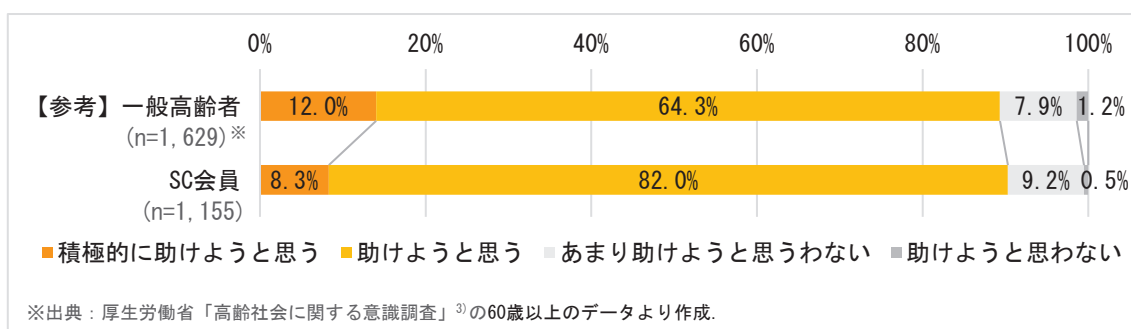
図表 5-8 女性会員の年齢階層別の地域への愛着の状況



(2) 地域への支援意向

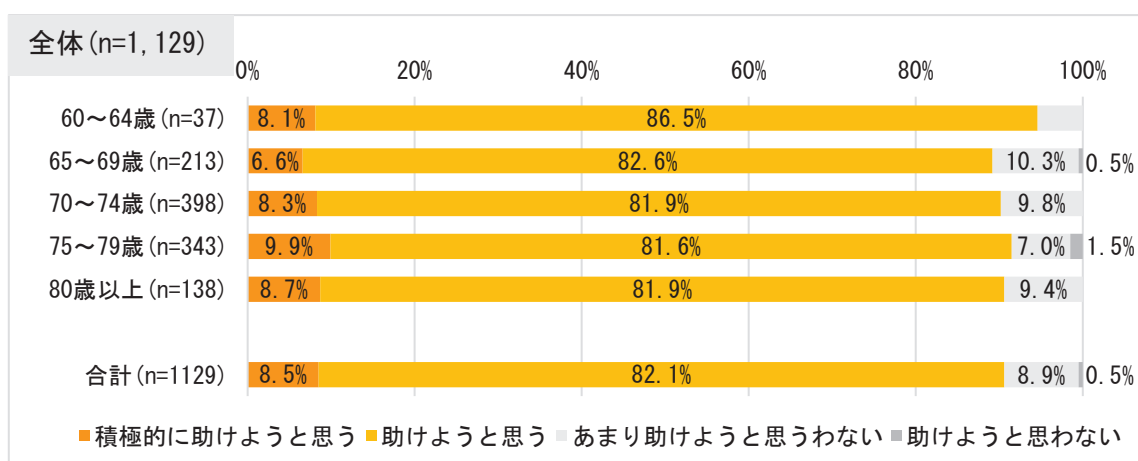
ここでは、「地域で困っている人がいたら、助けようと思いますか」という質問への回答結果を示しています。9割以上のSC会員が、地域への支援意向がある（「積極的に助けようと思う」「助けようと思う」の合計）と回答していました。これは、全国の60歳以上の人を対象とした調査結果³と比較しても、高い値であることが分かります。

図表 5-9 地域への支援意向の状況

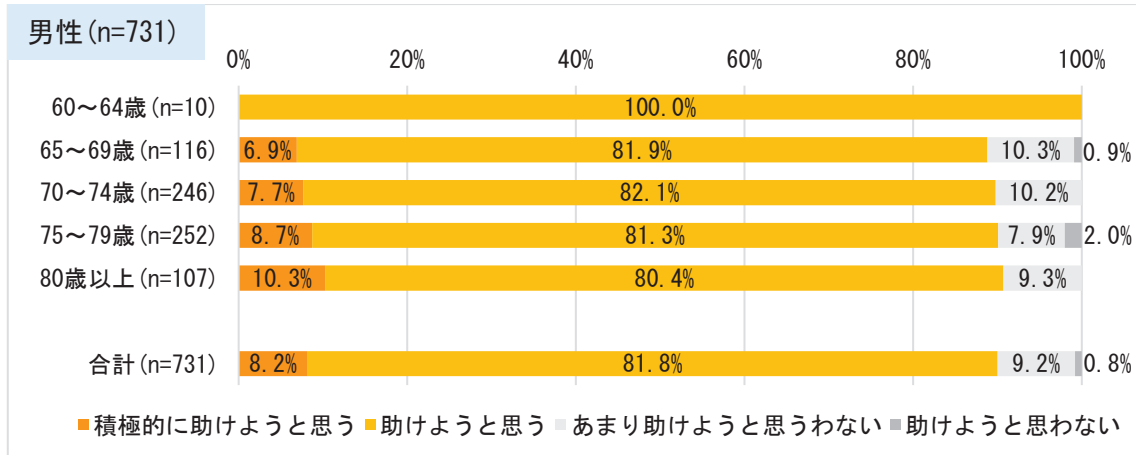


図表 5-10～5-12 は、年齢階層別の地域への支援意向の状況を示しています。全体、男性、女性のいずれのグループにおいても、年齢階層による大きな違いは見られず、どの年齢層でも約9割が地域への支援意向を持っていました。また、男女間での大きな差は確認されませんでした。

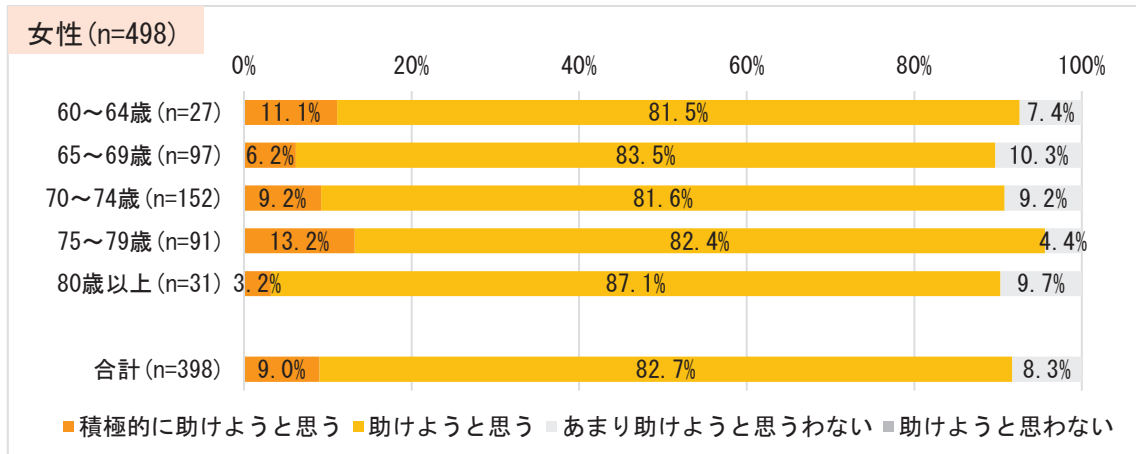
図表 5-10 年齢階層別の地域への支援意向の状況



図表 5-11 男性会員の年齢階層別の地域への支援意向の状況



図表 5-12 女性会員の年齢階層別の地域への支援意向の状況



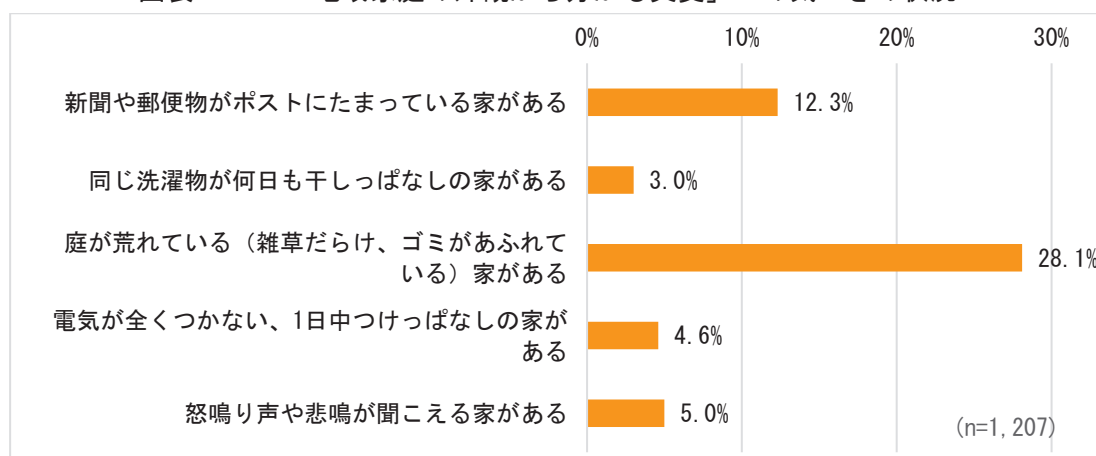
3. 地域の異変への気づき

(1) 地域家庭の外観から分かる異変への気づき

図表 5-13 は、SC 活動を通じた「地域家庭の外観から分かる異変」への気づきの状況を示しています。なお、「地域家庭の外観から分かる異変」の質問項目は高齢者見守りガイドブック等^{4,5}を参考に評価を行いました。

結果として、「庭が荒れている家がある」という気づきが最も多く、次いで「新聞や郵便物がポストにたまっている家がある」という気づきが多いことが分かりました。これらは、一般家庭での除草作業や家事援助を担う SC 会員だからこそ気づきやすい異変であると考えられます。

図表 5-13 「地域家庭の外観から分かる異変」への気づきの状況

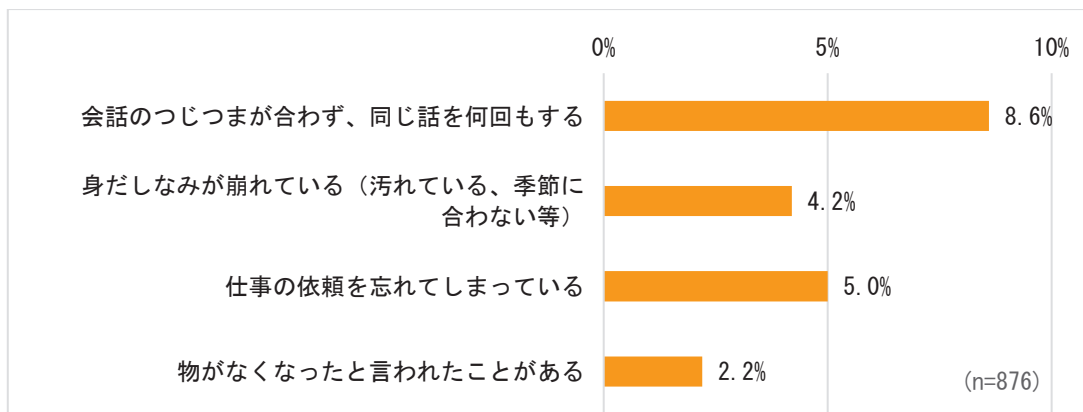


(2) 「高齢発注者の認知機能低下」への気づき

図表 5-14 は、SC 活動を通じた「高齢発注者の認知機能低下」への気づきの状況を示しています。ここでは、年に 1 回以上の就業を行っている会員 876 名を対象に集計しています。質問項目は、高齢者の見守りガイドブック^{4,5}と SC 事務局へのヒアリングをもとに設定しました。

「会話のつじつまが合わず、同じ話を何回もする」という高齢発注者の様子への気づきが多く、次いで「仕事の依頼を忘れてしまっている」が多いことが分かりました。いずれも「気づきあり」の割合は 1 割未満でしたが、地域家庭からの仕事の依頼が多い SC にとって、これらの気づきは支援が必要であるにもかかわらず支援を受けられていない住民を発見する契機になり、地域の見守り役として意義のあるものです。

図表 5-14 「高齢発注者の認知機能低下」への気づきの経験ありの割合

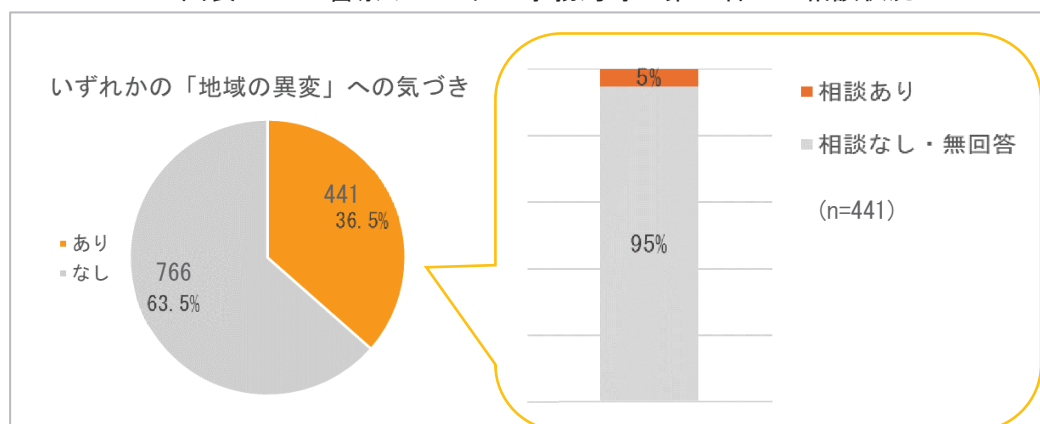


(3) 「地域の異変」への第三者への相談状況

図表 5-15 は、「地域家庭の外観から分かる異変」と「高齢発注者の認知機能低下」のいずれかに「気づきあり」と回答した 441 名のうち、当該事案についての「警察やセンター事務局への相談状況」を示しています。相談ありは 5%に留まり、「相談なし」が 95%でした。

今後はこうした相談体制についても整備することで、SC 活動による地域の見守り機能の強化や、会員が安心して働くための環境作りにつながるでしょう。

図表 5-15 警察やセンター事務局等の第三者への相談状況



4. まとめ

■ 会員の地域でのネットワークや地域への支援意向は？

- ・会員の多くは「会えば挨拶をする」「外でちょっと立ち話をする」など、地域とのゆるやかなつながりを有しており、とくに年齢が高い会員ほど近所付き合いを重要視している傾向にありました。
- ・また会員の9割が、「地域で困っている人がいたら助けたい」という地域への支援意向を有していることが分かりました。

■ SC活動を通じた地域の異変への気づきはあるか？

- ・会員の約4割がSC活動を通じて、何らかの地域家庭の異変に気づいていることが分かりました。特に「庭が荒れている」「新聞や郵便物がたまっている」の項目で異変を察知している割合が高い結果でした。
- ・また、高齢発注者の「同じ話を繰り返す」「仕事の依頼を忘れる」などの認知機能の低下が疑われる様子に気づいたケースも確認されました。この結果は、SCの活動を通して、会員が自然に地域のさりげない見守りを行っていることを示しています。

第5章の引用文献

1. 内閣府. 令和5年度高齢社会対策総合調査. 2024.
2. 内閣府. 平成22年度国民生活選好度調査. 2011.
3. 厚生労働省. 高齢社会に関する意識調査. 2016.
4. 野中久美子, 西真理子, 小林江里香, 他. 「都市部版 地域包括支援センターへの情報提供のチェックシート」作成の試み. 日本公衆衛生雑誌 2013; 60: 651-658.
5. 東京都福祉保健局. 住民の皆さんのための高齢者等の見守りガイドブック第4版. 2023.



第 6 章

地域福祉の担い手としての参画可能性

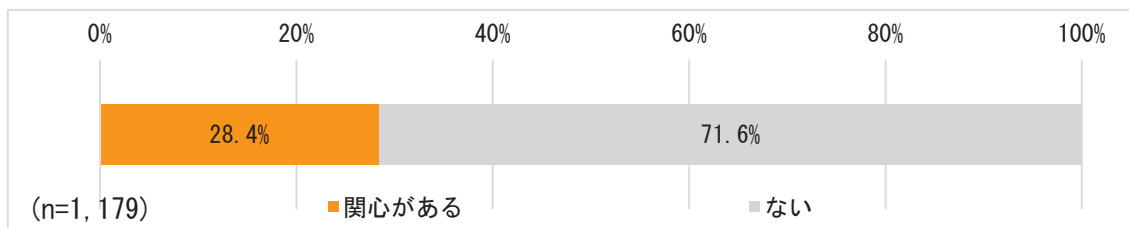


1. 福祉関係の活動への関心

(1) 福祉関係の活動への関心

ここでは、「介護などの福祉に関わる就業・活動をしてみたいですか」という質問への回答を示しています。会員の約3割が「関心がある」と回答していました。

図表 6-1 福祉関係の活動への関心

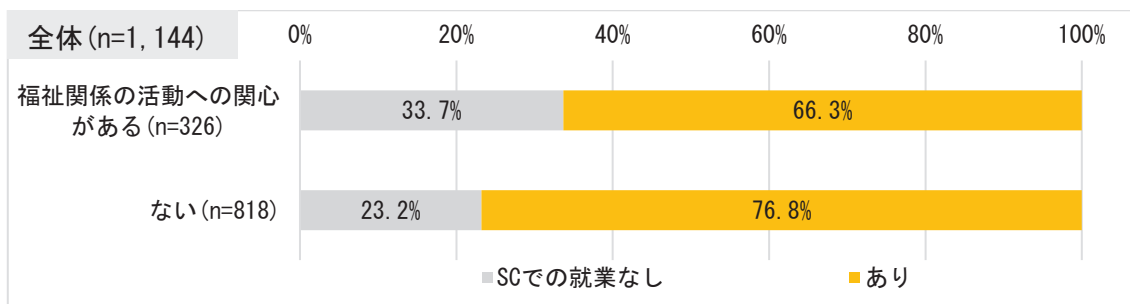


(2) 福祉への関心がある会員の就業状況

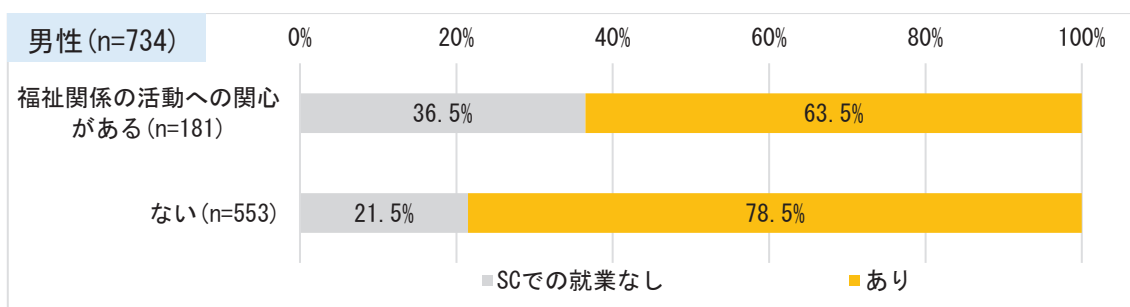
ここでは、福祉関係の活動への関心の有無により SC や地域での活動状況に違いがあるかを明らかにしました。

図表 6-2～6-4 は、福祉関係の活動への関心有無別にみた SC での就業状況を示しています。女性では福祉関係の活動への関心の有無による就業率に大きな差は認められませんでした。一方男性では、福祉関係の活動への関心がある会員の就業率が、関心がない会員より 15 ポイント低いことが分かりました。この背景には、現状 SC で提供される保育や介護などの福祉関係の仕事が主に女性会員によって担われており、男性会員にはこれらのニーズに合った就業機会が不足しているため、SC での就業に結びついていない可能性が考えられます。福祉関係の就業は、地域でも人手不足が続いている職種であるため、今後 SC では、男性会員が参画できる福祉関係の就業機会を充実させることが重要でしょう。

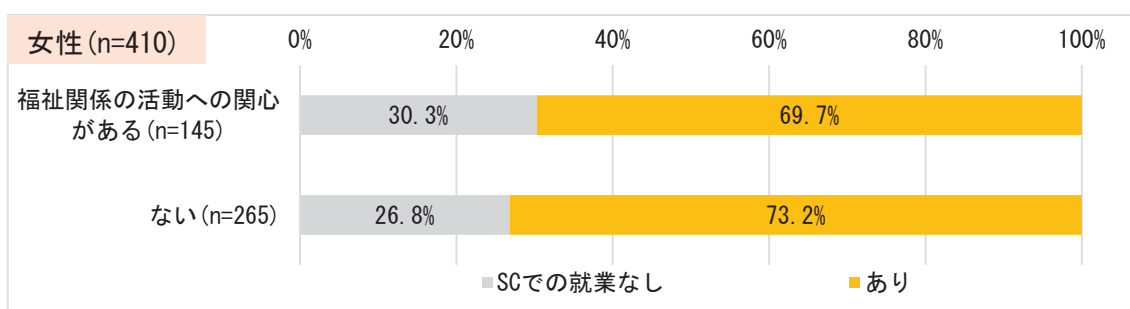
図表 6-2 福祉関係の活動への関心別にみる SC での就業状況



図表 6-3 男性会員における福祉関係の活動への関心別にみる SC での就業状況



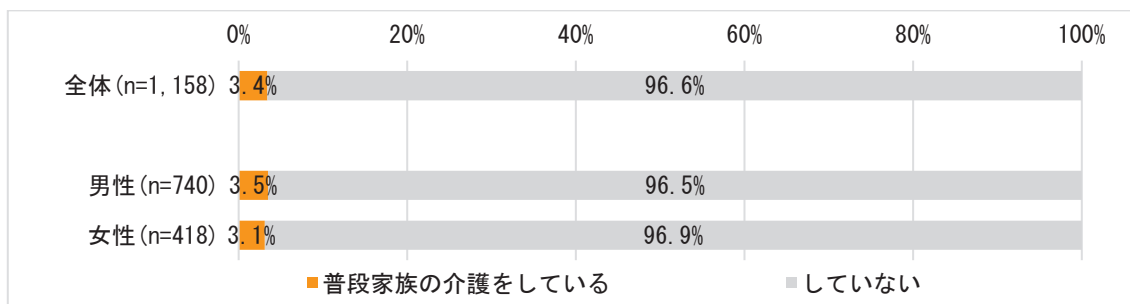
図表 6-4 女性会員における福祉関係の活動への関心別にみる SC での就業状況



(3) 家族への介護状況と福祉関係への活動への関心

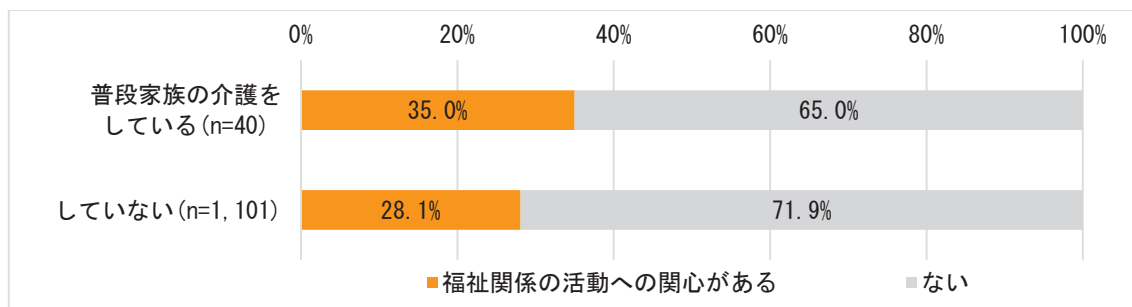
ここでは、介護の実施状況と福祉関係の活動への関心との関係を明らかにしました。図表 6-5 は、介護の実施状況を示しており、男性では 3.5%が、女性では 3.1%が普段家族の介護を担っていることが分かりました。SC の全国統計によれば、会員の退会理由の上位 5 つに「家庭の事情（介護等）」（「その他」を除いた場合）があり¹、会員の介護と就業の両立に向けた支援は重要であることが分かります。したがって、この約 3%という割合は決して無視できる数値ではないでしょう。

図表 6-5 普段家族の介護をしている会員の割合



図表 6-6 は、家族への介護状況別にみた福祉関係の活動への関心の状況です。普段家族の介護を行っている会員は、「福祉関係の活動への関心がある」と答える割合が高い傾向にありました。この背景には、自身の介護経験を活かしたいという意欲が反映されていると考えられます。今後、こうした会員が福祉関係の活動に積極的に関わることで、その経験や知識が地域や会員間で広く共有されることが期待されます。

図表 6-6 家族への介護状況別にみる福祉関係の活動への関心

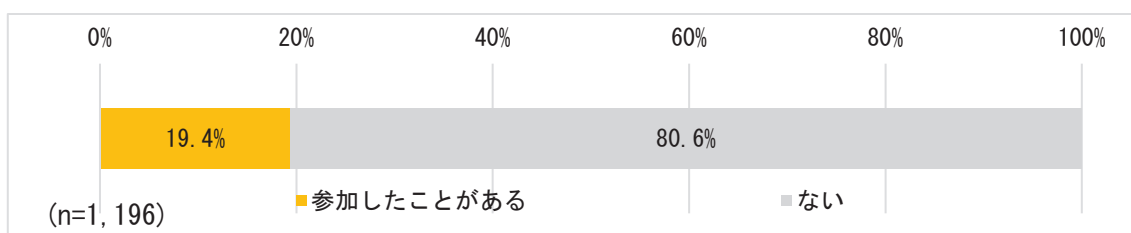


2. 認知症への理解

(1) 認知症に関する情報

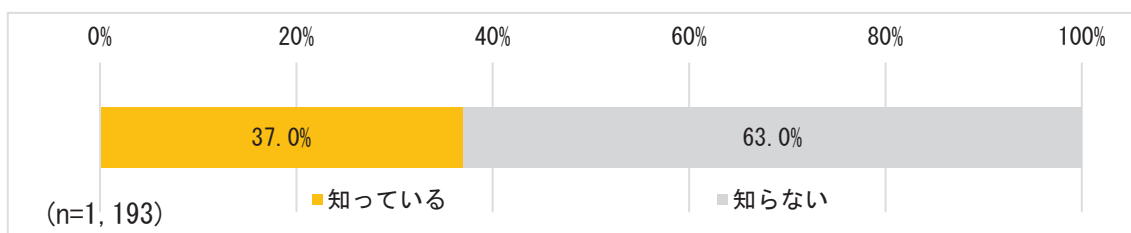
図表 6-7 は、認知症に関する研修や勉強会への参加状況を示しています。「参加したことがある」会員は2割に留まりました。「参加したことがない」のなかには「参加したいが、知らない」人が一定数いる可能性があるため、今後はSCにおいてこうした学びの機会の設定や周知に注力することが必要でしょう。

図表 6-7 認知症に関する研修や勉強会への参加状況



図表 6-8 は、認知症に関する地域の相談窓口の認知度について「認知症に関する地域の相談窓口を知っていますか」という質問により把握しました。「知っている」会員は約4割に留まりました。

図表 6-8 認知症に関する地域の相談窓口の認知度



(2) 認知症の人への態度

ここでは「認知症の人への態度尺度」²を用い、SC会員の認知症の人への態度を明らかにしました。図表6-9は各項目への回答分布を示しています。黄色で示した選択肢が、受容的な態度を示しています。

全体的に受容的な選択肢を選ぶ人が多いですが、とくに「①認知症の人も周りの人と仲良くする能力がある」や「③認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる」で受容的な態度がみられました。

一方で、「⑤認知症の人は周りの人を困らせることが多い」「⑬認知症の人はいつ何をするかわからない」では受容的な態度を有する人は4割弱に留まっています。これらの項目は認知症の症状に関する理解を含むため、今後は認知症に関する知識を深める機会を設けることが重要であると考えられます。

図表 6-9 「認知症の人への態度尺度」の回答分布

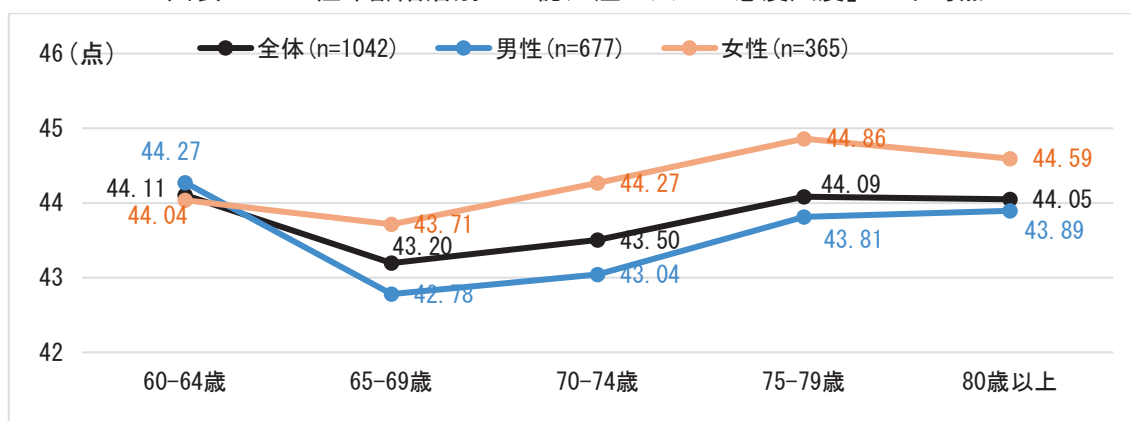
(%)	そ 全 う 全 思 思 わ わ な 不 い	そ や う や 思 思 わ 不 な 不 い	や や や そ や そ う 思 思 う	そ う 思 う
①認知症の人も周りの人と仲良くする能力がある	3.1	10.4	54.4	32.0
②普段の生活でもっと認知症の人と関わる機会があってもよい	5.7	22.7	50.8	20.9
③認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる	0.8	9.9	47.8	41.5
④認知症の人も地域活動に参加した方がよい	2.8	14.8	55.3	27.2
⑤認知症の人は周りの人を困らせることが多い	5.5	30.3	53.6	10.6
⑥認知症の人はわれわれと違う感情を持っている	17.0	38.6	34.5	9.9
⑦認知症の人と喜びや楽しみを分かち合える	3.4	14.3	57.3	25.0
⑧認知症の人とちゅうちょなく話せる	3.3	22.7	47.7	26.3
⑨家族が認知症になったら、世間体や周囲の目が気になる	18.1	25.3	45.0	11.6
⑩家族が認知症になったら、近所づきあいがしにくくなる	21.4	30.6	38.7	9.2
⑪認知症の人が自分の家の隣に引っ越してきてもかまわない	7.0	32.8	38.0	22.3
⑫認知症の人の行動は、理解できない	13.1	38.9	38.7	9.3
⑬認知症の人はいつ何をするかわからない	8.1	29.4	50.7	11.8
⑭認知症の人とは、できる限り関わりたくない	23.1	48.0	25.5	3.4

n=1,064. 肯定的な態度を示す回答を黄色で示した

図表 6-10 は、認知症の人への態度尺度の平均点を性年齢階層別に示しました。この尺度は、14 点～56 点の範囲で点数が高いほど受容的な態度であることを意味します。

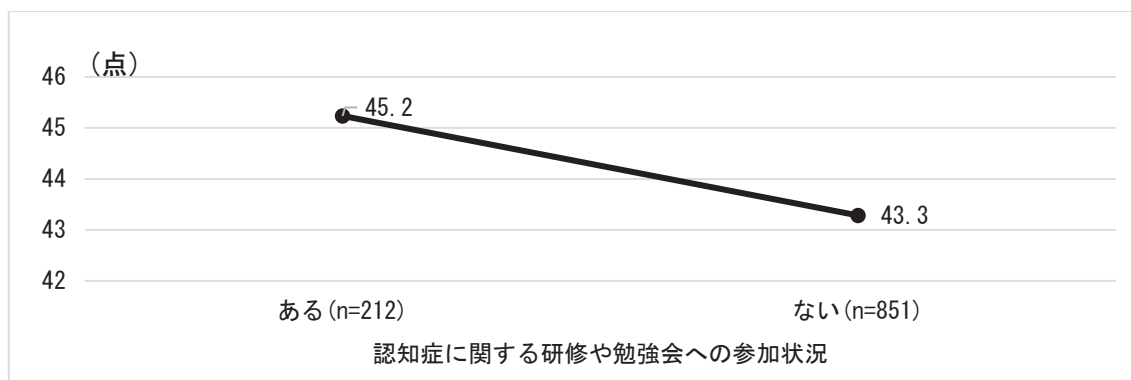
全体、男性、女性で共通して、いずれの年齢階層でも 40 点台と高い値であり、SC 会員の多くは性年齢階層に関係なく、認知症の人への受容的な態度を持っていることが確認されました。

図表 6-10 性年齢階層別の「認知症の人への態度尺度」の平均点



図表 6-11 は、認知症に関する研修・勉強会への参加状況別の「認知症の人への態度尺度」の平均点を示しました。研修・勉強会に参加経験がある人で、平均点が約 2 ポイント高いことから、知識の習得によって受容的な態度形成が図られている可能性が考えられました。

図表 6-11 研修・勉強会への参加状況別の「認知症の人への態度尺度」の平均点



図表 6-12 は、認知症に関する相談窓口の認知度別の「認知症の人への態度尺度」の平均点を示しました。相談窓口を知っている人の平均点は約 2 ポイント高い結果でした。この背景には、地域の支援体制を把握していることで、「認知症になっても大丈夫」という安心感が生まれ、認知症の人への受容的な態度形成につながった可能性が

考えられます。一方で、認知症の人に対して否定的な態度を持つ人は、相談窓口や関連情報への接触を避ける傾向がある可能性が考えられます。

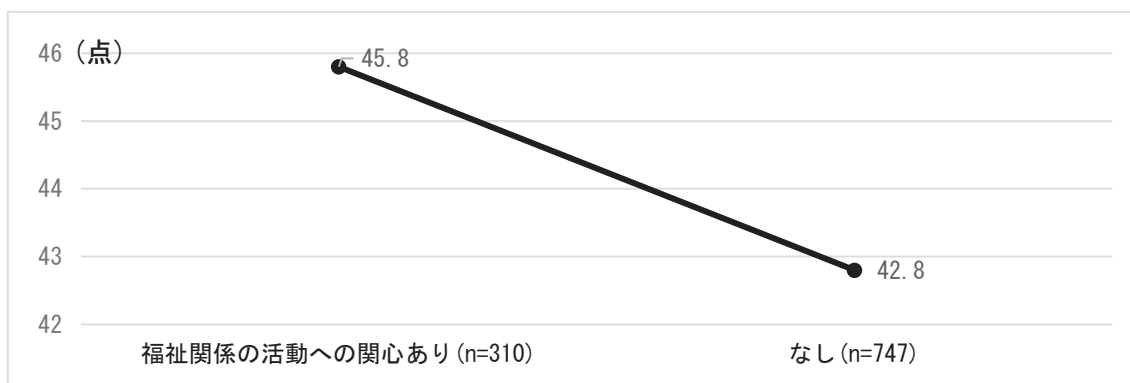
図表 6-12 認知症の相談窓口の認知度別の「認知症の人への態度尺度」平均点



図表 6-13 は、福祉関係の活動への関心別の「認知症の人への態度尺度」の平均点を示しました。福祉関係の活動への関心がある人で平均点は 3 ポイント高い結果でした。このことから、福祉関係の活動への関心がある人には、認知症の人への受容的な態度を持つ傾向がある可能性が示唆されます。また、認知症の人への受容的な態度を持つ人ほど福祉関係の活動に関心を抱きやすい可能性も考えられます。

したがって今後、SC が地域のニーズに応え、福祉関係の活動への参画を促進するうえで、会員が認知症の人への受容的な態度を育むことが重要といえます。そのためには、現在約 2 割に留まった認知症に関する研修会などの学びの機会を充実させることが有効でしょう。

図表 6-13 福祉関係の活動への関心別の「認知症の人への態度尺度」平均点



3. まとめ

■ 会員は福祉関係の活動に関心があるか？


- ・ 会員の約 3 割が、「福祉関係の活動に関心がある」ことが分かりました。
- ・ 特に、家族の介護をしている会員で、福祉関係の活動へ関心が高い傾向にあり、自身の経験を活かしたいと考える会員が多いことが考えられました。
- ・ 一方男性会員では、福祉関係の活動に関心が高いほど、SC での就業率が低い傾向にありました。したがって今後は、男性会員が参画できる福祉関係の就業などの活躍の機会を増やすことが重要でしょう。

■ 会員の認知症への理解はどの程度か？

- ・ 認知症の人への態度尺度への回答結果から、会員の多くは、受容的な態度を有していることが分かりました。
- ・ 一方、認知症の症状に関する項目については、受容的な態度の回答が少ない傾向がありました。
- ・ また「認知症に関する相談窓口を知っている」会員は、約 4 割に留まったことから、認知症に関する情報提供を充実化することが必要と考えられます。

第 6 章の引用文献：

1. 公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会. 令和 5 年度統計年報. 2024.
2. 金高間, 黒田研二. 認知症の人に対する態度に関連する要因：認知症に関する態度尺度と知識尺度の作成. 社会医学研究 2011; 28: 43-56.



第 7 章
資料編

1. アンケート調査の単純集計

<問1 認知症の人との関わり・イメージ>

(1) センターの就業等の活動時における地域の異変への気づき

① 高齢の発注者が会話のつじつまが
合わず、同じ話を何回もする

	n	%
ある	99	8.2%
ない	1004	83.2%
無回答	104	8.6%
合計	1207	100.0%

② 高齢の発注者が仕事の依頼を忘れて
しまっている

	n	%
ある	59	4.9%
ない	1042	86.3%
無回答	106	8.8%
合計	1207	100.0%

③ 高齢の発注者の身だしなみが崩れて
いる(汚れている、季節に合わない)

	n	%
ある	50	4.1%
ない	1048	86.8%
無回答	109	9.0%
合計	1207	100.0%

④ 高齢の発注者から物がなくなったと
言われたことがある

	n	%
ある	24	2.0%
ない	1075	89.1%
無回答	108	8.9%
合計	1207	100.0%

⑤ 地域に新聞や郵便物がポストにたま
っている家がある

	n	%
ある	148	12.3%
ない	971	80.4%
無回答	88	7.3%
合計	1207	100.0%

⑥ 地域に同じ洗濯物が何日も干しっぱ
なしの家がある

	n	%
ある	36	3.0%
ない	1075	89.1%
無回答	96	8.0%
合計	1207	100.0%

⑦ 地域に庭が荒れている(雑草だら
け、ゴミがあふれている)家がある

	n	%
ある	339	28.1%
ない	789	65.4%
無回答	79	6.5%
合計	1207	100.0%

⑧ 地域に電気が全くつかない、もしく
は1日中つけっぱなしの家がある

	n	%
ある	56	4.6%
ない	1059	87.7%
無回答	92	7.6%
合計	1207	100.0%

⑨地域に怒鳴り声や悲鳴が聞こえる家がある

	n	%
ある	60	5.0%
ない	1062	88.0%
無回答	85	7.0%
合計	1207	100.0%

(2) 地域の異変について SC や警察等に相談したか

((1)①～⑨のいずれかで「あり」と回答した 441 名が対象)

	n	%
はい	24	5.4%
いいえ	396	89.8%
無回答	21	4.8%
合計	441	100.0%

(3) 認知症の人への態度

①認知症の人でも周りの人と仲良くする能力がある

	n	%
全くそう思わない	36	3.0%
ややそう思わない	119	9.9%
ややそう思う	630	52.2%
そう思う	364	30.2%
無回答	58	4.8%
合計	1207	100.0%

②普段の生活でもっと認知症の人と関わる機会があってもよい

	n	%
全くそう思わない	69	5.7%
ややそう思わない	255	21.1%
ややそう思う	583	48.3%
そう思う	240	19.9%
無回答	60	5.0%
合計	1207	100.0%

③認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる

	n	%
全くそう思わない	11	0.9%
ややそう思わない	116	9.6%
ややそう思う	550	45.6%
そう思う	485	40.2%
無回答	45	3.7%
合計	1207	100.0%

④認知症の人でも地域活動に参加した方がよい

	n	%
全くそう思わない	35	2.9%
ややそう思わない	174	14.4%
ややそう思う	634	52.5%
そう思う	310	25.7%
無回答	54	4.5%
合計	1207	100.0%

⑤認知症の人は周りの人を困らせることが多い

	n	%
全くそう思わない	64	5.3%
ややそう思わない	342	28.3%
ややそう思う	607	50.3%
そう思う	127	10.5%
無回答	67	5.6%
合計	1207	100.0%

⑥認知症の人はわれわれと違う感情を持っている

	n	%
全くそう思わない	196	16.2%
ややそう思わない	432	35.8%
ややそう思う	395	32.7%
そう思う	115	9.5%
無回答	69	5.7%
合計	1207	100.0%

⑦認知症の人と喜びや楽しみを分かち合える

	n	%
全くそう思わない	42	3.5%
ややそう思わない	164	13.6%
ややそう思う	654	54.2%
そう思う	286	23.7%
無回答	61	5.1%
合計	1207	100.0%

⑧認知症の人とちゅうちょなく話せる

	n	%
全くそう思わない	43	3.6%
ややそう思わない	258	21.4%
ややそう思う	539	44.7%
そう思う	304	25.2%
無回答	63	5.2%
合計	1207	100.0%

⑨家族が認知症になったら、世間体や周囲の目が気になる

	n	%
全くそう思わない	208	17.2%
ややそう思わない	292	24.2%
ややそう思う	517	42.8%
そう思う	139	11.5%
無回答	51	4.2%
合計	1207	100.0%

⑩家族が認知症になったら、近所づきあいがしにくくなる

	n	%
全くそう思わない	245	20.3%
ややそう思わない	351	29.1%
ややそう思う	449	37.2%
そう思う	109	9.0%
無回答	53	4.4%
合計	1207	100.0%

⑪認知症の人が自分の家の隣に引っ越し
してきてもかまわない

	n	%
全くそう思わない	86	7.1%
ややそう思わない	369	30.6%
ややそう思う	437	36.2%
そう思う	254	21.0%
無回答	61	5.1%
合計	1207	100.0%

⑫認知症の人を支えるには、色々な人
の力をかりるのがよい

	n	%
全くそう思わない	18	1.5%
ややそう思わない	33	2.7%
ややそう思う	361	29.9%
そう思う	743	61.6%
無回答	52	4.3%
合計	1207	100.0%

⑬認知症の人の行動は、理解できない

	n	%
全くそう思わない	149	12.3%
ややそう思わない	444	36.8%
ややそう思う	444	36.8%
そう思う	112	9.3%
無回答	58	4.8%
合計	1207	100.0%

⑭認知症の人はいつ何をするかかわら
ない

	n	%
全くそう思わない	90	7.5%
ややそう思わない	331	27.4%
ややそう思う	583	48.3%
そう思う	140	11.6%
無回答	63	5.2%
合計	1207	100.0%

⑮認知症の人とはできる限り関わりた
くない

	n	%
全くそう思わない	263	21.8%
ややそう思わない	552	45.7%
ややそう思う	293	24.3%
そう思う	43	3.6%
無回答	56	4.6%
合計	1207	100.0%

(4) 家族や身内に認知症の診断を受けた方がいるか

	n	%
はい	262	21.7%
いいえ	834	69.1%
無回答	111	9.2%
合計	1207	100.0%

(5) 認知症に関する研修や勉強に参加したことがあるか

	n	%
はい	232	19.2%
いいえ	964	79.9%
無回答	11	0.9%
合計	1207	100.0%

(6) 認知症に関する地域の相談窓口を知っているか

	n	%
はい	441	36.5%
いいえ	752	62.3%
無回答	14	1.2%
合計	1207	100.0%

(7) 介護などの福祉に関わる就業・活動をしてみたいか

	n	%
はい	335	27.8%
いいえ	844	69.9%
無回答	28	2.3%
合計	1207	100.0%

<問2 地域・人とのつながり>

(1) 現在住んでいる地域にどの程度愛着があるか

	n	%
とてもある	285	23.6%
まあある	605	50.1%
どちらとも言えない	209	17.3%
あまりない	80	6.6%
ない	14	1.2%
無回答	14	1.2%
合計	1207	100.0%

(2) 普段、近所の人とどのようなお付き合いをしていますか

① 会えば挨拶をする

	n	%
非該当	48	4.0%
該当	1159	96.0%
合計	1207	100.0%

② 外でちょっと立ち話をする

	n	%
非該当	366	30.3%
該当	841	69.7%
合計	1207	100.0%

③物をあげたり、もらったりする

	n	%
非該当	564	46.7%
該当	643	53.3%
合計	1207	100.0%

④相談事があった時、相談したり・されたりする

	n	%
非該当	923	76.5%
該当	284	23.5%
合計	1207	100.0%

⑤お茶や食事を一緒にする

	n	%
非該当	1030	85.3%
該当	177	14.7%
合計	1207	100.0%

⑥趣味をともにする

	n	%
非該当	1077	89.2%
該当	130	10.8%
合計	1207	100.0%

⑦家事やちょっとした用事をしたり・してもらう

	n	%
非該当	1132	93.8%
該当	75	6.2%
合計	1207	100.0%

⑧病気の時に助け合う

	n	%
非該当	1081	89.6%
該当	126	10.4%
合計	1207	100.0%

(3) 地域で困っている人がいたら、助けようと思いますか

	n	%
積極的に助けようと思う	96	8.0%
助けようと思う	947	78.5%
あまり助けようと思わない	106	8.8%
助けようと思わない	6	0.5%
無回答	52	4.3%
合計	1207	100.0%

(4) センター以外で、以下の活動にどのくらいの頻度で参加していますか

① センター以外の就業

	n	%
週4回以上	62	5.1%
週2-3回	107	8.9%
週1回	36	3.0%
月1-3回	51	4.2%
年数回	107	8.9%
なし	767	63.5%
無回答	77	6.4%
合計	1207	100.0%

② センター以外のボランティア

	n	%
週4回以上	22	1.8%
週2-3回	39	3.2%
週1回	38	3.1%
月1-3回	102	8.5%
年数回	176	14.6%
なし	758	62.8%
無回答	72	6.0%
合計	1207	100.0%

③ 町内会・自治会

	n	%
週4回以上	12	1.0%
週2-3回	19	1.6%
週1回	32	2.7%
月1-3回	146	12.1%
年数回	392	32.5%
なし	530	43.9%
無回答	76	6.3%
合計	1207	100.0%

④ スポーツ関係の集まり

	n	%
週4回以上	20	1.7%
週2-3回	59	4.9%
週1回	62	5.1%
月1-3回	100	8.3%
年数回	87	7.2%
なし	794	65.8%
無回答	85	7.0%
合計	1207	100.0%

⑤ 趣味関係の集まり

	n	%
週4回以上	9	0.7%
週2-3回	38	3.1%
週1回	75	6.2%
月1-3回	189	15.7%
年数回	157	13.0%
なし	666	55.2%
無回答	73	6.0%
合計	1207	100.0%

⑥ 学習・教養サークル

	n	%
週4回以上	1	0.1%
週2-3回	13	1.1%
週1回	38	3.1%
月1-3回	108	8.9%
年数回	102	8.5%
なし	849	70.3%
無回答	96	8.0%
合計	1207	100.0%

⑦友人との集まり

	n	%
週4回以上	8	0.7%
週2-3回	26	2.2%
週1回	59	4.9%
月1-3回	245	20.3%
年数回	534	44.2%
なし	277	22.9%
無回答	58	4.8%
合計	1207	100.0%

⑧親戚での集まり

	n	%
週4回以上	4	0.3%
週2-3回	13	1.1%
週1回	23	1.9%
月1-3回	107	8.9%
年数回	683	56.6%
なし	313	25.9%
無回答	64	5.3%
合計	1207	100.0%

(5)週にどのくらい外出していますか

	n	%
ほとんど外出してない	13	1.1%
週1回程度	73	6.0%
週2-4回	525	43.5%
週5回以上	577	47.8%
無回答	19	1.6%
合計	1207	100.0%

(6)病気で数日寝込んだ時に、看病してくれている人はいるか

	n	%
はい	1011	83.8%
いいえ	180	14.9%
無回答	16	1.3%
合計	1207	100.0%

(7)心配事や愚痴を聞いてくれる人はいるか

	n	%
はい	1060	87.8%
いいえ	131	10.9%
無回答	16	1.3%
合計	1207	100.0%

<問 3 SC での活動状況>

(1) センターの在籍年数

	n	%
1 年未満	94	7.8%
1 年以上 3 年未満	286	23.7%
3 年以上 5 年未満	214	17.7%
5 年以上 10 年未満	313	25.9%
10 年以上	256	21.2%
無回答	44	3.6%
合計	1207	100.0%

(2) センターでの就業頻度

	n	%
週 4 回以上	144	11.9%
週 2-3 回	510	42.3%
週 1 回	62	5.1%
月 1-3 回	80	6.6%
年数回	80	6.6%
していない	310	25.7%
無回答	21	1.7%
合計	1207	100.0%

※以下(3)～(6)は、センターで「年数回」～「週 4 回以上」就業をしている 876 名を対象とした。

(3) 1 回の就業時間はどのくらいですか

	n	%
5 時間以上	335	38.2%
3-4 時間	462	52.7%
1-2 時間	65	7.4%
1 時間未満	6	0.7%
無回答	8	0.9%
合計	876	100.0%

(4) 主に従事している仕事内容は何ですか

	n	%
植木の剪定	38	4.3%
除草作業	62	7.1%
屋外の清掃、洗車後の拭き上げ	113	12.9%
スーパーのカート整理、品出し、商品整理	167	19.1%
施設管理（公共施設・マンション等）	97	11.1%
チラシ配布、メーター検針・調査	14	1.6%
事務仕事（封入、書類整理、データ入力等）	61	7.0%
家事援助	46	5.3%
その他	278	30.7%
合計	876	100.0%

(5) 現在のセンターでの仕事についてお答えください

①自分のペースで仕事ができる

	n	%
そうだ	325	37.1%
まあそうだ	404	46.1%
あまりそうではない	68	7.8%
そうではない	46	5.3%
無回答	33	3.8%
合計	876	100.0%

②仕事内容は、自分に合っていると思う

	n	%
そうだ	319	36.4%
まあそうだ	423	48.3%
あまりそうではない	94	10.7%
そうではない	13	1.5%
無回答	27	3.1%
合計	876	100.0%

③からだ（体力や筋力）をよく使う仕事である

	n	%
そうだ	312	35.6%
まあそうだ	322	36.8%
あまりそうではない	143	16.3%
そうではない	69	7.9%
無回答	30	3.4%
合計	876	100.0%

④あたま（注意力や集中力）をよく使う仕事である

	n	%
そうだ	146	16.7%
まあそうだ	378	43.2%
あまりそうではない	258	29.5%
そうではない	64	7.3%
無回答	30	3.4%
合計	876	100.0%

⑤対人スキル（発注者や仲間との意思疎通）が必要である

	n	%
そうだ	227	25.9%
まあそうだ	369	42.1%
あまりそうではない	166	18.9%
そうではない	80	9.1%
無回答	34	3.9%
合計	876	100.0%

⑥仕事仲間に、愚痴や心配事を話すことができる

	n	%
そうだ	105	12.0%
まあそうだ	331	37.8%
あまりそうではない	227	25.9%
そうではない	160	18.3%
無回答	53	6.1%
合計	876	100.0%

⑦仕事仲間は、困っていることがある
と助けてくれる

	n	%
そうだ	160	18.3%
まあそうだ	456	52.1%
あまりそうではない	98	11.2%
そうではない	103	11.8%
無回答	59	6.7%
合計	876	100.0%

(1) これまで就業中にケガや体調不良になった経験はありますか

	n	%
ある	68	7.8%
少しある	107	12.2%
あまりない	117	13.4%
ない	580	66.2%
無回答	4	0.5%
合計	876	100.0%

<問4 健康状態>

(1) あなたの健康状態は次のうちどれに近いですか

	n	%
よい	390	32.3%
まあよい	749	62.1%
あまりよくない	59	4.9%
よくない	6	0.5%
無回答	3	0.2%
合計	1207	100.0%

(2) あなたはどのくらい幸せですか

(0 ととても不幸、10 ととても幸せ)

	n	%
0	1	0.1%
1	0	0.0%
2	7	0.6%
3	21	1.7%
4	33	2.7%
5	200	16.6%
6	125	10.4%
7	210	17.4%
8	331	27.5%
9	104	8.6%
10	140	11.6%
無回答	35	2.9%
合計	1207	100.0%

(3) 最近気になっている健康上の不調はありますか

①足腰の痛み

	n	%
非該当	739	61.2%
該当	468	38.8%
合計	1207	100.0%

②体力の低下

	n	%
非該当	588	48.7%
該当	619	51.3%
合計	1207	100.0%

③聴力の低下

	n	%
非該当	961	79.6%
該当	246	20.4%
合計	1207	100.0%

④視力の低下

	n	%
非該当	824	68.3%
該当	383	31.7%
合計	1207	100.0%

⑤認知機能の低下

	n	%
非該当	1164	96.4%
該当	43	3.6%
合計	1207	100.0%

(4) ここ 6 か月で 2-3kg の体重減少があったか

	n	%
はい	172	14.3%
いいえ	1020	84.5%
無回答	15	1.2%
合計	1207	100.0%

(5) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか

	n	%
はい	682	56.5%
いいえ	508	42.1%
無回答	17	1.4%
合計	1207	100.0%

(6) ウォーキング等の運動を週に 1 回以上していますか

	n	%
はい	860	71.3%
いいえ	329	27.3%
無回答	18	1.5%
合計	1207	100.0%

(7) なるべく体を動かすようにしていますか

	n	%
はい	1111	92.0%
いいえ	80	6.6%
無回答	16	1.3%
合計	1207	100.0%

(8) (ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがする

	n	%
はい	260	21.5%
いいえ	927	76.8%
無回答	20	1.7%
合計	1207	100.0%

(9) 過去 1 年間に転んだ経験はありますか

	n	%
はい	227	18.8%
いいえ	966	80.0%
無回答	14	1.2%
合計	1207	100.0%

(10) 転倒に対する不安は大きいですか

	n	%
とても不安である	72	6.0%
やや不安である	421	34.9%
あまり不安ではない	451	37.4%
不安ではない	239	19.8%
無回答	24	2.0%
合計	1207	100.0%

(11) 日頃、健康のためにどのようなことを心がけていますか

①健康診断を定期的に受ける

	n	%
非該当	331	27.4%
該当	876	72.6%
合計	1207	100.0%

②十分な休養や睡眠をとる

	n	%
非該当	358	29.7%
該当	849	70.3%
合計	1207	100.0%

③栄養バランスのよい食事をする

	n	%
非該当	401	33.2%
該当	806	66.8%
合計	1207	100.0%

④散歩やスポーツをする

	n	%
非該当	493	40.8%
該当	714	59.2%
合計	1207	100.0%

⑤気持ちをなるべく明るく保つ

	n	%
非該当	582	48.2%
該当	625	51.8%
合計	1207	100.0%

⑥趣味を持つ

	n	%
非該当	631	52.3%
該当	576	47.7%
合計	1207	100.0%

⑦医療・健康の知識を持つ

	n	%
非該当	775	64.2%
該当	432	35.8%
合計	1207	100.0%

⑧酒やタバコを控える（やめる）

	n	%
非該当	974	80.7%
該当	233	19.3%
合計	1207	100.0%

⑨地域の活動に参加する

	n	%
非該当	932	77.2%
該当	275	22.8%
合計	1207	100.0%

(12) 以下①-⑤についてお答えください

①財布や鍵等、物を置いた場所がわからなくなることもある

	n	%
全くない	509	42.2%
時々ある	665	55.1%
頻繁にある	17	1.4%
いつもそう	0	0.0%
無回答	16	1.3%
合計	1207	100.0%

③周りに「いつも同じ事を聞く」等のもの忘れがあると言われる

	n	%
全くない	897	74.3%
時々ある	277	22.9%
頻繁にある	6	0.5%
いつもそう	1	0.1%
無回答	26	2.2%
合計	1207	100.0%

⑤言おうとしている言葉がすぐに出ないことがある

	n	%
全くない	355	29.4%
時々ある	790	65.5%
頻繁にある	41	3.4%
いつもそう	3	0.2%
無回答	18	1.5%
合計	1207	100.0%

②5分前に聞いた話を思い出せないことがある

	n	%
全くない	758	62.8%
時々ある	420	34.8%
頻繁にある	7	0.6%
いつもそう	2	0.2%
無回答	20	1.7%
合計	1207	100.0%

④今日が何月何日かわからないときがある

	n	%
全くない	894	74.1%
時々ある	289	23.9%
頻繁にある	7	0.6%
いつもそう	0	0.0%
無回答	17	1.4%
合計	1207	100.0%

(13) 以下①-⑤についてお答えください

①貯金の出し入れ、家賃や公共料金の
支払いは一人でできる

	n	%
問題なくできる	1049	86.9%
大体できる	112	9.3%
あまりできない	19	1.6%
できない	8	0.7%
無回答	19	1.6%
合計	1207	100.0%

③自分で掃除機やほうきを使って掃除
ができる

	n	%
問題なくできる	1120	92.8%
大体できる	62	5.1%
あまりできない	6	0.5%
できない	2	0.2%
無回答	17	1.4%
合計	1207	100.0%

⑤一人で買い物に行ける

	n	%
問題なくできる	1143	94.7%
大体できる	49	4.1%
あまりできない	2	0.2%
できない	0	0.0%
無回答	13	1.1%
合計	1207	100.0%

②バスや電車、自家用車等を使って
一人で外出できる

	n	%
問題なくできる	1131	93.7%
大体できる	60	5.0%
あまりできない	1	0.1%
できない	1	0.1%
無回答	14	1.2%
合計	1207	100.0%

④電話番号を調べて電話をかけるこ
とができる

	n	%
問題なくできる	1135	94.0%
大体できる	55	4.6%
あまりできない	3	0.2%
できない	0	0.0%
無回答	14	1.2%
合計	1207	100.0%

(14) 普段、食事の用意は主にどのようにしていますか

	n	%
自分で作る	603	50.0%
家族が作る	561	46.5%
惣菜を買う	20	1.7%
配食サービスを利用	3	0.2%
外食する	3	0.2%
無回答	17	1.4%
合計	1207	100.0%

(15) 以下の食品について、「ほとんど毎日食べるもの」は何ですか

①肉類

	n	%
非該当	596	49.4%
該当	611	50.6%
合計	1207	100.0%

②魚介類

	n	%
非該当	604	50.0%
該当	603	50.0%
合計	1207	100.0%

③卵

	n	%
非該当	459	38.0%
該当	748	62.0%
合計	1207	100.0%

④大豆・大豆製品

	n	%
非該当	422	35.0%
該当	785	65.0%
合計	1207	100.0%

⑤牛乳・乳製品

	n	%
非該当	368	30.5%
該当	839	69.5%
合計	1207	100.0%

⑥緑黄色野菜

	n	%
非該当	236	19.6%
該当	971	80.4%
合計	1207	100.0%

⑦海藻類

	n	%
非該当	799	66.2%
該当	408	33.8%
合計	1207	100.0%

⑧いも

	n	%
非該当	1015	84.1%
該当	192	15.9%
合計	1207	100.0%

⑨果物		
	n	%
非該当	631	52.3%
該当	576	47.7%
合計	1207	100.0%

⑩油脂を使った料理		
	n	%
非該当	883	73.2%
該当	324	26.8%
合計	1207	100.0%

<問5 基本属性>

(1) 性別と年齢はP. 13掲載のため省略

(2) 家族構成を教えてください

	n	%
一人暮らし	226	18.7%
夫婦二人暮らし	582	48.2%
息子・娘との2世帯	197	16.3%
その他	179	14.8%
無回答	23	1.9%
合計	1207	100.0%

(3) 現在の経済状況をどのように感じていますか

	n	%
とても満足	56	4.6%
まあ満足	685	56.8%
やや不満足	352	29.2%
とても不満足	89	7.4%
無回答	25	2.1%
合計	1207	100.0%

(4) 最後に卒業された学校を教えてください

	n	%
小中学校	74	6.1%
高等学校	574	47.6%
専門学校・(短期)大学・大学院	511	42.3%
回答を控えたい、選択肢にない	20	1.7%
無回答	28	2.3%
合計	1207	100.0%

(5) 普段、家事(炊事、掃除、買い物等)をしていますか。

	n	%
していない	185	15.3%
している	927	76.8%
無回答	95	7.9%
合計	1207	100.0%

それは1日に何時間くらいですか
((5)「している」927名が対象)

	n	%
1時間程度	381	41.1%
2-3時間	360	38.8%
4-5時間	103	11.1%
6時間以上	39	4.2%
無回答	44	4.7%
合計	927	100.0%

(6) 普段、家族の介護をしていますか

	n	%
していない	1125	93.2%
している	40	3.3%
無回答	42	3.5%
合計	1207	100.0%

それは1日に何時間くらいですか
((6)「している」40名が対象)

	n	%
1時間程度	10	25.0%
2-3時間	17	42.5%
4-5時間	2	5.0%
6時間以上	6	15.0%
無回答	5	12.5%
合計	40	100.0%

(7) 普段、スマートフォンやタブレットをどのように利用していますか

①利用していない

	n	%
非該当	1109	91.9%
該当	98	8.1%
合計	1207	100.0%

②電話・メール

	n	%
非該当	154	12.8%
該当	1053	87.2%
合計	1207	100.0%

③LINE

	n	%
非該当	393	32.6%
該当	814	67.4%
合計	1207	100.0%

④SNS(フェイスブック、インスタグラム等)

	n	%
非該当	1024	84.8%
該当	183	15.2%
合計	1207	100.0%

⑤検索・情報収集		
	n	%
非該当	394	32.6%
該当	813	67.4%
合計	1207	100.0%

⑥カメラ撮影		
	n	%
非該当	425	35.2%
該当	782	64.8%
合計	1207	100.0%

⑦地図機能（経路案内等）		
	n	%
非該当	703	58.2%
該当	504	41.8%
合計	1207	100.0%

⑧スマスマ（会員専用サイト）		
	n	%
非該当	996	82.5%
該当	211	17.5%
合計	1207	100.0%

問6 <SCの仲間の会員同士の支え合い>

(1) センターの就業仲間で、健康状態が心配な人はいますか

	n	%
思い当たる	91	8.5%
思い当たらない	747	83.1%
無回答	59	8.4%
合計	897	100.0%

以下(2)は「思い当たる」91名を対象とした。

(2) どのような状態が心配ですか

①重いものを運べない

	n	%
非該当	74	81.3%
該当	17	18.7%
合計	91	100.0%

②足がふらつく

	n	%
非該当	75	82.4%
該当	16	17.6%
合計	91	100.0%

③車の運転が危ない

	n	%
非該当	77	84.6%
該当	14	15.4%
合計	91	100.0%

④時間通りに来ない

	n	%
非該当	81	89.0%
該当	10	11.0%
合計	91	100.0%

⑤約束事を忘れる		
	n	%
非該当	78	85.7%
該当	13	14.3%
合計	91	100.0%

⑥同じ事を何度も聞く		
	n	%
非該当	82	90.1%
該当	9	9.9%
合計	91	100.0%

⑦作業に漏れがある		
	n	%
非該当	62	68.1%
該当	29	31.9%
合計	91	100.0%

⑧その他		
	n	%
非該当	72	79.1%
該当	19	20.9%
合計	91	100.0%

「その他」の回答内容

(昔の仲間)認知症ぎみ
ケガをした。
リハビリ中
休んでる
言うことをきかない
腰痛
仕事の邪魔をする、忙しくなると、パニックにおち入る、
仕事内容を理解できていない。
治療中。
耳が遠い
体調
通院している
入院しても来てる
認知初期
発言が心配
腹痛などの健康状態
忘れ物が多い

(3) その方に対して、就業上のサポートをしたことがありますか

① していない

	n	%
非該当	74	81.3%
該当	17	18.7%
合計	91	100.0%

※以下②～⑦は、①で「非該当」74名を対象とした。

②軽作業を割り振る

	n	%
非該当	61	82.4%
該当	13	17.6%
合計	74	100.0%

③作業を代わる

	n	%
非該当	48	82.4%
該当	26	17.6%
合計	74	100.0%

④作業の点検・補助

	n	%
非該当	48	64.9%
該当	26	35.1%
合計	74	100.0%

⑤作業日時の再連絡

	n	%
非該当	69	93.2%
該当	5	6.8%
合計	74	100.0%

⑥移動の手助け

	n	%
非該当	66	89.2%
該当	8	10.8%
合計	74	100.0%

⑦その他

	n	%
非該当	56	75.7%
該当	18	24.3%
合計	74	100.0%

その他の回答内容

TELやメール

センターからの文書等、読んでいるのか？理解していない

勤務日が違うのでサポートは出来ないが、本人が出勤しない日が目立つ(じん臓病)

作業内容の周知。

耳が聞こえにくいようでした。

手伝う。

声がけする

仲間で話し合う、長と話し合った。

注意喚起したら逆切れされた。

熱中症になり、救急車で病院へ。運んだ。

聞かれた事は教えてあげてます。

本人に意志確認をしている

翌日、メモなどで注意

話しても従わない。

2. 調査資料(アンケート票、インタビューガイド)

「認知症の人にやさしい地域づくり」に向けた 暮らしと健康のアンケート調査

【調査の主旨】

- 認知症の人を含めた国民一人一人が支え合いながら、共生する社会の実現に向け、今年 認知症基本法が施行されました。
- 地域で活躍する我々シルバー人材センターは、地域の福祉を支えるサポーターになることが期待されています。
- 一人一人が他人事ではなく我が事として、認知症を捉え、理解を深めることが、認知症の人にやさしい地域づくりの重要な一歩です。
- 本調査は、センター会員の皆さんの認知症へのイメージや暮らしの状況を把握することを目的としています。本調査で得た情報は、今後の研修会やセンター運営に活かしてまいります。

- ご協力いただきたいこと -

- 次頁からの調査票(20分程度)に回答し、返送用封筒に入れ、7月22日(月)までに投函してください(切手不要)。
- 調査票にご回答いただいた方には、センターのポイント(50P)付与、調査結果の報告会へご招待させていただきます。

- 個人情報取り扱い等 -

- 調査票は匿名回答であり、個人が特定されることはありません。封筒の番号は分析機関が、データ管理に用いるものであり、個人を特定するためのものではありません。
- 回答した調査票は、分析機関(認知症介護研究・研修仙台センター)に直接郵送され、集計されるため、シルバー人材センターの事務局職員が、回答内容を見ることはありません。
- 回答内容によって、仕事の提供に支障が出るなどの不利益は一切ございません。
- 調査へのご協力は任意であり、答えたくない質問にはお答えいただかなくて構いません。
- 調査の結果は、今後の研修会やセンター運営および学術研究に利用させていただきます。
- 調査票のご返送をもって、調査協力にご同意いただいたものとみなさせていただきます。ご返送後に同意の撤回をご希望の場合は、仙台市シルバー人材センターまでご連絡ください。

以下の質問について、当てはまる番号に○をしてください

問1. 認知症の人との関わり・イメージについて

(1) センターの就業等の活動時に、以下の状況に出くわしたことがありますか	ある	ない
① 高齢の発注者が、会話のつじつまが合わず、同じ話を何回もする	1	2
② 高齢の発注者が、仕事の依頼を忘れてしまっている	1	2
③ 高齢の発注者の、身だしなみが崩れている(汚れている、季節に合わない衣服等)	1	2
④ 高齢の発注者から、物がなくなったと言われたことがある	1	2
⑤ 地域に、新聞や郵便物がポストにたまっている家がある	1	2
⑥ 地域に、同じ洗濯物が何日も干しっぱなしの家がある	1	2
⑦ 地域に、庭が荒れている(雑草だらけ、ゴミがあふれている)家がある	1	2
⑧ 地域に、電気が全くつかない、もしくは1日中つけっぱなしの家がある	1	2
⑨ 地域に、怒鳴り声や悲鳴が聞こえる家がある	1	2

(2) 上記①～⑨で1つでも「ある」と回答した方にお聞きします。
 当時、シルバー人材センター事務局や警察等に相談しましたか

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(3) 認知症の人へのイメージについてお聞きします

	全く そう思 わない	やや そう思 わない	やや そう 思う	そう 思う
① 認知症の人でも周りの人と仲良くする能力がある	1	2	3	4
② 普段の生活でもっと認知症の人と関わる機会があってもよい	1	2	3	4
③ 認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる	1	2	3	4
④ 認知症の人でも地域活動に参加した方がよい	1	2	3	4
⑤ 認知症の人は周りの人を困らせることが多い	1	2	3	4
⑥ 認知症の人はわれわれと違う感情を持っている	1	2	3	4
⑦ 認知症の人と喜びや楽しみを分かち合える	1	2	3	4
⑧ 認知症の人とちゅうちょなく話せる	1	2	3	4
⑨ 家族が認知症になったら、世間体や周囲の目が気になる	1	2	3	4
⑩ 家族が認知症になったら、近所づきあいがしにくくなる	1	2	3	4
⑪ 認知症の人が自分の家の隣に引っ越してきてもかまわない	1	2	3	4
⑫ 認知症の人を支えるには、色々な人の力をかりるのがよい	1	2	3	4
⑬ 認知症の人の行動は、理解できない	1	2	3	4
⑭ 認知症の人はいつ何をするかわからない	1	2	3	4
⑮ 認知症の人とは、できる限り関わりたくない	1	2	3	4

(4) 家族や身内に、認知症の診断を受けた方がいますか

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(5) 認知症に関する研修や勉強会に参加したことがありますか

1. はい 2. いいえ

(6) 認知症に関する地域の相談窓口を知っていますか

1. はい 2. いいえ

(7) 介護などの福祉に関わる就業・活動をしてみたいですか

1. はい 2. いいえ

問2. 地域・人とのつながりについて

(1) あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか

1.とてもある 2.まあある 3.どちらとも言えない 4.あまりない 5.ない

(2) 普段、近所の人とはどのようなお付き合いをしていますか(当てはまる全てに○)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 会えば挨拶をする | 2. 外でちょっと立ち話をする |
| 3. 物をあげたり・もらったりする | 4. 相談事があった時、相談したり・されたりする |
| 5. お茶や食事を一緒にする | 6. 趣味をともにする |
| 7. 家事やちょっとした用事をしたり・してもらう | 8. 病気の時に助け合う |

(3) 地域で困っている人がいたら、助けようと思いますか

1.積極的に助けようと思う 2.助けようと思う 3.あまり助けようと思わない 4.助けようと思わない

(4) センター以外で、以下の活動にどのくらいの頻度で参加していますか

	週4回以上	週2-3回	週1回	月1-3回	年数回	なし
① センター以外の就業	1	2	3	4	5	6
② センター以外のボランティア	1	2	3	4	5	6
③ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
④ スポーツ関係の集まり	1	2	3	4	5	6
⑤ 趣味関係の集まり	1	2	3	4	5	6
⑥ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑦ 友人との集まり	1	2	3	4	5	6
⑧ 親戚での集まり	1	2	3	4	5	6

(5) 週にどのくらい外出していますか

1.ほとんど外出してない 2.週1回程度 3.週2-4回 4.週5回以上

(6) 病気で数日寝込んだ時に、看病してくれる人はいますか

1. はい 2. いいえ

(7) 心配事や愚痴を聞いてくれる人はいますか

1. はい 2. いいえ

問3. センターでの活動について

(1) センターに入会して何年ですか(今年入会の場合:「0年」)

		年
--	--	---

(2) 現在、どのくらいの頻度でセンターの仕事(就業)をしていますか

1.週4回以上	2.週2-3回	3.週1回	4.月1-3回	5.年数回	6.していない
---------	---------	-------	---------	-------	---------

(3) 1回の就業時間はどのくらいですか

1.5時間以上	2.3-4時間	3.1-2時間	4.1時間未満	5.していない
---------	---------	---------	---------	---------

(4) 主に従事している仕事内容は何ですか(主にしている仕事1つに○)

1. 植木の剪定	2. 除草作業 (機械刈り・手刈り)	3. 屋外の清掃、 洗車後の拭き上げ	4. スーパーのカート整理 品出し、商品管理
5. 施設管理(公共施設・マンション等)	6. チラシ配布、 メーター検針・調査	7. 事務仕事(封入、書類 整理、データ入力等)	8. 家事援助
9. その他()			10. していない

(5) 現在のセンターでの仕事について、お答えください。

	そうだ	まあ そうだ	あまりそう ではない	そうでは ない
① 自分のペースで仕事ができる	1	2	3	4
② 仕事内容は、自分に合っていると思う	1	2	3	4
③ からだ(体力や筋力)をよく使う仕事である	1	2	3	4
④ あたま(注意力や集中力)をよく使う仕事である	1	2	3	4
⑤ 対人スキル(発注者や仲間との意思疎通)が必要である	1	2	3	4
⑥ 仕事仲間に、愚痴や心配事を話すことができる	1	2	3	4
⑦ 仕事仲間は、困っていることがあると助けてくれる	1	2	3	4

(6) これまで就業中にケガや体調不良になった経験はありますか

1.ある	2.少しある	3.あまりない	4. ない
------	--------	---------	-------

問4. 健康状態について

(1) あなたの健康状態は次のうちどれに近いですか

1.よい	2.まあよい	3.あまりよくない	4. よくない
------	--------	-----------	---------

(2) あなたはどのくらい幸せですか。あてはまる番号に○をしてください

とても不幸 とても幸せ
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

(3) 最近気になっている健康上の不調はありますか(当てはまる全てに○)

1. 足腰の痛み	2. 体力の低下	3. 聴力の低下	4. 視力の低下	5. 認知機能の低下
----------	----------	----------	----------	------------

(4) ここ6か月で2-3kgの体重減少がありましたか

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(5)以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか

1. はい 2. いいえ

(6)ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか

1. はい 2. いいえ

(7)なるべく体を動かすようにしていますか

1. はい 2. いいえ

(8)(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする

1. はい 2. いいえ

(9)過去1年間に転んだ経験はありますか

1. はい 2. いいえ

(10)転倒に対する不安は大きいですか

1.とても不安である 2.やや不安である 3.あまり不安ではない 4.不安ではない

(11)日頃、健康のためにどのようなことを心がけていますか(当てはまる全てに○)

1.健康診断を定期的にする 2.十分な休養や睡眠をとる 3.栄養バランスのよい食事をする
4.散歩やスポーツをする 5.気持ちをなるべく明るく保つ 6.趣味をもつ
7.医療・健康の知識を持つ 8.酒やタバコを控える(やめる) 9.地域の活動に参加する

(12)以下①-⑤についてお答えください

	全く ない	時々 ある	頻繁 にある	いつも そう
① 財布や鍵等、物を置いた場所がわからなくなることがある	1	2	3	4
② 5分前に聞いた話を思い出せないことがある	1	2	3	4
③ 周りに「いつも同じ事を聞く」等のもの忘れがあるとされる	1	2	3	4
④ 今日が何月何日かわからないときがある	1	2	3	4
⑤ 言おうとしている言葉が、すぐに出てこないことがある	1	2	3	4

(13) 以下①-⑤についてお答えください

	問題なく できる	大体 できる	あまり できない	でき ない
① 貯金の出入れ、家賃や公共料金の支払は一人でできる	1	2	3	4
② バスや電車、自家用車等を使って一人で外出できる	1	2	3	4
③ 自分で掃除機やほうきを使って掃除ができる	1	2	3	4
④ 電話番号を調べて、電話をかけることができる	1	2	3	4
⑤ 一人で買い物に行ける	1	2	3	4

(14)普段、食事の用意は主にどのようにしていますか

1.自分で作る 2.家族が作る 3.総菜を買う 4.配食サービスを利用 5.外食する

(15)以下の食品について、「ほとんど毎日食べるもの」は何ですか(当てはまる全てに○)

1.肉類	2.魚介類	3.卵	4.大豆・大豆製品	5.牛乳・乳製品
6.緑黄色野菜	7.海藻類	8.いも	9.果物	10.油を使った料理

問5. あなた自身のことについて

(1) あなたの年齢・性別

		歳
--	--	---

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(2) 家族構成を教えてください

1. 一人暮らし	2. 夫婦二人暮らし	3. 息子・娘との2世帯	4. その他
----------	------------	--------------	--------

(3) 現在の経済状況をどのように感じていますか

1. とても満足	2. まあ満足	3. やや不満足	4. とても不満足
----------	---------	----------	-----------

(4) 最後に卒業された学校を教えてください

1. 小・中学校	2. 高等学校	3. 専門学校・(短期)大学・大学院	4. 回答を控えたい、選択肢にない
----------	---------	--------------------	-------------------

(5) 普段、家事(炊事、掃除、買い物等)をしていますか。それは1日に何時間くらいですか

1. していない 2. している → 約

--	--

 時間

(6) 普段、家族の介護をしていますか。それは1日に何時間くらいですか

1. していない 2. している → 約

--	--

 時間

(7) 普段、スマートフォンやタブレットをどのように利用していますか(当てはまる全てに○)

1. 利用していない	2. 電話・メール	3. LINE	4. SNS(フェイスブック、インスタ等)
5. 検索・情報収集	6. カメラ撮影	7. 地図機能(経路案内等)	8. スマスマ(会員専用サイト)

問6. センターの仲間の会員同士での支え合いについて

(1) センターの就業仲間で、健康状態が心配な人はいますか

1. 思い当たる	2. 思い当たらない → <アンケートは終了です>
----------	---------------------------

↓
(2) どのような状態が心配ですか(当てはまる全てに○)

1. 重い物を運べない	2. 足がふらつく	3. 車の運転が危ない	4. 時間通りに来ない
5. 約束事を忘れる	6. 同じ事を何度も聞く	7. 作業に漏れがある	8. その他()

(3) その方に対して、就業上のサポートをしたことがありますか(当てはまる全てに○)

1. していない	2. 軽作業を割り振る	3. 作業を代わる	4. 作業の点検・補助
5. 作業日時の再連絡	6. 移動の手助け	7. その他()	

(4) サポートの内容について、詳しくお話をお伺いしたいのですが(※個人名は聞きません)、後日インタビュー(約30分、秋頃予定)にご協力いただけますか。

1. 協力できる	2. 協力できない
----------	-----------

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

インタビューガイド

1. インタビューで準備するもの

録音機器2台、時計、記録用メモ用紙、筆記用具（同意書記入用、インタビューアの記録用）

2. インタビューの流れ

- ① 簡単な自己紹介、調査趣旨の説明（研究説明書を配布）、同意書の記入（同意書を配布）
- ② インタビュー実施（所要時間：30～45分/名）

3. インタビュー内容

以下について、語りの流れに合わせて質問を行う。

- ① 対象者のシルバー人材センターでの活動状況（在籍年数、就労内容、就労頻度など）

- ② 仲間の会員の健康状態が気になることがあるか

・具体的にどのような状態が気になったか

・認知機能はどうか（物忘れや、前までできていた作業が出来なくなっている等）

<発言を促すための具体例>

車の運転が危ない、時間通りに作業場所に来ない、約束事を忘れる、作業の漏れ、様子がおかしい、歩き方がこわばっている、休憩をとらない、ぼーとしている 等

・どのようなサポートをしたか

<発言を促すための具体例>

軽作業を割り振る、作業を代わる、作業の点検・補助、作業日時の再連絡、移動の手助け等 等

- ③ 自身や仲間の会員に認知機能低下があった場合、どのような支援や関係が必要と思うか

<発言を促すための具体例>

接し方を変えず見守ってくれる、仲の良い会員とペアで働く、事務局や会員間での相談しやすい関係性、続けやすい軽易な仕事を割り振ってくれる、定期的な健康測定、健康相談の窓口、公的サービスの紹介 等

「認知症の人にやさしい地域づくり」に向けた
シルバー人材センターの地域福祉への
貢献可能性に関する研究事業
報告書

2025年3月発行

発行者 社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター（森下）
〒989-3201 仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1
TEL (022) 303-7550
